

いま私たちは何ができること



000
36
IIC
LIBRARY



この本を利用するみなさんへ

この本全体のテーマは「いま私たちにできること」です。これは「いま私たちにできることは何だろうか」という、私たち自身への問いかけでもあります。

現在、この日本という社会は安全で安定しているように感じている人が多いでしょう。自分のまわりのことだけを見て、考え、生活していればよいという考え方が主流かもしれません。しかしひとたび地震などの自然災害が起きれば、この社会の安定も非常にもろいことを痛感します。

世界の動きに目を向けると、国家・民族紛争^{こんりゅう}、難民問題、貧困、そしてこれらによる死が、活字・映像として毎日のように飛び込んできます。紛争・対立が原因でひどい貧困に苦しむ人びとが少なくありません。私たちは貧困から死に直面することもなく、高等学校以上の教育を受ける可能性をもっていますが、それはたまたま日本という国に生まれたからにすぎません。

さらに温暖化、酸性雨、熱帯雨林の消失などの地球環境問題があります。人間はこれまで石炭・石油などの資源を使い続け、森林を切り倒して生活してきました。これらは地球に大きな影響をあたえ、いま、この地球環境の保全を考えなければならぬときがきています。

これらの問題は国境を問いません。したがってその解決には国境を越えて地球的規模で取り組むことが必要なのです。また、食料問題を例にとればわかるように、私たちの生活は他の国との相互依存の上に成り立っています。このようなことを考えるためには、他の国の文化やものの考え方、生活・習慣などを理

JICA LIBRARY



1120420131

27954

解・尊重することが大切です。そして地球環境を守り、住みよい人類社会の発展をはかるためには、一人ひとりがどうすればよいかを考え、実行していく必要があります。

この本は、全体が3つの章に分かれています。1章では、地球環境と人びとの文化・生活についての基礎的な知識、2章では、世界の理解と国際協力・援助について、3章では、1、2章をふまえてさらに深く考え、あるいは行動するための情報を得ることを主眼としています。そして各章はそれぞれ「問題把握」「解説」「やってみよう」の3段階の構成になっています。

まずはじめの問題把握の部分を読んでみてください。くわしい解説は次にあります。その内容をふまえた上で、「やってみよう」のところを実際に教室でやってみましょう。ゲームのようにして遊びながら、たとえば「地球環境ビンゴ」では地球環境について、「4つのコーナー」では人間・文化の多様性について考えることができるようになっています。

このテキストはあくまでこれらの問題について考えるための「きっかけ」にすぎません。3章の「私たちにできること」を参考に、巻末のブックリスト、資料などによって調べたり、行動を起こす人もいるかもしれません。特に何もしない人もいるでしょう。しかし、通常の学習で気がつかない「何か」がここにはふくまれていると思います。そしてそれを感じ取り、「自分で考える」ことを始めるきっかけになることを願っています。

この本が、私たちがこの世界をどのように理解し、自分自身に何ができるかを考えるひとつの手がかりになればと思います。

いま私たちにできること 目次



この本を利用するみなさんへ

1章 私たちの住むかけがえのない地球はいま

●地球環境の変動

- ・地球の命と私たち 4
- ・緑の地球が消えている 6
- ・国境を越える汚染 8

- [解説] a. 地球の生命と私たちのカレンダー . . . 10
b. 熱帯雨林の働き 10
c. 石油をそのまま消費すると 11
d. 開発と環境 11
e. 温室効果と温暖化 11

- #### ●やってみよう——地球環境ビンゴ 12
- ・すごろく 14
 - ・網の目の相互依存関係 . . . 15

●世界に住む人びとの生活はいま

- ・多様な文化 16
- ・国際移動 18
- ・「北」と「南」の格差 20

- [解説] a. 「南北問題」と「南南問題」 22
b. 世界情勢の変化と開発援助 23

- #### ●やってみよう——未来をよむ大車輪 24
- ・生きるのに必要なものって!? . 26

2章 世界を理解しよう

- #### ●世界を理解するには 28

●国際協力・援助を理解する

- ・先進工業国を目標に—開発援助の誕生 . 30
- ・ベーシック・ヒューマン・ニーズの援助 . 32
- ・持続可能な開発をめざして 33

- [解説] 日本の援助の歴史と仕組み 34

- [コラム] エピソード 国際協力の現場から . . . 36

●やってみよう——4つのコーナー 37

- ・もしも私たちのクラスが世界なら . 38
- ・イメージと現実 39
- ・写真をよむ 40

3章 私たちにできること

- ・学校でできること 44
- ・家族の理解・協力を得てできること . 46
- ・地域でできること 48
- ・本格的に勉強したい人たちのために . 50
- ・中・高校生、青少年の活動に
ネットワークできる団体 54

おわりに

この本は再生紙を使用しております。

1章 私たちの住む
かけがえのない地球はいま



地球環境の変動 地球の命と私たち



宇宙空間からとられた地球の写真を見たことがありますか？ やみのなかに浮かぶ、透明感のある青い地球の姿はたとえようのない美しさ。その姿を見た宇宙飛行士たちは、そこに生命が確かに存在していることに感動を受けて、かけがえのない地球の大切さを訴えています。

人間がはるかかなたの宇宙に到達して発見したものは、実は私たちの足もとの地球の尊さでした。太陽系のなかで唯一高等生物が生きることができる生命に満ちあふれた「奇蹟の星」、その生命の源である水をたたえた「水の惑星」とよばれているのが私たちの地球です。

地球は、地表から10km上空ではもう空気は薄く、また数十kmの地中は大変な熱をもっています。人類が唯一生きていくことのできるこの地球は、宇宙空間から見ると驚くほど薄っぺらな、膜の中に住んでいるようなものです。

さて、その地球の誕生は約45億年前。そして人類が誕生したのはいまから約400万年前。ずいぶん長い歴史のようですが、地球の歴史に比べたら1000分の1もありません。そして人類の歴史のなかでも文明が生まれたのはわずか6000年ほど前のことなのです。地球が、45億年もかけて人類生存のための準備を整えてくれたとはいえないでしょうか。

ところがいま、人類は何千年も消えない放射性物質を生み出し、それを海や大地に捨てています。また、石油

や石炭という地球の財産を燃やし続け、有害物質であるフロンを大気中に放出して、宇宙からの放射線を直接浴びるのを防ぐオゾン層を破壊し、酸素の源である森林資源を伐採によって枯渇させています。さらに、土壌が荒れ果てて砂漠化する地域が広がっています。

そうした地球環境の破壊が、この「奇蹟の星」に取り返しのつかないダメージをあたえてきたことに、私たちはいまやっと気づきはじめたのです。

1830年代には10億人だった地球の人口は、20世紀に入ってから急激に増え続け、1930年代に20億人、1975年に40億人、そしてもう2～3年で60億人になろうとしています。このままでは21世紀半ばには地球の人口は100億人に達すると予測されている人口爆発ですが、この人口増加の92%は開発途上の国々に集中しています。

このような地球環境問題の発生は、私たちがなにげなしに使っている大気や水、森林が実は世界の人びと全体の生存を支えている大切な共有の資源だということを教えています。だれかがその資源を多く使いすぎると、その分ほかの人びとが迷惑をこうむるのです。共有の資源である地球環境は、後の世代もふくめて地球に住むすべ

ての人に平等にあたえられるものでなくてはなりません。共有の財産として保全しなければなりません。

そのために私たちは、資源のむだ使いや使い捨てといった文明のあり方を見直し、地球環境にあたるダメージを減らすように努力をすることが大切です。

こうした反省の上に、1992年ブラジルで『地球サミット』とよばれる国連環境開発会議が開かれ、地球環境の保全と開発とのバランスを重視する「持続可能な開発」のために世界が手をとりあって協力していく宣言が採択されました。そこでは自然環境の保全だけでなく、貧困や人口問題を解決し、南と北の経済格差をなくし、女性の社会参加をすすめる、教育を普及するなどの社会的な問題も、環境と開発の調和のために大切だと指摘しています。

【参考文献】『地球ウォッチング』平凡社、『日本人宇宙飛行士公式写真記録集』小学館、『地球ノ母なる惑星』小学館、『環境とJICA』、『南と北と南北問題の理解のために』JICAなど。



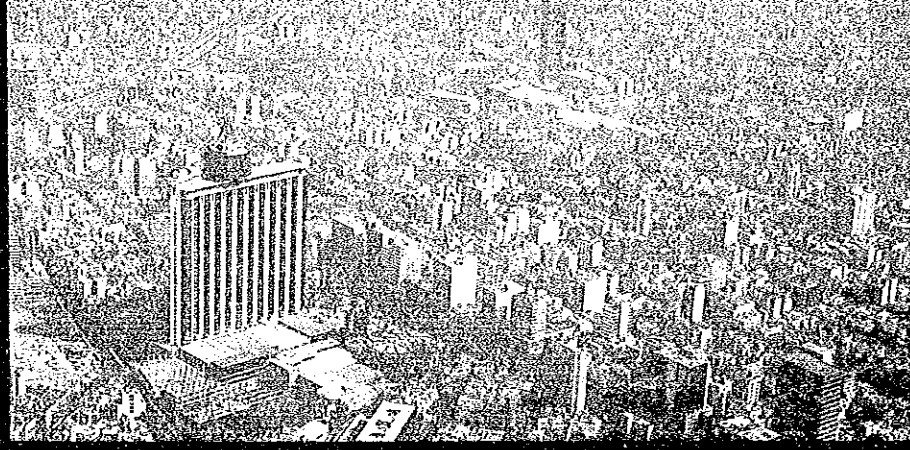
モータリゼーションの波がアジアにも拡大している



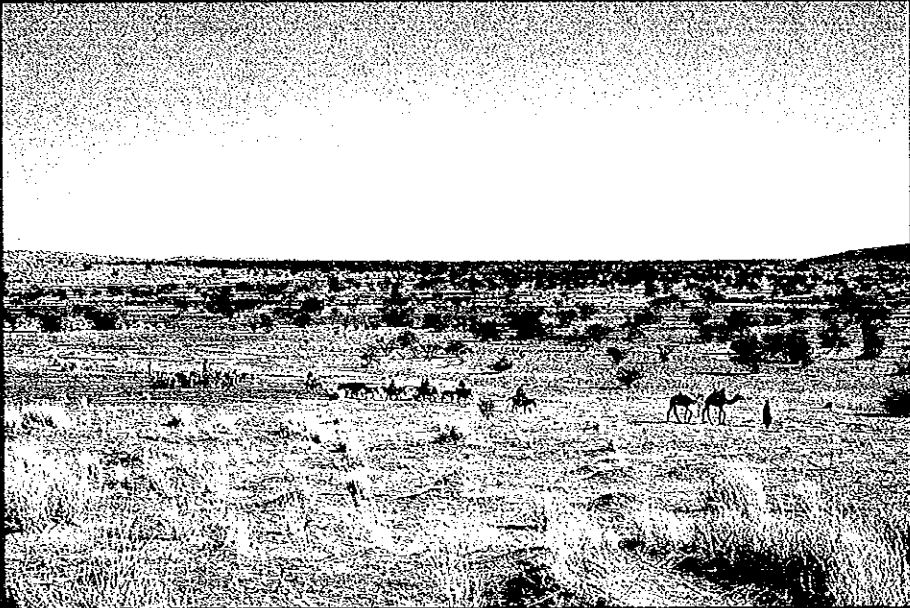
石油の埋蔵量にも限界がある



都市に集中する人びと(中国上海)



大気汚染の進むメキシコシティ



砂漠地帯にも、かつては樹木が繁茂していたところがあった



熱帯雨林が地球上から消えていく

緑の地球が消えている

人間の暮らしが、地球の自然と調和していた時代から、便利さを求め経済優先、大量消費の現代になって、人びとの生活の周辺にあった環境は大きく変わってしまいました。何万年という歳月をかけてつちかわれてきた地球環境は、いま再生不能なほど破壊されています。

アフリカのサハラでは、1968年から大かんばつが漸続的に続き、砂漠が急速に広がっていますが、この「砂漠化」の原因もまた、雨不足といった自然現象だけが原因ではなく、人災の面が指摘されています。サハラ砂漠の南縁に連なるサヘル地帯では、かつてはセネガルアカシアの木が点々と生えていました。この豆科の木は土壌を養い、燃料用のマキともなり、おまけにゴムもとることができて、人びとの生計を支えていました。そして、伐採された後にはアワ、トウモロコシ、小麦などを4~10年にわたって植えつけ、土地がやせると、その土地を休ませることで、再びアカシアが生えてくるという循環が保たれていました。

ところがそうした自然のサイクルを無視して集中的に単一の輸出用作物ばかりを植え、土地を休ませなかったために、何年かに一度おそってくるかんばつや病虫害に対して抵抗力が失われ、あたりの木々は枯れてしまいました。住民は燃料のマキを求めて雑木を伐採し、見渡す限り木立は消えて、砂漠化する地域は急速に広がっています。



水くみはたいへんな重労働



サバナの草原で家畜を育てる

こうしたサヘル地帯の砂漠化を食い止めようと、植林による緑化や食料自給のために活動している民間の国際協力団体（NGO）があります。そのひとつ『緑のサヘル』は、地元住民が使っていた熱効率の悪いカマドの改良を進めています。調査によると10人ほどの家族が、1か月になんと1tものマキを使っていることがわかったからです。このマキの消費量を減らそうと、現地のかじ屋さんに熱効率のよいカマドの製造技術を教え、多くの

人が簡単に入手できるように、実演講習会などを村々で開いて回ったのです。その結果、マキの消費量は3割~5割も少なくなりました。

国連環境計画（UNEP）の調査によると、このように緑の土地が次第に砂漠化している地域は、地球の全陸地の25%にあたる約3600万km²にも及ぶといわれています。

地球環境を守るために、いま、行動しなければ間に合わないことがたくさん起きているのです。



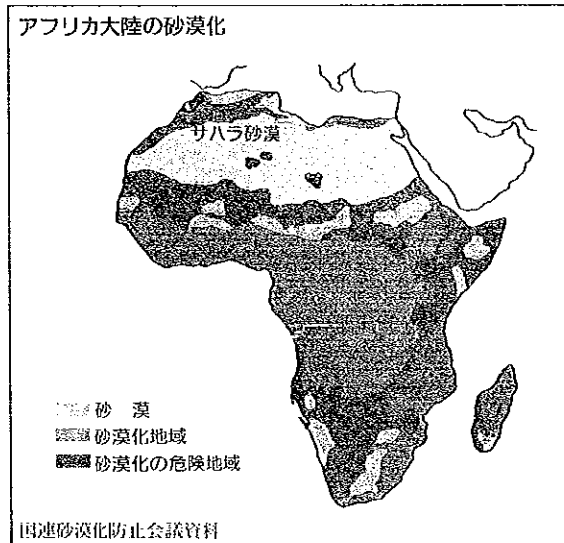
無償資金協力により取り付けられたポンプ(ルワンダ)

たとえば人類にとって貴重な熱帯雨林を守るためには、何ができるでしょうか。アマゾンや東南アジア、アフリカなどの熱帯雨林は私たちの地球に酸素をもたらし、雨を贈る、欠かすことのできない財産です。1960年代～70年代、アフリカのコートジボワールでは熱帯雨林の伐採によって年間約3億ドルの木材輸出がありました。乱伐のために90年代に入ると輸出は10分の1に激減してしまいました。フィリピンではかつて山林だった山はハゲ山となり、いまは熱帯雨林は残り少なくなっているといわれています。

そこで輸出国では丸太輸出の停止や伐採制限がとられるようになりましたが、消費国の側も持続的に管理されている熱帯材だけを使おうと、オランダやオーストラリアなどでは、そのような木材にラベルをはって、ラベルのない乱伐による木材は使わない試みも行われています。

世界最大の木材輸入国であるわが国は、南洋材だけでなく世界中から木材を大量に買い付け、建築材料や合板家具のほか、パルプとして紙の材料に使っています。OA時代をむかえた80年代後半の日本では、印刷・情報用紙だけで1年に4500万t以上も消費しています。

過剰包装をやめたり、新聞や雑誌をできるだけサイクルに回したり、私たち自身が生活をふりかえて、緑の再生に協力し援助することも、地球の資源を持続的に維持するために、少しは役立つでしょう。



燃料の木を集めるサヘル地帯の人びと

【参考文献】朝日新聞データベース「砂漠化防止条約」、「緑のサヘル」活動報告書、日本統計月報、紙パルプ統計月報、世界食料農業白書、「発想転換データ変換」日下公人・ダイヤモンド社、「環境破壊の構図を読む」福岡克也・時事通信社など。

環境問題と地域の生活

森林破壊はグローバルな取り組みが必要な環境問題である。政治・経済・技術面において、各国がバラバラに動いていたのでは、環境を配慮せずに生産性を高めようとする国のエゴによって、地球の環境がどんどん悪くなっていくのは明らかである。

しかし、森林破壊が人類共通の問題であるからといって、それがただちに森林地域に居住する人びとの問題につながるわけではない。それほど世界は同質的な社会からなっているわけではないのである。世界はむしろ、生活の関心や価値観を共有する「地域」というものが、モザイク状に集まってできたものである。そうしたモザイクのなかに住む人にとって、森林とはいろいろな生活物資を得る場であり、さまざまな文化的な意味づけの対象でもある。また森林は、それらの行為を通して形成された彼らの文化や社会を育んだ生活の場である。

森林の保護を考える場合には、やはりそれを「地域」の関心とどう結びつけるのか、地球規模の環境問題をいかに地域の生活・文化の保全と接合させるかということを考えなければならない。

従来の取り組み方は、地域の住民が何百年、何千年という森林の生活を通して形成した、独自の文化的達成に対する配慮が欠如している。アフリカなどの森に住む人びとは、森林を多様な方法で利用し、森林の生態系間に安定した関係を維持してきた。また利潤と効率一辺倒の経済活動による破壊的な影響が、直接に自分たちの生活や地域の生態系におよぶのを避けるようなメカニズムを持っていた。そうした地域社会の安定性と相対的な自律性というものを、やはり森林保護の問題を考えるさいにも考慮する必要がある。

市川光雄（京都大学アフリカ地域研究センター助教授）

国境を越える汚染

地球をとりまく環境汚染には国境がありません。

ヨーロッパや北アメリカで深刻な森林被害を出している酸性雨も、どこの国のどの大気汚染が原因なのかを特定することは困難です。酸性雨は都市の車や工場から発生する硫酸化物や窒素酸化物が大気中の水分と反応して引き起こされますが、その雨は、国境を越えて数百kmもはなれたところで降ることがあるからです。

ドイツの美しい森の代表として有名なシュヴァルツヴァルト(黒い森)は、いまでは3分の2の木々が酸性雨の被害を受けているといわれています。この森の歴史を見ると、実は酸性雨だけが森を枯らす原因ではないことがわかってきました。20世紀に入って、ヨーロッパで都市化が進み製材業が発展すると、大量伐採の後には成長の早い針葉樹が植えられました。そのためそれまでの混合林が減少し、単一的な森になり、森の生命力が失われ、生き物の気配も消えてしまいました。そこに酸性雨がおそったために被害が大きくなってしまったわけです。

こうした反省をふまえて、いま、ドイツではシュヴァルツヴァルトの森にブナなどの落葉樹を増やして、混合林へと再生しようとする動きが高まっています。混合林だと強風や汚染、酸性雨に対しても被害が少ないことがわかってきたからです。

酸性雨の被害は、日本でも起き始めていますが、これは都市化が進み、車の排気ガスや工場からの排煙といっ



酸性雨は国境を越えて被害をもたらす



地球の温暖化が進むと氷がとけ海面が上がる

た先進国特有の大気汚染が原因だといわれています。また他国からの酸性雨の影響も指摘されています。

現代文明の急速な発展によって、人間は大きな利益を得てきました。石油や原子力のエネルギー、空気や水や海や森も、これまではそれを利用することで便利で快適な生活が築かれてきましたが、こうした生活は実際には地球環境に対して大きな負担を負わせているのです。

また産業革命以降、石炭・石油の消費が増加し、二酸化炭素(炭酸ガス)が空気中に大量に放出されるようになりました。空気中の二酸化炭素が2倍に増加すると地上の平均気温が1.5℃~5℃上昇するといわれています。これが地球温暖化とよばれるものですが、気温の急激な上昇は南極や北極の氷をとくとして海面を上昇させ、また、北米やロシアが乾燥する冬などには、乾燥化による大規模森林火災などの、地球規模の災害を引き起こしかねないのです。

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告書によると、この温暖化の原因となっている二酸化炭素の排出量は、世界の人口の4分の1を占めるにすぎない先進工業地域が、世界全体の4分の3を排出しています。また石油・石炭などの一次エネルギーの消費量も先進諸国が7割以上を占めていることを見ても、先進国の便利で快適な生活を支える大量生産・大量消費がこのような結果を招いているといえるでしょう。

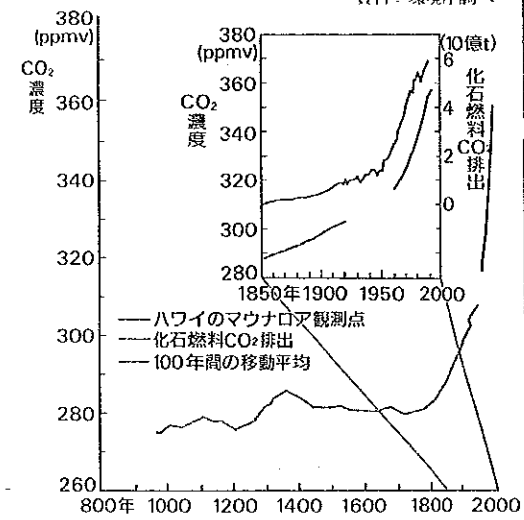
そして実際に温暖化の影響を大きく受けるのは、開発途上の国々なのです。IPCCの地球温暖化レポートでは「最も影響を受けやすいのは開発途上国の人びとであり、低所得者層であり、沿岸の低地や島しょの住民であり、半乾燥地帯の草地にいる住民である。バングラデシュ、中国、エジプトなどの沿岸低地および小さな島しょ国家では、海面上昇による海水の侵入と高波により、住民の大規模な移動が引き起こされうる」として、「30~50cmの海面上昇(2050年までに予想される)は低い島しょや沿岸地帯を脅威にさらすだろう。2100年までの1mの海面上昇は、いくつかの国家を居住不可能なものにしてしまい、何千万の人びとに移住を余儀なくさせ、低地の都市をおびやかす、淡水を汚染し海岸線を変化させるだろう」と警告しています。そして、温暖化防止の対策として、エネルギーの節約やクリーンで効率の高いエネルギー源を利用することや、森林を拡大し、農業のやり方を見直すことなどを提言しています。

*1 IPCC:大気循環の変化が気候、食糧、エネルギー、水資源など社会のあらゆる分野に影響を及ぼし、持続的開発を阻害しかねないという共通の認識を背景に、国際的な取り組みを検討する政府間会議。

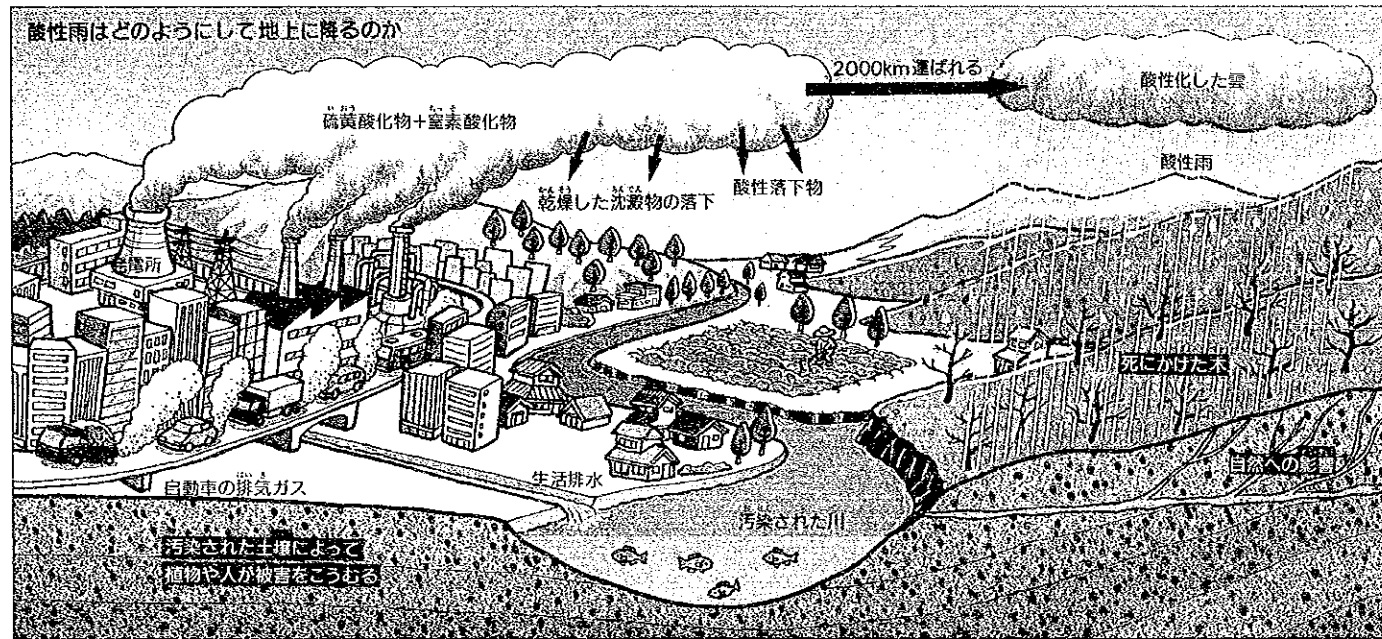
【参考文献】『地球と都市の温暖化』斉藤武雄・森北出版、『地球温暖化を防ぐ』日本放送出版協会、『地球は復讐する』草思社、『NHK特集森林が危ない』日本放送出版協会、『環境破壊の構図を読む』福岡克也・時事通信社、『地球レポート』朝日新聞社、『IPCC地球温暖化レポート』『総合エネルギー統計』など。

空気中の大気汚染物質、主に硫黄酸化物や窒素酸化物が、雨とともに地上に降り注ぎ被害をもたらす。森林を枯らしたり川や湖を酸性にしてしまい、生態系に多大な影響をあたえている。

過去1000年間のCO₂濃度の変化 資料：環境庁調べ



過去1000年の間に大気中のCO₂濃度はどのように変化してきたか、南極の氷床に残された記録を分析してみると、産業革命以降、CO₂濃度が上昇してきたのがわかる。近年の世界の経済活動は車の排気量などを初めとして、化石燃料(石炭、石油)のCO₂排出量を著しく増大させている。このまま進み大気中の温室効果が高まると、地球の気温も大きく変化し、温暖化が早まると予測されている。



資料：『地球ウォッチング』平凡社、『地球にやさしい生活術』TBSブリタニカ他

【解説】 a. 地球の生命と私たちのカレンダー

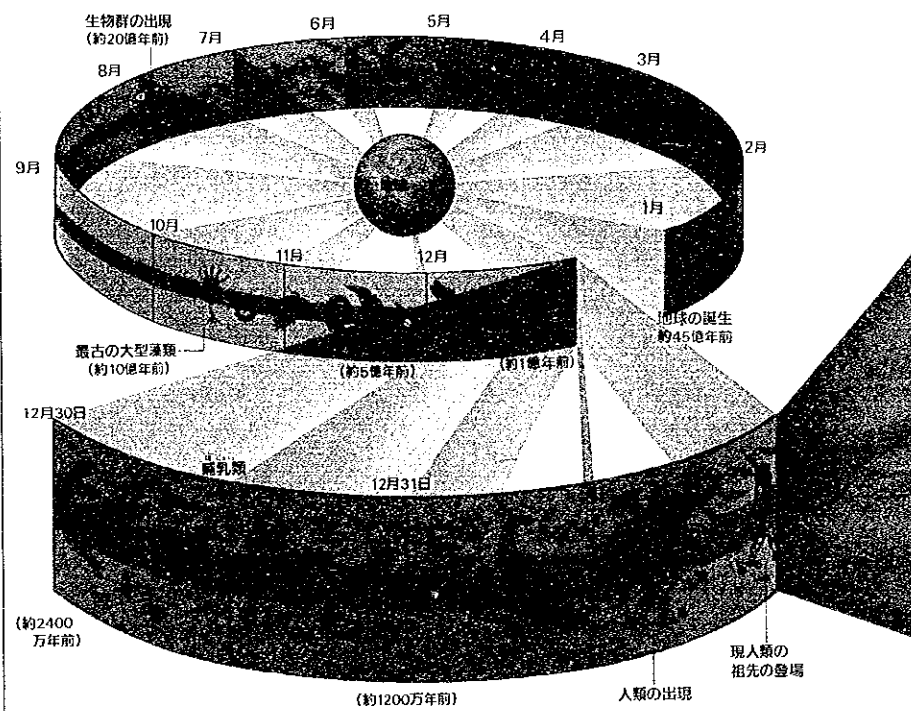
地球の誕生は45億年前だが、その誕生から現在までを1年とすると、人類が登場したのは大みそかの午後4時13分。現人類の祖先である「新人」が登場したのは午後11時55分である。

長い長い地球の生命が続いた最後の瞬間に、人間が登場した。そして文明が生まれたのは大みそかの夜中の11時59分18秒のことだ。

地球環境に決定的なダメージをあたえるようになった第2次世界大戦後の大量生産・大

量消費時代を45年とすると、地球の長い歴史のたった1億分の1。たった1億分の1しかない私たちの現代の文明が、長い地球の歩みを破壊しようとしているとしたら、それは生命の源である地球に対する、人間の言とくたといえる。次の1年に人間が地球とともに生きられるかは、いまの私たちの「知恵」と「決意」にかかっている。

【参考文献】『地球ウォッチング』平凡社



資料:『地球ウォッチング』平凡社

【解説】 b. 熱帯雨林の働き

地球上に人間が古代文明を築いたころ、地球は緑に包まれ、とくに熱帯の陸地は豊かな熱帯雨林におおわれていた。ところが現在では激減、陸地の6%、約9億haしか残っていない。国連食糧農業機関（FAO）によると毎年日本の国土の31%に相当する1130万haの熱帯雨林が地球上から消えているという。

熱帯雨林の生態は繊細な均衡状態を保っている。30mを越える樹木にはツクヤシダがまきつき、土壌には枯れ葉が重なり、じゅうたんのよう地面をおおっている。そこには驚くほど多種多様な動植物が生息している。1000万種とも5000万種ともいわれる地球上の動植物の半分が熱帯雨林に存在しているといわれる。しかし樹木の下熱帯土壌は非常に薄くやせていて、ひとたび伐採

などで破壊されると、土壌をおおっている腐食土の層が雨で洗い流されてしまう。そうするとわき水や地下水を補給する力はおとろえ、土は熱帯気候の強い太陽の熱にさらされ、かたく焼き上がって、ついには二度と樹木を自生させる力をとりもどせなくなる。

伐採などによる森の減少によって、熱帯動植物が危機にひんすると、生態系や森に依拠して生きる人びと、さらに地球全体にも大きな影響をあたえることになる。

【解説】c. 石油をそのまま消費すると

日本人1人あたりの石油消費量は年間約2.5kl。これは18ℓ入りの灯油缶で140個近い石油を使っている計算だ。しかもその99.7%を外国からの輸入にたよっているのだが、いったいこの地球上に石油はあとどのくらいまっているのだろうか。

1993年の時点で、確認されている採掘できる量は約1600億kl。これを生産量で割ると、全世界がいまのように生産していくと、43～46年分が残っている。

ところが国によって採掘可能な埋蔵量は大きく違って、アメリカが9～10年、カナダが9年なのに比べ、中東全体で95～104年。なかでもクウェートが150～300年、イラクが600年以上と群をぬいている。

しかし、もしも世界中の人たちが私たち日本人のように石油を使ったら、たった14年ほどで使いきってしまうことになる。

【参考文献】石油連盟資料、『石油のQ&A』『総合エネルギー統計』

【解説】d. 開発と環境

45億年の歴史をもつ地球。その地球上に生まれ進化してきた動植物。私たち人間もその仲間だ。地球が健康だったからいまの私たちがいる。一方、いまの地球も動植物によってつくられてきた。地球がこれだけの動植物を生み、育ててくれたのは太古の時代に植物が酸素をつくったからだ。豊かな大地はバクテリア、昆虫、植物がつくりあげている。おたがいがおたがいを必要とし、ともに進化していくというのが地球と動植物の関係だ。いま動植物のなかで私たち人間「属」の行動が地球と動植物の関係に大きな影響をあたえはじめ



巨大タンカーの事故は大気汚染と海洋汚染をもたらす

た。とくにいわゆる「開発」が環境にあたえる影響は大きい。環境に配慮しない開発は、地球と動植物の関係を断ち切り、最終的には人間「属」の生命の基盤をくずす結果となる。

先進国は豊かさを追求してきたが、環境配慮に欠け、その結果、生態系をおびやかす、途上国との経済格差が広がった。この格差を縮めようと途上国は、かつての共生関係を尊重したやり方を顧みずに、先進国の手法による開発を行い、生態系破壊に拍車がかかっている。そして貧困の増大、人口増加、債務の重圧、国家管理の不徹底なども、環境配慮欠如の原因となっている。また先進国の環境配慮もいまだに決して十分とはいえない。このような地球の動植物の関係を断ち切るような動きは、まだ減少のきざしを見せてはいない。



中部パラグアイ森林造成プロジェクト

【解説】e. 温室効果と温暖化

地球の気温は何千年もかかってわずかずつ自然変化を起こしてきた。1万8000年前の地球の気温は今より5～6℃低く、6000年前には逆に2℃高かったといわれている。

アメリカのアシモフ博士によると、南極大陸ではマツや石炭、木の幹、アンモナイトのほかに熱帯性ジャングルに繁茂していた植物の葉の化石が発見され、南極には森が生い繁っていたという。また、緑の丘があり、極点近くには川も流れていて、気温は現在よりも20℃も高い10℃ほどだったろうという報告もある。

こうした長い時間における自然の変化からいって、現在の地球は次の氷河期に向かって寒冷化しているはず。しかしこの100年の気候の変化を見ると、逆に温暖化が進んでいる。つまり、この100年で地球は明らかに自然でな

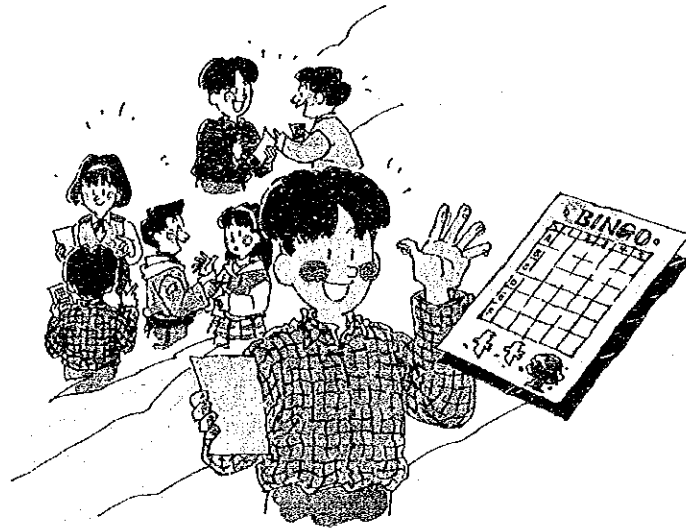
い変化をとげてきていることになる。

大気中には水蒸気やオゾンといった、自然に温室効果をもつガスがふくまれて地球の温度を生物がすむのに適するように温めている。ところが石炭や石油などの大量消費によって大気中の二酸化炭素が増加し、またフロンやメタンの排出などが温室効果をさらに強め、自然のリズムをこえた温暖化が起きている。そこで、オゾン層破壊を防止するためフロンガスの使用を中止したり、石炭・石油燃料からエネルギーを転換することなどが早急に必要とされている。

【参考文献】『地球温暖化を防ぐ』日本放送出版協会、『地球は復興する』草思社、『地球ウォッチング』平凡社、『環境破壊の構図を読む』福岡克也・時事通信社、『アシモフ博士の新地球論』法政大学出版局、『IPCC地球温暖化レポート』『地球温暖化監視レポート』(気象庁編)

●やってみよう

地球環境 ビンゴ



ねらい

ゲーム感覚で楽しみながら、環境に対する気づきをうながし、認識を深める。

準備するもの

プリント「地球環境ビンゴ」1人1枚、筆記用具

進め方

1. 全員にプリント「地球環境ビンゴ」を配り、各自、筆記用具を用意する。
2. 五目並べの要領で行う。
全員が室内を動き回りながらいろいろな人に話しかけ、プリントの1～25の質問に「はい」と答えられる人を探す。「はい」と答えられた人には、具体的な説明をしてもらい、プリントのマス目の質問番号に該当するマスの中にその人の名前を書いてもらう。
例)「2 主に環境に関することをあつかっている政府の省庁はどこか知っていますか」に「はい」と答えた人に省庁名を言ってもらい、2の番号のあるマスの中にその人の名前を書いてもらう。ただし、回答が明らかに誤りであると確信した場合のみ、相手にそのことを伝えて別の質問をする。
3. 同様にしてそれぞれのマス目を異なる人の名前で埋めていく。5つのマス目が縦、横、斜めのいずれかの方向に1列にうまったら「ビンゴ」のできあがり。
4. 「ビンゴ」ができたら、大きな声で「ビンゴ!」と言い、最初に言った人が勝ちとなる。3人まで「ビンゴ!」の聲がかかったらゲームオーバー。
5. 勝った人は、できたビンゴに名前を書いてくれた人をみんなの前で紹介し、それぞれの人に質問に対する具体的な回答をしてもらう。もし回答が違っていたら、その人は「勝ち」というわけにはいかないの

で、時間があれば次の人にゆずる。

6. 環境保護のために自分たちのできることを話し合う。

応用：プリントの質問をクイズ問題に変えても楽しい。

下の例を参考にみんなで質問を考えよう。

例)

1. 世界で紙の使用量が最も多い上位3国は?
2. 世界の森林面積は100年前を100とすると、現在はどれくらい?
3. 日本で1日に作られる牛乳パックを針葉樹(高さ8m、直径14cmの20年生)に換算すると約何本分?
4. 日本のゴミは、1日1人あたりどのくらい?
(上の答え: 1. アメリカ、日本、中国 2. 10
3. 4100本 4. 1kg)

プリント「地球環境ビンゴ」

次の1～25の質問に「はい」と答えられる人を見つけ、その人の名前を下の表の該当番号のマスの中に書きこんでもらってください。

質問

1. 環境のために気をつけて実行していることが3つ以上ありますか。
2. 主に環境に関することをあつかっている政府の省庁はどこですか。
3. 絶滅のおそれのある野生動物の名前を3つ以上言えますか。
4. 紙、空き缶・ビン、発泡スチロールトレイ、牛乳パックなどをリサイクルしていますか。

5. 熱帯雨林を原産地とする果物や香辛料などを知っていますか。
6. オゾン層破壊の原因を知っていますか。
7. 環境保護団体の名前を3つ以上知っていますか。
8. 国立公園の名前を5つ以上知っていますか。
9. 有機栽培や無・低農薬の野菜・果物・米などを食べたことがありますか。
10. リサイクル商品をあつかう商店やフリーマーケットへ行ったことがありますか。
11. 乾電池を分別ゴミで出していますか。
12. エアコンをできるだけ使わないようにしていますか。
13. 自由欄です。自分の名前を書いてください。
14. トマト、ハクサイ、タマネギ、カボチャの収穫期はいつか知っていますか。
15. 節水を心がけていますか。
16. 省エネを心がけていますか。
17. 生ゴミから堆肥を作ったことがありますか。
18. 家の照明器具は白熱電球より蛍光灯のほうが多いですか。
19. 太陽光エネルギーを利用した製品が家にありますか。
20. 自動販売機の電力消費について考えたことがありますか。
21. フロンを使った製品を3つ以上知っていますか。
22. 古新聞や雑誌などを分別してリサイクルに回していますか。
23. 移動はできるだけ車を使わず、公共交通、自転車、徒歩でしていますか。
24. 開発途上国の人びとの自立を助けるために、それらの国々の商品を直接販売する店を知っていますか。
25. ゴミを減らすために何か努力していることがありますか。

質問の正解・回答例など

1. 不要な照明はこまめに消す。プラスチック製品はできるだけ買わない。再生紙の紙製品を使う。買物袋を持ち歩く。リサイクル可能なものはゴミにしない。使い捨ての紙製品を使わない。
2. 環境庁。
3. ニホンカワウソ、イリオモテヤマネコ、ラッコ、シロナガスクジラ、ザトウクジラ、アジアゾウ、アフリカゾウ、オランウータン、ヒョウ、クロサイなど。
4. 地域によっては自治体が資源ゴミとして分別収集したり、商店が自主的にリサイクルコーナーを設けたりしている。また、地域住民グループが独自で回収業者に持ち込むこともある。
5. コーヒー、茶、カカオ、バナナ、レモン、オレンジ、マンゴー、パイナップル、アボカド、こしょう、シナモン、クローブ、ナツメグ、バニラなど。
6. 大気中のフロンガスが太陽光線と反応すると塩素原子を放出する。これが成層圏まで上昇するとオゾン層を破壊する。
7. グリーンピース、地球の友、熱帯林行動ネットワーク、日本自然保護協会、日本野鳥の会、世界自然保護基金(WWF)など。以上は比較的知名度の高い団体だが、全国各地にさまざまな団体がある。
8. 自然環境とその景勝の保護と適切な利用を図る目的で、全国で国立公園が28、国定公園が55指定されている。
9. 私たちが毎日口にする農作物には、さまざまな農薬や殺虫剤が使用されている場合が多い。一方、安全な食品を求める消費者のために、農薬の使用をおさえた作物が、無農薬、低農薬と表示されて売られている。
10. 省資源、省エネ、環境保全などの考え方に基づいて、不用品を交換したり販売したりするリサイクルショップ、公園などに持ち寄って売買するフリーマーケットなどが普及しつつある。
11. 乾電池には水銀などの有害物質が使用されており、有害ゴミとして分別収集する自治体が増えている。あなたの自治体はどうか？
12. エアコンによるエネルギー消費は非常に大きい。また都市では排熱により外気の温度が上がることになる。
14. トマトー7～10月、ハクサイー11～2月、タマネギー5～7月、カボチャー5～10月。最近ではハウス栽培や輸入農作物の普及により1年中出回っているものが多い。
15. 日本人1人1日あたりの生活用水の使用量は約350ℓ。蛇口の水もれを放っておいたり、歯みがきや食器洗いのときに水を出しっぱなしにしたりむだに使われている量も多い。私たちが飲み水として利用できるのは、地球上の水のなかでもほんのわずかな淡水である。
16. テレビ、ラジオ、電灯をつけっぱなしにしない。電球や蛍光灯の汚れをこまめに掃除する。なるべくエレベーターを使わず階段を使う。電気冷蔵庫の扉の開閉は少なく、すばやくする。
17. 地面に穴をほり生ゴミを入れて上に土をかぶせておくと、ゴミの中の有機物質から土中の微生物の働きによって堆肥ができる。家庭

- 用コンポスター(堆肥用容器)も販売されており、ゴミ減量対策の一環として購入費用を補助している自治体もある。
18. 60W白熱電球と15～20W蛍光灯の明るさはほぼ同じ。蛍光灯のほうが消費電力は2分の1。
 19. 太陽電池の電卓や腕時計、太陽熱を利用した暖房・給湯システム。
 20. 日本は「自動販売機大国」といわれるほど自動販売機の使用台数が多い。なかでも飲料用が全体の40%を占め、全国で約250万台(15世帯に1台の割合)。空き缶公害と膨大なエネルギー消費の点で環境に悪影響を及ぼす。1台あたりの平均電力使用量は月間約300kW、全国で年間90億kW。
 21. 冷蔵庫、室内用エアコン、カーエアコン、半導体製品・精密機器などの洗浄剤、ウレタンフォームの発泡剤など。
 22. 紙の節約とゴミの削減にリサイクルはとても大切である。多くの人たちが取り組むことによって、社会の中にシステムをつくることができる。
 23. 車は、大気汚染、騒音、振動、交通事故などさまざまな公害を生む。地球環境に及ぼす影響も大きい(排気ガスは温暖化や酸性雨の原因。部品にはオゾン層破壊につながるフロンが使用されている場合もある)。また、鉄道、バスなどの交通機関と比べて1人あたりのエネルギー消費量が大きい。
 24. オールタナティブ・トレード(公正貿易)、草の根貿易、第三世界ショップなどの名称でよばれる生産者と消費者を直接結ぶ貿易。開発途上国の生産者との直接契約で、バナナ、コーヒー、紅茶、手工芸品などを取り引きし、生産体制の支援、生産者への利潤還元などにより、現地の人々の自立を助けている。
 25. 買物袋を持ち歩く。過剰包装の商品、プラスチック製品、使い捨て雑貨などはできるだけ買わない。家電製品や家具などは修理して使い、デザインなどの変更だけで買いかえることをできるだけひかえる。洗剤などは容器の不要な詰め替え用を買う。

【参考文献】

- 『グローバル・セミナー実践事例10選'92』ERIC・国際理解教育センター
- 『地球サイエンスロマン・カタログ減びゆく野生動物』今泉忠明監修、成美堂出版
- 『地球と生きる55の方法』ほんの木
- 『情報・知識 imidas1992』集英社
- 『子どものためのエコロジー・ワークブック』リンダ・シュワルツ、ブロンズ新社
- 『岩波ジュニア新書123 地球の未来はショッピング!』高橋堯、岩波書店
- 『環境要覧'93/'94』(財)地球・人間環境フォーラム、古今書院
- 『地球を救う133の方法』アースデイ日本編、家の光協会

●やってみよう



ねらい

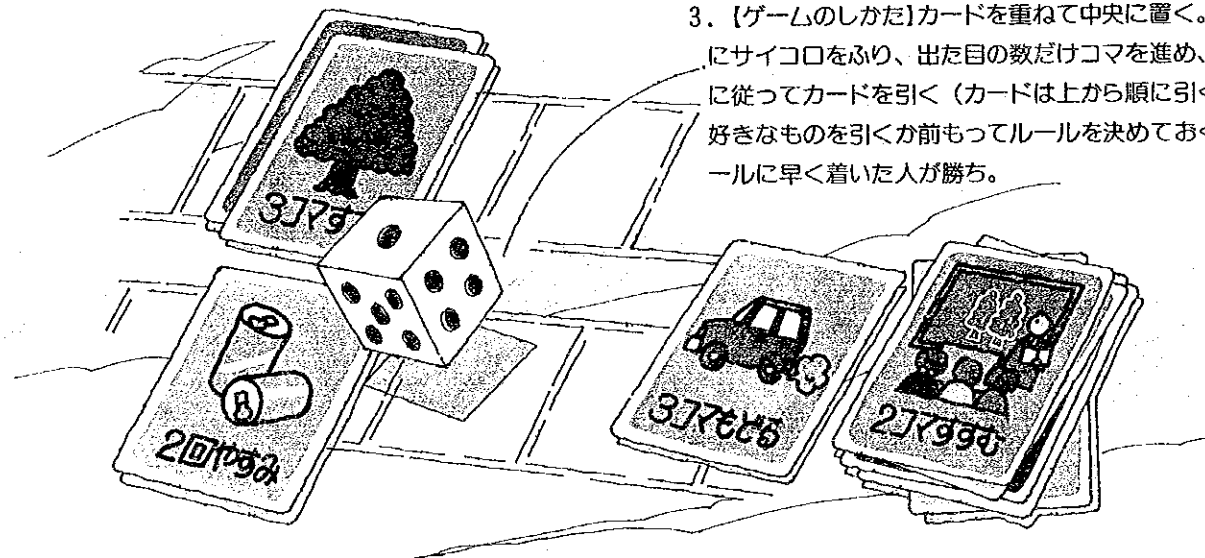
カードを作りながら、環境問題に対してどのように取り組んでいけるのか、みんなといっしょに考える。

準備するもの

台紙になる厚紙とサイコロをグループに1つ、コマを人数分

進め方

1. 4~5人のグループに分かれる。すごろくの台紙を作る(さし絵参照)。スタートを「現在」、ゴールを「未来」として、カードを引くマス目を決めておく(たとえば5マスごとにカードをとるようにしてもよい)。
2. 全員でカードを作る。カードの内容は、環境のためによいこと、あるいは環境にとって悪影響を及ぼすこととする。内容によって、「3マス前進」「2マス後退」など指示に差をつける。
3. [ゲームのしかた]カードを重ねて中央に置く。順番にサイコロをふり、出た目の数だけコマを進め、指示に従ってカードを引く(カードは上から順に引くか、好きなものを引くか前もってルールを決めておく)。ゴールに早く着いた人が勝ち。

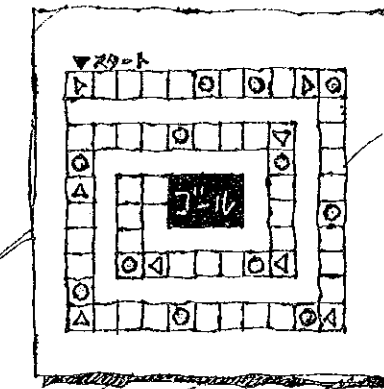


カードの例

- ・町にリサイクルセンターができる。
- ・企業は空き缶・ビン・ペットボトルを回収しなければならないという条例ができる。
- ・アルミニウムの価格が下落して空き缶の回収業者が廃業になる。
- ・森林地帯のリゾート開発が許可される。
- ・学校で植林プロジェクトが始まる。
- ・学校教育で環境教育が義務づけられる。
- ・ソーラー電池の活用が普及する。
- ・自治体が家庭用生ゴミ処理容器の普及に力を入れる。

【参考文献】「ERICニュースレター13号」ERIC・国際理解教育センター UNDERSTANDING THE FUTURE, Peter McGregor, Primary Education Book, 1986

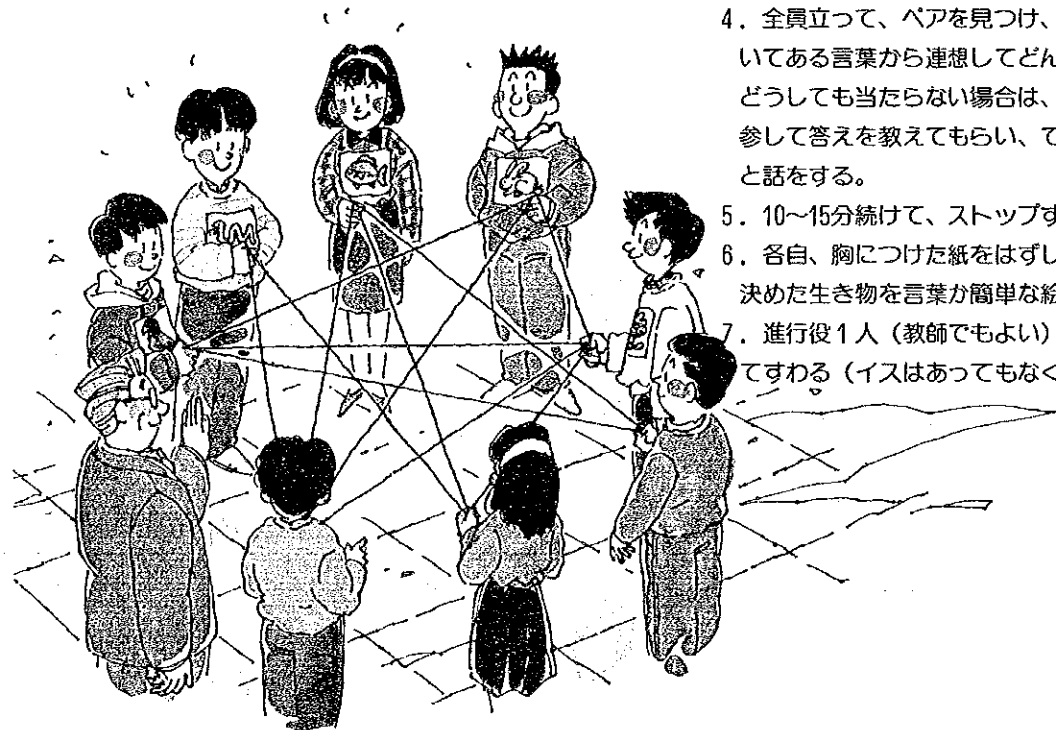
すごろく台紙



*他のグループと自分たちの作ったすごろくを交換してゲームしてみよう。

●やってみよう

網の目の 相互依存 関係



ねらい

生き物はすべて関連しあっているという生態系のつながりを体験する。

準備するもの

紙片（約15×20cm）と筆記用具を人数分、毛糸玉1つ

進め方

1. 全員に1枚ずつ紙片を配る。
2. 各自で生き物（動物・植物）を1つ決め、その生き物を説明する言葉を5つ選んで配られた紙に書く。
例）ヘビ……ニョロニョロ、細い、長い、なめらか、冷たい
木……緑、長生き、サワサワ、ざらざら、のびる
3. 書き終わったら紙をセロハンテープで胸にはる。
4. 全員立って、ペアを見つけ、たがいに相手の胸に書いてある言葉から連想してどんな生き物かを当てる。どうしても当たらない場合は、ヒントをもらうか、降参して答えを教えてもらい、できるだけ多くの人たちと話をする。
5. 10～15分続けて、ストップする。
6. 各自、胸につけた紙をはずして、その裏側に自分の決めた生き物を言葉が簡単な絵で表し、再度、胸にはる。
7. 進行役1人（教師でもよい）以外は、全員輪になってすわる（イスはあってもなくてもよい）。

8. 進行役は、全員のなかからだれか1人を選んで毛糸の端を渡す。選ばれた人は、他の人の胸についている生き物を見渡し、自分の生き物と何らかの関係がある生き物を1つ選ぶ。選ばれた人は、進行役から毛糸をもらって最初の人との間に毛糸がピンと張るようにして持つ。

例）最初の人「ヘビ」であれば、「ヘビ」がエサとする小動物や昆虫、あるいは「ヘビ」と生息地を共有する動植物などを探して指名する。

9. 8で指名された人は、前の人と同じ要領で自分と関係のある生き物を選び、その人と毛糸でつながる。全員が毛糸で結ばれるまで続ける。

10. 全員が毛糸で結ばれたら、1つの生き物を取り上げて、この生き物の存在がおびやかされるとどうなるかを考える。

例）「木」が切り倒されると他の生き物にどのように影響が及ぶかを調べるとする。進行役は、「木」の手元の毛糸を引っ張って振動を加える。「木」は振動を感じたらその振動を伝える。振動を感じた次の人は、また次の人にその振動を伝える。振動はだれにどのように伝わるだろうか。

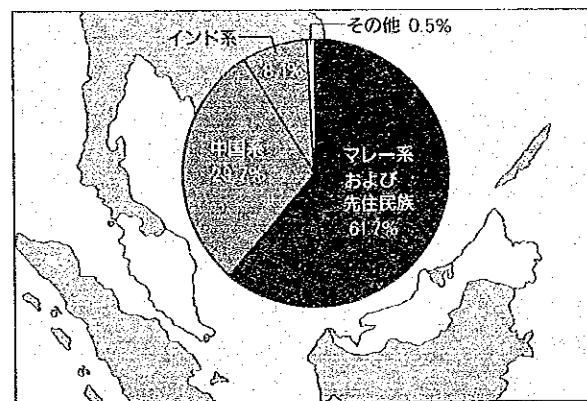
応用

生き物のかわりに、世界の国・地域、地球環境や社会のいろいろな問題、国の政治のしくみなどで、どんなつながりがあるか調べてみよう。

【参考文献】『木と学ぼう(PLT)』ERIC・国際理解教育センター

世界に住む人びとの生活はいま 多様な文化

日本に住む私たちのなかには、「かれは日本人です」というと、黒い髪で、日本語を話していると考え人が多いでしょう。つまり、日本人と日本民族は同じだと思われています。ところが世界には、複数の民族によって構成されている国のほうが多いのです。一例としてマレーシアを見てみましょう。マレーシアには、マレー系、中国系、インド系などさまざまな民族が入り交じって住んでおり、全人口に対する割合としては、マレー系及び先住民族が約60%、中国系が約30%、インド系が約8%となっていて、さらにいくつかの民族が少しずついるのです。それぞれの民族では別々の言葉が話され、共通語としては英語やマレー語が使われていますから、3種類の言語を話す人がいくらでもいます。



マレーシアの主要民族 資料:「マレーシア統計ハンドブック」1990

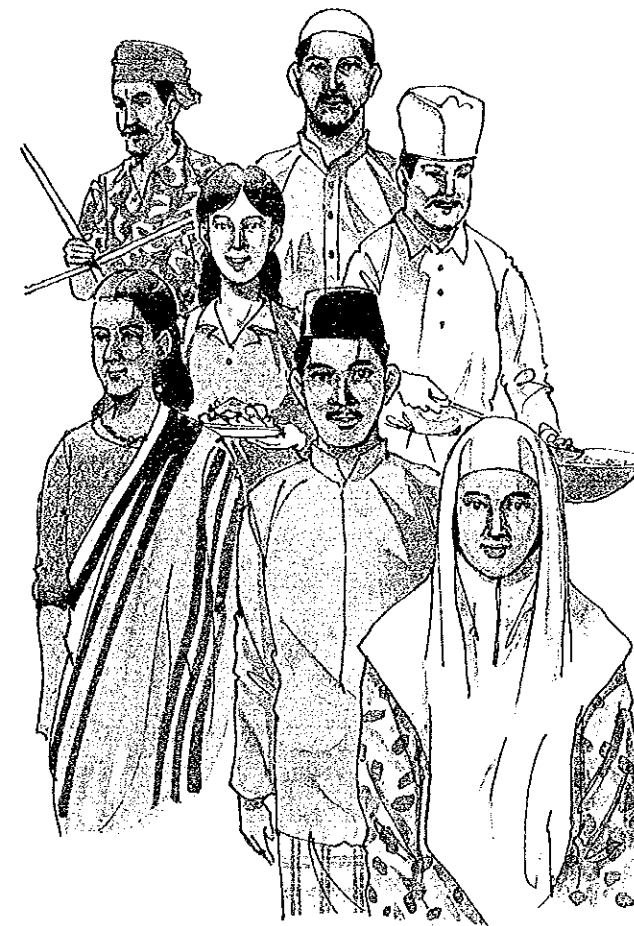
宗教もイスラム教、仏教、道教、ヒンドゥー教、キリスト教などが信仰されています。そのため女性の服装ひとつとっても、マレー系の人々は、その長い民族服を着ていることが多いですし、中国系は主に洋服、インド系はサリー姿が多いなどと実にさまざまです。食べ物にしてもイスラム教徒は豚肉を食べませんし、ヒンドゥー教は牛肉を食べてはいけないのですから、食堂のメニューも工夫が必要です。

マレーシアではこのように違った民族が、それぞれの文化を守りながら、おたがいを尊重しあって、調和のとれたひとつの国をつくりあげています。そして人口に占める割合は大きくありませんが、日本にも、北海道のアイヌやウイグルの人々のような少数民族がおり、また長年、日本に住む中国や韓国・朝鮮の人びとも90万人近くいて、それぞれ独自の文化と言葉をもっています。最近ではさらに数多くの国から日本に働きにきている人を目にするのも多いでしょう。

私たちが地球と人類のよりよい未来のために国際協力を行う際、最も気をつけなくてはならないことは、こうしたさまざまな文化や生活を尊重することであり、そのためにはまず日本国内のさまざまな民族の人びとに目を向ける必要があります。他の国や他の民族に、経済力、政治力の強い国が民族の価値観や生活スタイルなどを押しつけることは、決してあってはならないことです。



多様な民族が行きかう都会(クアラルンプール)

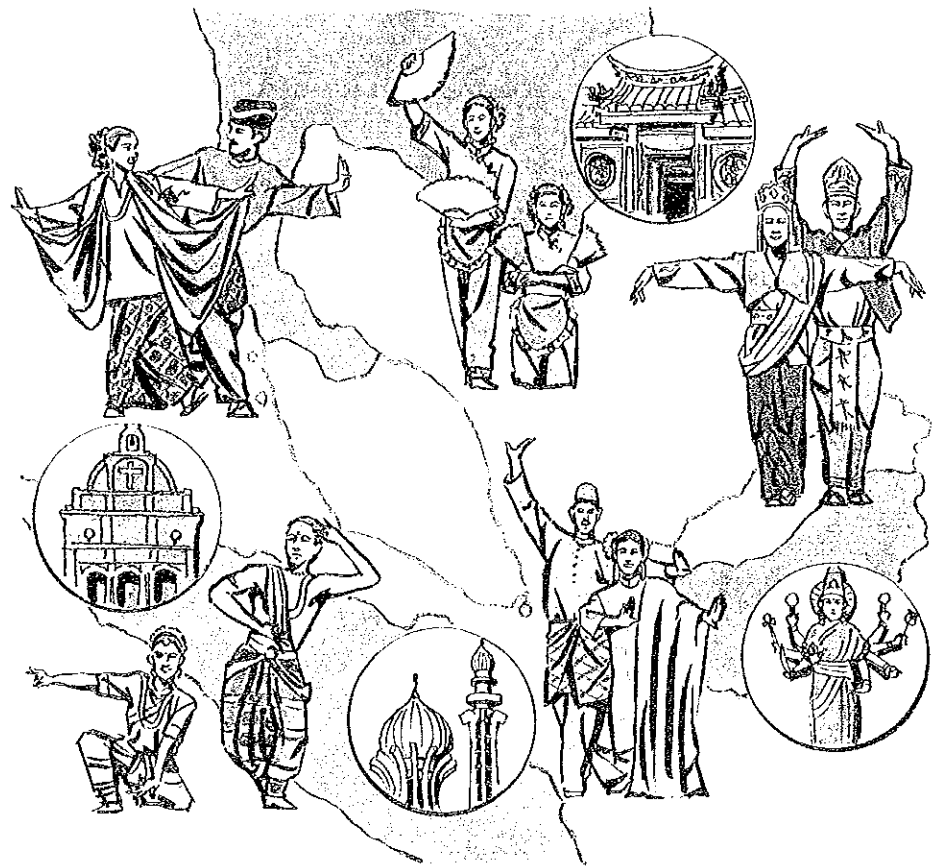




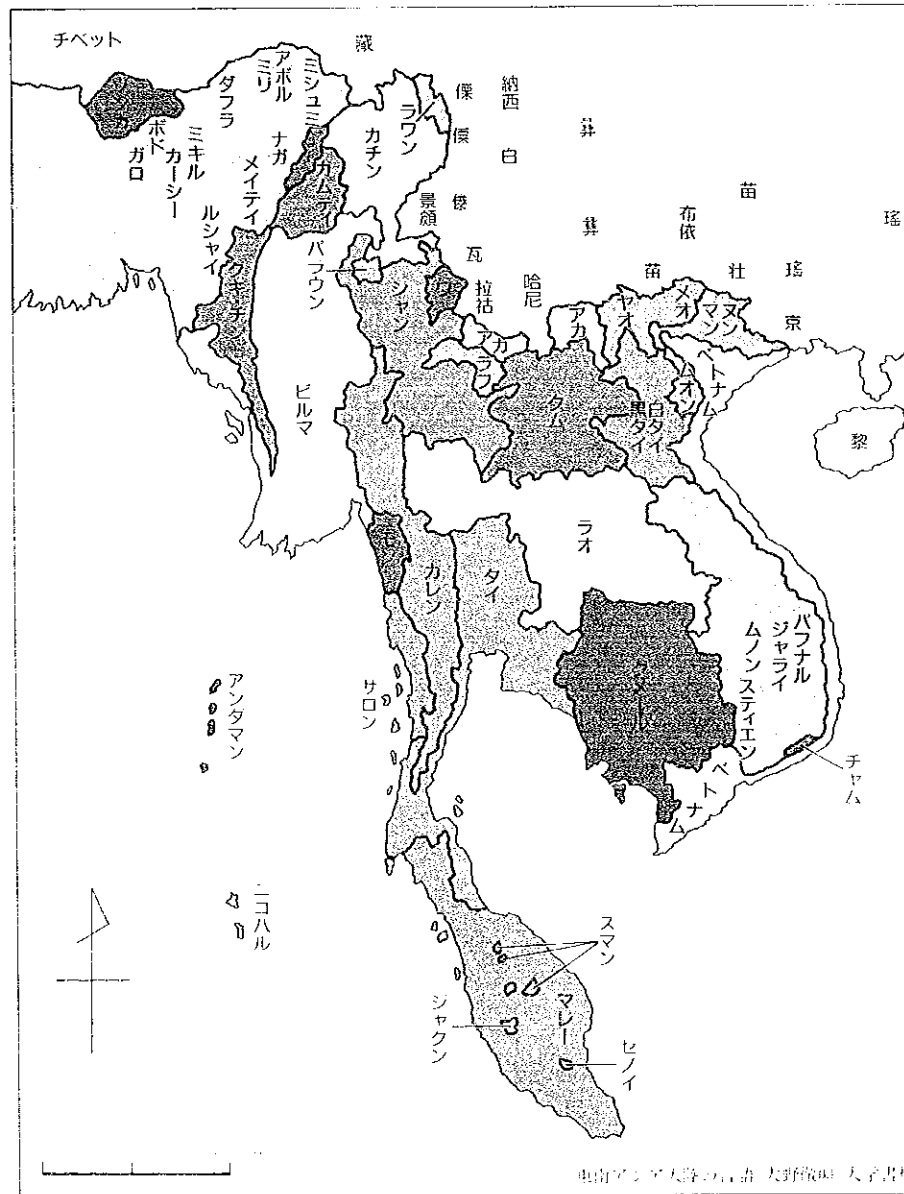
イスラム教の女性



ヒンズー教のインド女性



東南アジア大陸の言語分布略図



国際移動

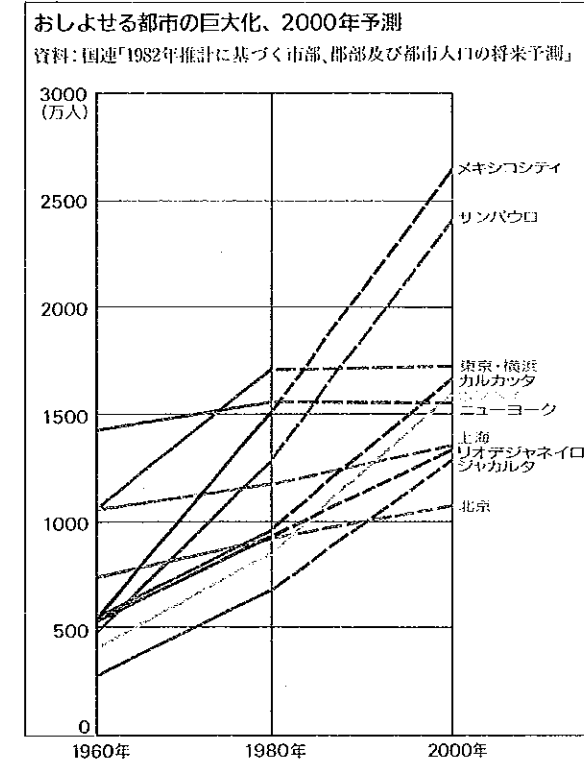
人類の祖先は、東アフリカの大地溝帯に生まれ、そこから数十万年かけて全世界に広まったと考えられています。たとえば南北アメリカ大陸には、2万年前、人は住んでいませんでしたが、今では南北あわせて7億人以上の人が住んでいて、その多くがヨーロッパやアフリカなどの他の地域から移動してきた人とその子孫です。そのなかには、20世紀に入ってから日本からの移住者とその子孫の日系人も250万人あまりいます。こうした人口の移動は絶え間なく続いてきました。

人が国境を越えて移動するのはどんな理由によるのでしょうか。ひとつは経済的な理由による移動です。仕事も少なく貧しい国から、多くの人びとが移動しています。アジアの国から中東の産油国や先進国に出かせぎに出かけているのはその例といえます。よりよい生活を求めて移動する労働者や移民の数は年々増え、現代ではその規模も速さもどんどん増し、今後の国際社会に及ぼす影響

が少なくないといわれています。

人の移動のもうひとつの大きな問題が「難民問題」です。難民とは、もともと戦争・内戦や民族対立などによって、迫害や差別を受け国境を越えた人びとで、その数も増大する一方です。各地域で起きている国内紛争は、国外に難民を流出するのみでなく、自国内での避難民も増大させています。こうして、世界で直面している人道的危機は、ますます大規模に、また複雑化してきており、既存の難民保護制度は限界にきています。現在、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の保護と援助の対象となっている難民は、世界でおよそ2300万人にもものぼるといわれています。

どの国でも、言葉や宗教や生活習慣の異なる人びとを受け入れていくことは大変なことです。私たちは紛争のない世界と、難民や移民が移動先でも人間らしい生活ができる世界をつくっていかねばなりません。



途上国での農村から都市への人口移動も重要な問題である。急速な都市化は環境の悪化や貧困の増大を引き起こし、道路・鉄道・港湾・学校・公園などの社会的基盤の整備はいちじるしくたおけている。今後数十年のうちには世界人口の半分が都市に住むことになると予測されている。



アフリカ、スーダンの難民

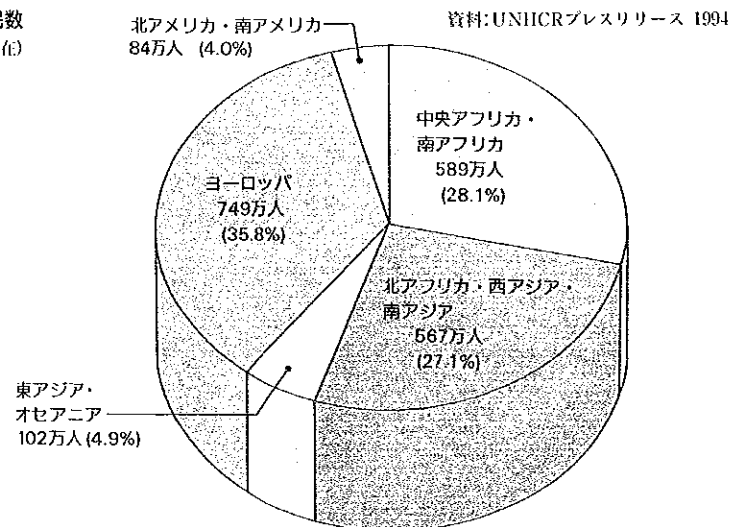


アジア、ミャンマーの難民

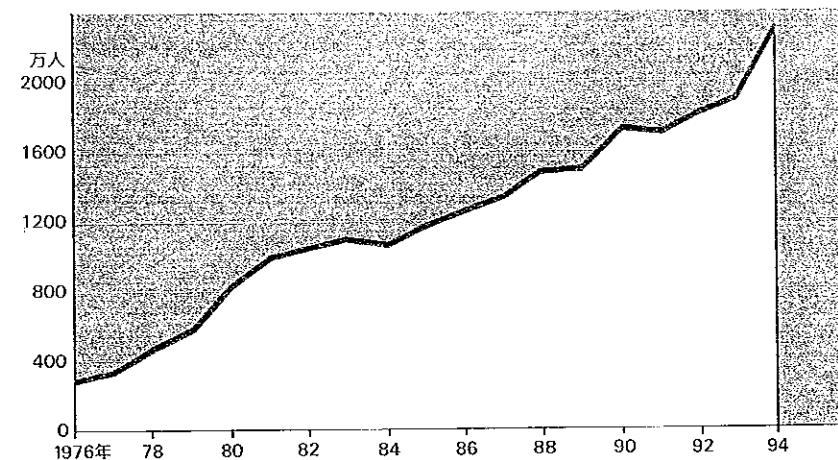


ヨーロッパ、ボスニアの難民

地域別難民数
(1994.1.1現在)



世界の難民数の推移 資料: UNHCR『世界難民白書』1994



1970年代の終わりに、世界には約800万人の難民がいた。その後難民の数は急増し、現在世界中で約2300万人の人数がUNHCRの保護と援助の対象となっている。このほかにも約2600万人の人数が自国内で避難民となっている。これは、世界の人口55億人のうち115人に1人が避難を余儀なくされている計算になる。

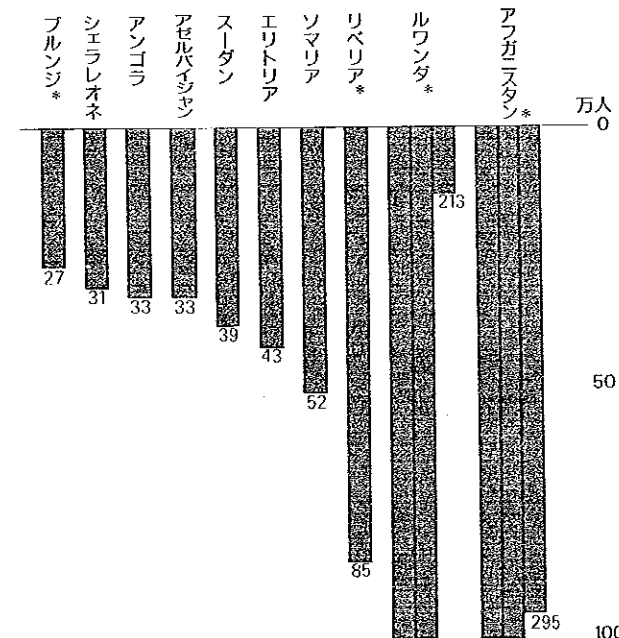
庇護国別の難民数

(1993.12.31現在)
(*印は1991.12.31現在)

●イラン	1,817,000人*
●ザイール	1,800,000人*
●パキスタン	1,200,000人
●アメリカ	951,500人
●スーダン	745,200人
●タンザニア	628,000人*
●ギニア	577,200人
●ユーゴスラビア	449,000人*
●アルメニア	340,700人
●カナダ	339,300人

資料: UNHCR プレスリリース 1994

出身国別の難民数(1993.12.31現在 *印は1991.12.31現在)



資料: UNHCR プレスリリース 1994

難民とはどんな人たちか

難民とは、広くは戦争・内戦の被害を逃れるために、あるいは政治的立場や宗教や民族が違うために迫害を受け、それを逃れるために、それまで住んでいたところをはなれるしかなかった人たちである。国内で難民と同じような状態にある人びとを避難民という。

たとえば第2次世界大戦中には、ナチスの虐殺から逃れるために、数多くのユダヤ人がドイツや東ヨーロッパの国々から逃げ出した。1980年代には、アフリカのエチオピアやソマリアで何百万人ものが、戦争とかんばつによる飢饉を逃れるために自分の土地を捨て、あちこちをさまよった。最近では、民族紛争が原因となって旧ユーゴスラビア国内で約400万人が難民・避難民になり、さらにルワンダからタンザニア、ブルンジ、ウガンダ、ザイールへと200万人以上が逃れた。

このように難民は、地域全体の政治的、社会的変化によって発生するため、大量に発生することが多く、こうした人びとを保護し、安住の地に導くためには、国際社会全体の協力が必要になる。

「北」と「南」の格差

人間が生活する上で基本的に大切なものは何でしょうか。急にこう聞かれても答えがむずかしいかもしれませんが、健康に暮らしたい、おいしいものをおなかいっぱい食べたい、暑さ寒さから身を守る家や衣服をほしいと願うのは皆同じはずです。ところが、現代では地球上のどの国で生まれるかで、こうした基本的な願いがかなえられるかどうか大きな差があります。

たとえば、日本で生まれた私たちは平均で80歳近くまで生きることができます。しかしアフリカのサハラ砂漠南縁に連なるサヘル地帯には、人びとの平均寿命が50歳に満たない国がいくつもあります。子どもの9人のうち2人は5歳まで生きることができません。それは生活環境の厳しさや栄養状態の悪化が原因です。

また、私たちの社会では栄養のとりすぎが問題になっているのに、同じアジアの国のなかには、いつもおなかをすかせている子どもたちがたくさんいます。そして、



ネパールの子どもたち



サヘル地帯の農業



バングラデシュの洪水

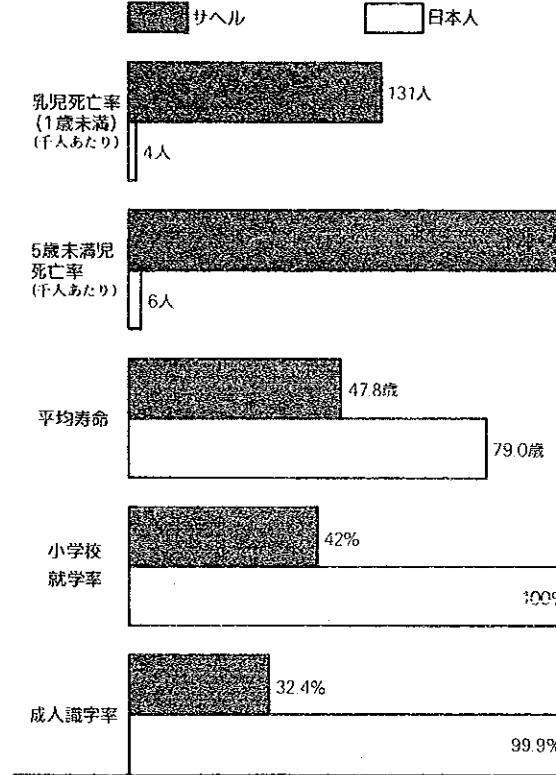
経済面で見てみると、日本では貿易黒字が続き外貨が増え、多くの国に経済援助をしています。アフリカやラテンアメリカの国のなかには国際機関や先進諸国から多大な債務を負って苦しんでいる国が多いのです。

便利で快適な生活を求めて、ものやエネルギーの消費を増やす北の先進国の人びと。本人がいくら努力をしても、最低限の衣食住さえ得にくい南の開発途上国の人びと。この不平等の背景には、先進国と開発途上国の間の生産力や経済力の大きな格差があります。この格差は、社会発展の歴史や自然環境の違いもありますが、かつて北の国々が南の国々を植民地化し、そこから長い間、富や資源を奪い続けたことによって広がってきたものです。

世界の国々は協力しあってこの不平等を解決していかなくてはなりません。環境問題や人口増加、都市と農村の生活の格差など、地球上のさまざまな問題に対して私たちはどうしたらよいのでしょうか。

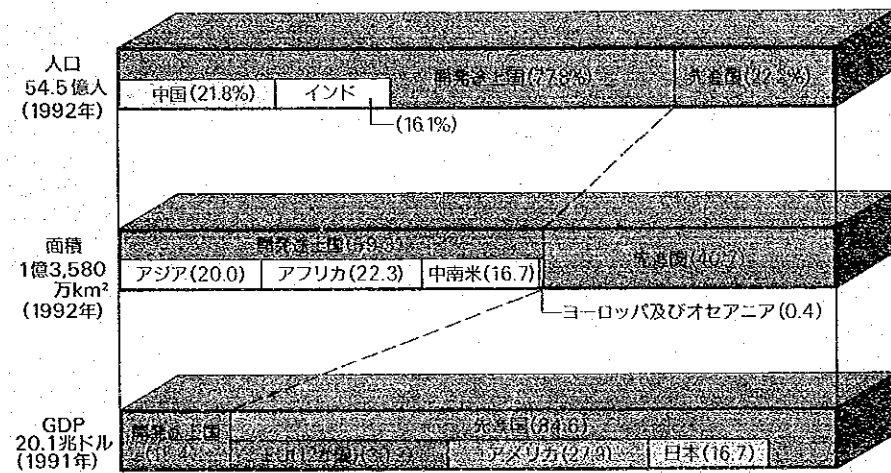
サヘル地帯の人々と日本人を比べてみると

1992年

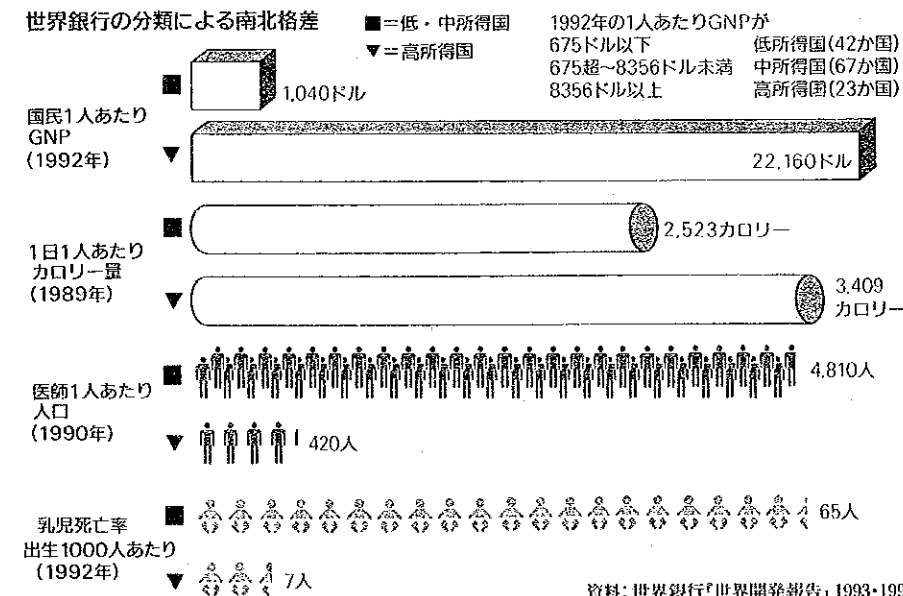


サヘル地帯：モーリタニア・マリ・ニジェール・チャド・スーダン
資料：ユニセフ「世界子供白書」1994

国連の分類による開発途上国と先進国の割合 (先進国には旧ソ連・東欧をふくむ)

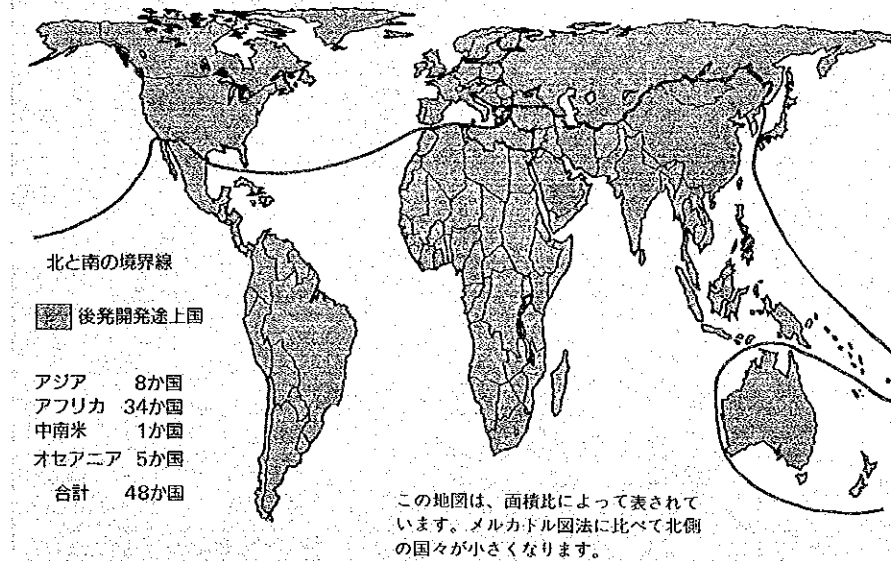


資料: UNDP「人間開発報告書」1994



資料: 世界銀行「世界開発報告」1993・1994

国連が定めた後発開発途上国(LDC) 資料: 国連「Dateline UN」1995.1



この地図は、面積比によって表されています。メルカトル図法に比べて北側の国々が小さくなります。

開発途上国とは何か

一般には、工業化のおくれた地球の南側に位置する貧しい国々というイメージで使われている。実際には、世界的に合意された定義はなく、DAC、国連、世界銀行などの国際機関が、それぞれの基準に従って定義している。ちなみに、DACの基準では、1人あたりのGNPが2万ドル近いアラブ首長国連邦などの産油国から、200ドルにも満たないソマリアなどのアフリカの国々まで世界の大部分の国や地域がふくまれてしまう。これはGNPだけではなく工業化の度合なども基準としているためである。最近では、ロシア、ポーランド、ルーマニアなど旧ソ連と東欧諸国も入っているから地域的にも非常に広い範囲にわたる。

さらに、開発途上国は1人あたりのGNPなどによりいくつかに分類されている。なかでも貧困層が国民の大部分を占める最も貧しい国々を、国連は「後発開発途上国(LDC)」とよんで、援助がとくに必要な国々として世界に訴えている。

また最近ではHDI(人間開発指標)で国の発展を測ることも多くなった。これは平均寿命、教育達成度、1人あたり所得という3つの基本的な要素を組み合わせている。

*1 DAC: 開発援助委員会の略で、開発途上国への援助政策の調整や、経済協力に関する情報交換を行う西側諸国の組織。

*2 後発開発途上国: 国連では1人あたりGNP425ドル以下、GNPに占める製造工業の比率が10%以下、および識字率20%以下としている。現在は48か国となっている。

【解説】 a. 「南北問題」と「南南問題」

「南北問題」とは、開発途上国と先進工業国との経済格差があまりにも大きいため引き起こされるさまざまな問題を、ひとまとめにしてよんだ用語である。多くの開発途上国が赤道周辺以南に、大部分の先進工業国がその北側にあるためにこの名前がついた。

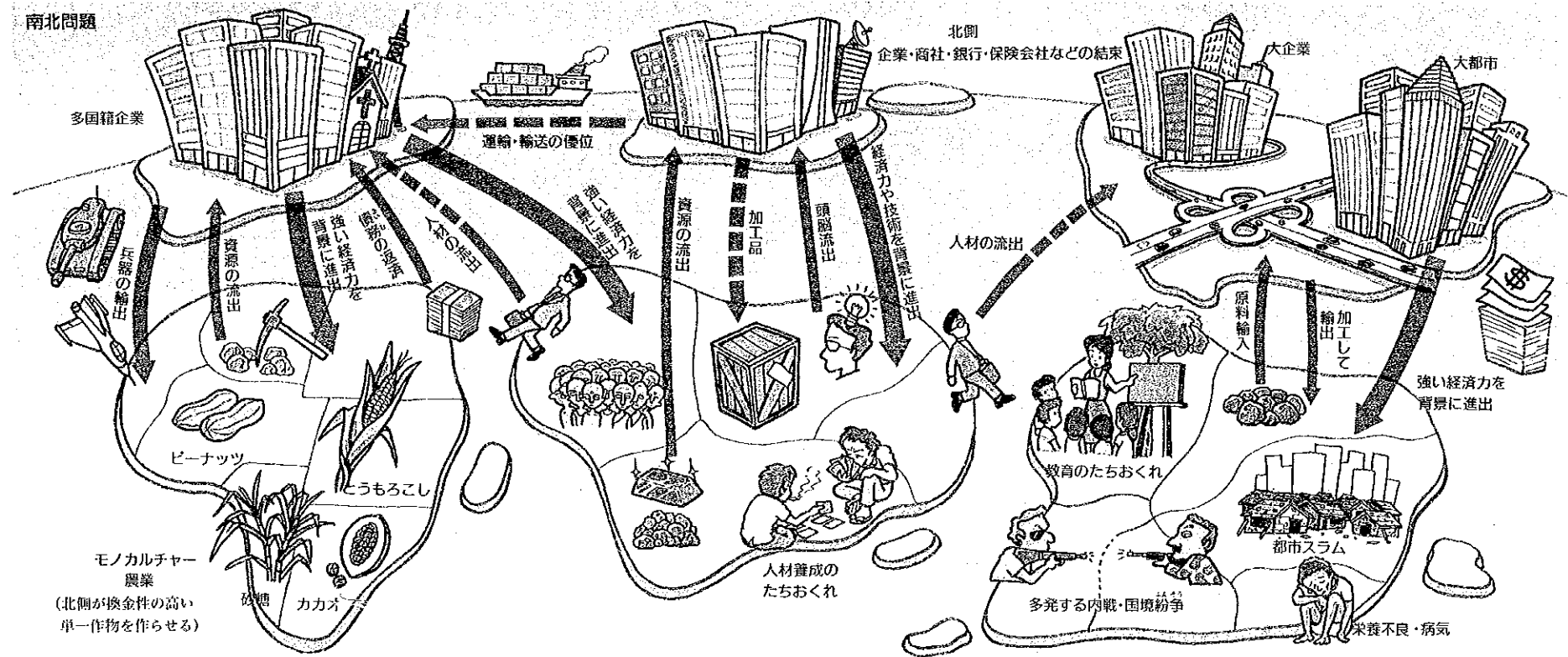
第2次世界大戦後、南の国々は政治的には独立したものの経済的に自立し発展することができなかった。長い間植民地として外国から支配され続けてきた国々では、国家運営や産業基盤の育成を担う技術と人材が十分に育っていなかったといえる。しかし最も大きな

原因は、先進諸国が長年の間、植民地支配により富を収奪してきたことにあった。

最近では開発途上国のなかでも、中東の比較的豊かな産油国や、韓国、香港、台湾、シンガポールなどのように、経済成長と工業化を果たしている国もでてきた。これらの国は比較的高い経済成長率を保っているものの、急激な都市化や環境破壊など、社会的ゆがみも起こしている。

その一方で、後開発途上国(LDC)といわれる、より貧しい48か国(うちアジア8か国)では、1人あたりのGNPが平均200ド

ルあまりにとどまっているなど、生産性は低く、経済面のみでなく福祉や教育の面でもたおくれ、南の国のなかにも格差が生まれているのが現状である。また、同じ国のなかでも貧富の差が広がり、経済発展の恩恵にあずかれない人びとの数は増える傾向にある。つまり貧しい人たちは発展に完全に取り残され、経済の成長にもかかわらず、世界人口に占める貧しい人たちの割合は少しも減っていないのである。「南南問題」といわれるこの格差は今後も広がるのが予想され、国際社会の大きな問題のひとつである。



資料:「なぜ世界の半分が飢えるのか」朝日新聞社

【解説】b. 世界情勢の変化と開発援助



古い町なみとシンガポールの高層住宅



教育を受けられない子ども

1960年から90年にかけて、右図に見るように、平均寿命など5項目については、南北の格差は縮小している。しかし1人あたりのGDP（国内総生産）や平均就学年数などの格差は拡大してきている。これらは人口の急激な増大とも関係するが、全体として見れば南北格差は大きな問題として存在している。開発協力のなかでもバランスのとれた改善が望まれる。

第2次世界大戦後、アメリカとソ連に率いられる東西両陣営が対立する冷戦体制が世界をおおってきた。近年この体制がくずれるとともにソ連という超大国も解体し、そのなかからいくつかの独立国が誕生した。これらの国々は開発途上国同様、先進国の援助を必要としている。同時に世界各地で民族紛争や内戦が起こり、国際政治に大きな影響を及ぼしている。

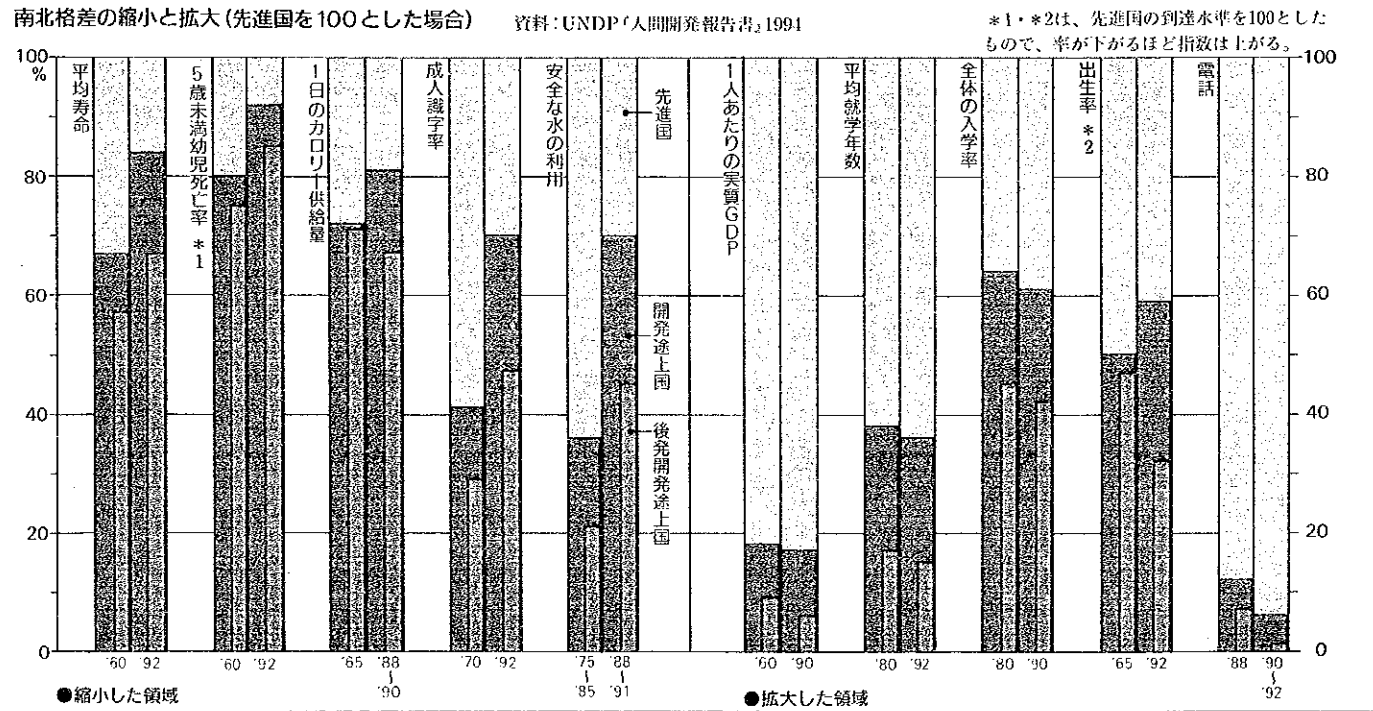
一方、NIEs（新興工業経済地域）諸国や実質的に市場経済に移行しつつある中国などに代表されるように、めざましい経済発展をとげつつあるいくつかの開発途上国も、アジアを中心に影響力を広げている。

このように、21世紀も近づいたいま国際情勢は一段と複雑さを増し、世界の国々が手を取り合って取り組まねばならない課題も多い。

こうした情勢は、開発援助のあり方にも大きな影響をあたえている。1960年以降「開発の10年」を提唱してきた国連も、人間開発を重視して開発途上国の自助努力や人材づくりへの強力な支援を打ち出している。それは、いままでの多額の援助が後発開発途上国の人びとの生活改善や経済発展に結びつかなかったことや、南北格差が縮まらなかったという反省に基づいている。

わが国の開発援助の理念はODA大綱に掲げられているように、人道的見地、国際社会の

相互依存の認識、地球環境問題をふくむ環境保全、世界平和の維持などを基本としている。しかし、いわゆる持続可能な開発への認識が高まっていくなかで、従来のような経済開発を優先する援助から、開発途上国の人びとの生活や福祉をより重視し、生活基盤としての道路・鉄道・港湾・住宅・上下水道などの整備に重点をおくことが求められている。いってみれば「平和指向型・社会開発重点型」の援助である。また国際社会での人的活動能力を強化し、開発にあたっては当事者として途上国国民の考え方を取り入れたり、NGOなど他の組織との連携を図るなど、より効果的な開発のあり方も求められるだろう。



●やってみよう

未来をよむ 大車輪



ねらい

1つのできごとがどんな影響や結果を及ぼすか、想像し、グループで話し合ううちに、さまざまな関連が見えてくる。ものごとを大局的に見たり、1つのできごとがいかに多くのことと関連し合っているのかを考えてみる。

未来の予測はできるのだろうか？ 確かに、現在から一足飛びに1年あるいは10年先に何が起ころか、100年後の世界はどんなかを予測するのは容易でない。しかし1つのできごと、流行、選択がどのような影響を及ぼすか、どんな結果を生むかを順序立てて考えていく方法がある。それが「未来をよむ大車輪」だ。

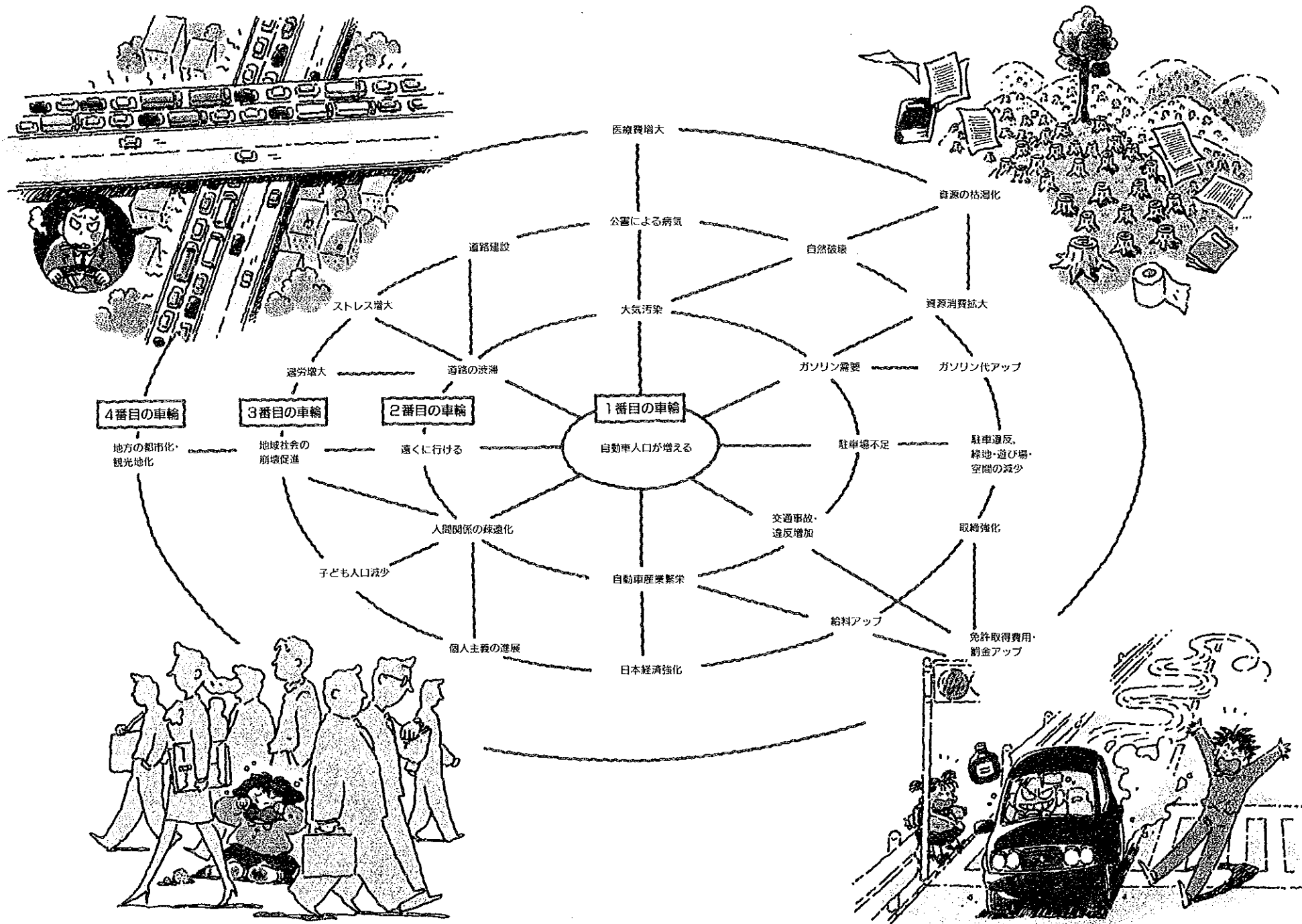
「自動車人口が増える」ということを考えてみよう。このことから、たとえば大気汚染が悪化する、次に公害による病気が生じる、そして医療費が増大する、という影響が考えられる。また別の方向で考えると、自動車人口が増えれば、ガソリンの需要が増え、そのために資源の消費が拡大し、さらに資源の枯渇化へとつながる。このように1つのことは、他のさまざまなこととつながっている。したがって、あることがどんな影響を及ぼすか、さらにその影響が何を生むかを考えていくことが、「未来をよむ」ためには役立つ。このものごとの関係をつなげていくと、1つの大きな車輪のような図を描くことができる。

「大車輪」をかいて未来を予測してみよう。

進め方

1. まず何について「大車輪」を考えるか決める。身のまわりのこと、学級や学校の規則、社会的な現象、政治的な決定、世界のできごとや課題など、何でもよい。たとえば、学校週5日制が実現する、近所にゴミ処理場が設置される、米の輸入開始、オゾン層の破壊、国内の出生率が減少する…など。
2. まず4重の同心円（輪）を書き、次のことを考える。
 - (1) すぐに現れる影響、変化は何か？ 思いつくだけ1番内側の円（輪）に書き込む。
 - (2) 次に現れる影響、変化は何か？ 次の円（輪）の中に書き込み、(1)で書いたことがらと関係あるものを線で結ぶ。
 - (3) 同様に、3番目、4番目の円（輪）の中にも影響を書き込む。

オーストラリアのカリキュラム研究専門家が、変化の結果を予測する方法として考案した。
【参考文献】『ERICニューズレター13号』ERIC・国際理解教育センター
NEW WAVE GEOGRAPHY Geography Teachers' Association of Victoria Jacaranda Press, 1988



●やってみよう

生きるのに 必要な ものって!?



ねらい

私たちの暮らしは豊かすぎるとよくいわれる。モノがあふれていて、モノのありがたみがわかっていないと、とくに戦時下を生きた人たちがいう。生きるのに最低限必要なものとは何だろう。

進め方

1. 1週間後に無人島へ出かけることになった。どんな島か、気象条件、地理的条件、どのくらいの期間滞在するかは、いっさいわからない。さて、持ち物の数が限られている。9個だけだ。何を持って行こう?
2. 各自で9個のものを考えて書き出す。(5~10分間)
3. 4~6人のグループをつくる。各自のリストをもとに、話し合いでグループとしての意見をまとめて9個の持ち物リストをつくる。(20~30分)
4. 全体で、各グループの結果と、どのように意見をまとめたかその方法を発表する。
5. 自分たちのつくったリストから、すべての人が個人として人間らしく生きるために最低必要な条件とは何かを考えてみる。あわせて現在の自分の生活を考えてみる。



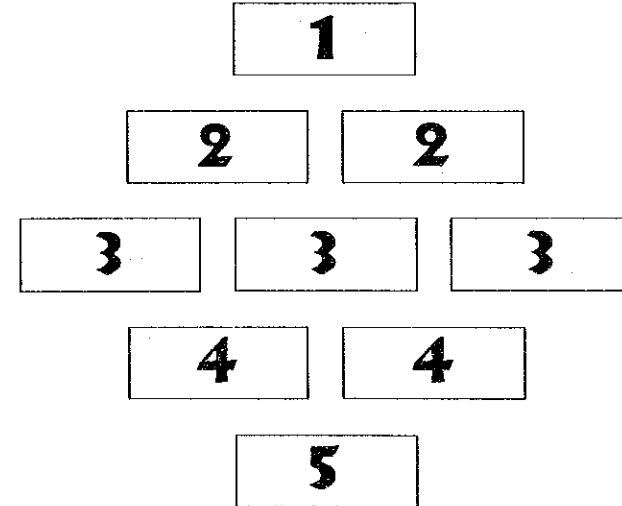
もう一步

各グループで選ばれた9品目をもとに下の方法で優先順位をつけてみよう。この方法はランキングとよばれ、話し合いでグループの意思決定を図るときに利用される。

1. 9品目をそれぞれ別の紙片(5×10cm)に書き移す。
2. 9枚の紙片を動かしながら、優先順位の一番高いものを一番上に、一番低いものを一番下に、図のように並べる。グループ全員が話し合いに参加しながら、自由に紙片を動かす。あらかじめ制限時間(20~30分)を決めておき、時間内に各グループで順位を決定する。
3. 全体で、各グループの結果を発表する。

【参考文献】「ERICニューズレター8号」ERIC・国際理解教育センター
「テーマワーク」ERIC・国際理解教育センター

カードの並べ方



2章 世界を理解しよう



世界を理解するには

今日、私たちはテレビ、新聞、雑誌などさまざまなメディアを通して、地球の裏側のできごとから、はては宇宙のかなたの様子まで知ることができます。一昔前に比べると、海外へ出かける日本人も多く、世界の人びとの出会いや現地での暮らしを直接に体験する機会が増えています。こうした社会の変化にともなって、私たちは興味や知識を世界に広げるようになってきました。

では、私たちは世界の現状をよく理解できるようになったのでしょうか。世界がわかるとはどういうことなのでしょう。——このことから考えてみましょう。

たとえば、「森」を理解しようと森の「木」を1本とりあげて観察したとします。樹脈、年輪、枝葉などのつくりを通して木の営みを細かく理解することはできます。しかし、森全体の営みは、森のなかの多様な植物とか、動物とか、それを取り囲む環境などもふくめて「生態系」としてとらえなければ理解がむずかしいでしょう。

また、水を例にとっても同様のことがいえます。コップ1杯の水を調べれば化合物として分析することはできますが、そこからは水の循環や自然のなかでの水の働き、さらに人間と水とのかかわりなどは見えてきません。

私たちが世界について理解しようとするときにも、このようなことを当てはめて考えることができます。メディアによるニュースであっても、実際に体験したできごとであっても、一面的で狭い見方はさげなくてはなりま

せん。1つの現象だけをとらえても、ものごとを正しく理解したことにはならないかもしれないからです。

新聞・テレビ・ラジオは、その時々ニュースをすみやかに知らせてくれます。しかし、こうした情報だけにたよっていると、個々のできごとを断片的に知ることはできても、それぞれの関連性や社会への影響などはなかなか見えてきません。

また、実際に自分で体験することはどうでしょうか。海外での体験は、現地の人びとや暮らしを理解する助けになることもあります。しかし、一人ひとりの個人的体験はきわめて限られたものですから、それをもとにその土地の人びとや生活を一般化して説明するのは危険です。場合によっては、先入観や偏見をもって伝えたり、誤解を招くようなことにもなりかねません。

私たちは今日の世界を考えると、次の3つの要素について考えてみるのが大切だと思います。「相互依存性」と「不公正性」と「多様性」です。

●相互依存性

人、もの、情報、お金などが国境を越えて行きかう現代は、国や人びとの間の相互依存関係がますます強まっています。人も国もたがいに相手の存在を必要としています。そしてたがいに影響をあたえ合っています。自分とは一見何の関係もなさそうなこと、見知らぬ土地やそ



こに生きる人びと、生物も、実はさまざまな媒介やシステムを通して、私たち個人の生活や地域と密接なつながりをもっている場合があります。

たとえば、私たちの口にする食べ物の相互依存性を考えてみましょう。朝食のパン、紅茶、バナナ、オレンジジュース、あるいは、ご飯、みそ汁、納豆——これらの食べ物は多くの人の手を経て食卓に並びます。これらのなかには外国でつくられ、複雑な流通機構を通ってくるものがたくさんあります。

パンの原料の小麦は、主にアメリカ、カナダでつくられ、これらの国から日本の商社などの手で輸入され、いくつもの段階を経て日本の製パン工場に届きます。そして、パンに加工された後、小売店の店頭並びます。また、みそ、とうふ、油あげ、そして納豆の原料となる大豆は、国内で生産されるのはわずか2%、残りはすべて輸入で、アメリカ（総輸入量の約75%）、ブラジル（同約15%）、中国、パラグアイ、カナダなどにたよっています。

食品の原料ばかりでなく、輸送に必要なガソリン、包装の紙・ビン・缶などに使用される原料についても考えてみると、私たちの生活が世界といかに多くのつながりをもっているかに気づくでしょう。

【生態系】

人間社会ばかりでなく地球環境との関係も忘れてはなりません。地球規模の環境破壊が世界的に大きな問題に

なっています。森林破壊や大気・水質汚染が、気候の変動、酸性雨、オゾン層などを引き起こして地球環境に深刻な影響を及ぼしています。すでに、多くの動物や植物が地上から姿を消し、絶滅寸前の状態にある生物も少なくありません。自然環境の破壊は、私たち人間もふくめたすべての生命を存続の危機に直面させることになりかねません。

環境破壊は、人間の暮らし方に密接に結びついています。とくに私たちの豊かで便利な暮らし、消費生活のあり方が、地球環境に大きな負担をかけています。そのため、自然との共存を考えた社会をつくりあげなくては私たちの未来はありえないことを忘れてはなりません。

●不公正性

現在の人類社会には、先進国と開発途上国の人びとの格差、国内で広がる経済格差などをふくめて、さまざまな不平等、不公平という状態があり、これらは簡単には解決されない大きな問題となっています。人びとは、生まれた国・地域・社会・家によって、一方は豊かで健康な生活、十分な教育などを得る機会があり、他方はその機会をもたず、また努力しても貧困・飢餓状態を逃れられない人びとも多いのです。つまり多くの人びとが、自分の将来を自分で切り開く機会を得られない状態にあります。このような問題を地球規模の不公正としてとらえ、

これらの状態一つひとつを改めて、より公正な社会を築くことに私たちは努力していく必要があります。

●多様性

世界には多様な文化が存在します。風俗、習慣、宗教、あるいは、考え方、価値観などが、国や地域によって特徴づけられることもあれば、同じ国や文化圏であっても個人によってさまざまなこともあります。

かつては、男女、世代、人種、国といった固定的な枠組みが、人びとの価値観や考え方、行動を方向づけるものだと考えられがちでした。しかし、今日では、交通手段の進歩によって世界の人びとの交流が盛んになり、また情報手段の発達によって、こうした要素と関係なく、人びとの価値観、考え方、習慣などが多様化する傾向にあります。

したがって、自分の価値観だけをたよりに世界のことがらや他の人びとに対して判断を下してしまうと、ものごとの本質をとらえられずに誤った結論に達しやすいものです。他の人の考え方や、やり方を幅広く知り、そして同時に自分の価値観や視点を相対的にとらえられるようになること、その上で、それぞれのよい点を学ぶことが、世界についての理解を深め、自分自身についての理解を深めることにもなります。

●変化する社会

今日の世界は、あらゆることがすさまじい勢いで変化しています。この1年をふりかえてみてください。自分の身のまわりで、日本で、世界で、どんな変化がありましたか。

この先、みなさんをとりまく世界はどのようになっているでしょう。マルチメディアなどの技術革新、世界の政治・経済などはどのように変化しているのでしょうか。おそらく予測しがたいことでしょう。

そんな予測のつかない不確実な社会で、市民としての責任を果たしつつ、なおかつ自分自身の関心や興味を満たし、充実した生き方をすることができるのでしょうか。

個人的な困難にも、さらには、地球や世界のかかえる戦争、飢餓、貧困、環境破壊などの多くの課題に対しても、悲観的にならずに解決の道を探って立ち向かっていかなければなりません。

世界の人びとが信じ合い、それぞれの生き方を理解し、心と心が結び合えることはとても大切です。そうしたさまざまなことに対応できる力を身につけていくことこそ、いま、みなさんに求められている課題といえるでしょう。

国際協力・援助を理解する

先進工業国を目標に—開発援助の誕生

第2次世界大戦が終わると、アジアやアフリカでは、それまで植民地だった地域が独立して、新しい国が次々と生まれました。しかし、その大部分は厳しい貧困と政治的不安定に苦しんでいました。そこで、豊かな北の先進工業国が、それらの南の国々の経済の自立と発展のために始めたのが開発援助です。北の国々には、南の国々の植民地化や戦争の拡大などに大きな責任があったのです。また、豊かな国が貧しい国を助けるのは当然の義務だという考えも広まりました。

開発援助が本格的に始まった1950年代当時、発展のモデルとされたのは、近代化された先進工業国でした。工業化を進めることによって経済が成長し、それによって人びとの生活もよくなり、国が発展すると考えたのです。世界の代表的な援助機関である世界銀行や国連開発計画を中心に、そのような援助が進められました。

この方法で、まず日本が、その後にはNIEs(新興工業経済地域)とよばれる国々などが大きく成長することができました。しかしその一方で、技術や資源が乏しい国などでは工業化がなかなか進みませんでした。中南米などでは、工業化するための資金を借り入れたものの、見込みどおりに経済発展できず、借金の返済のため経済がさらに苦しくなった例もあります。また工業化が進んで

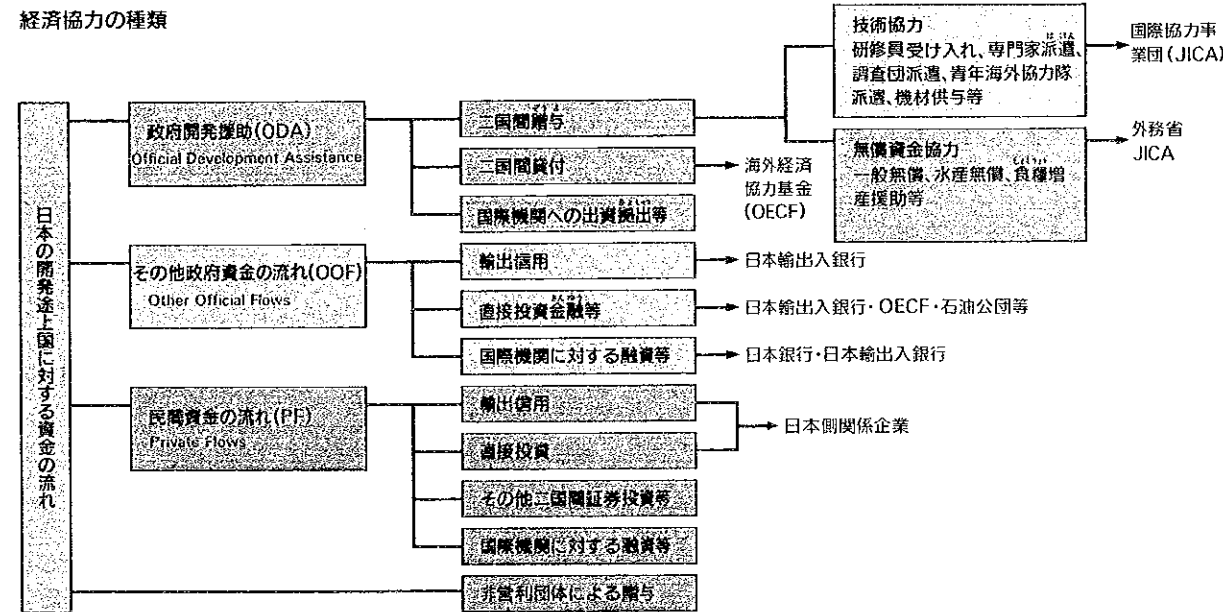
も、豊かな人がより豊かになるだけで、貧しい人の生活はよくなる国も多く現れました。

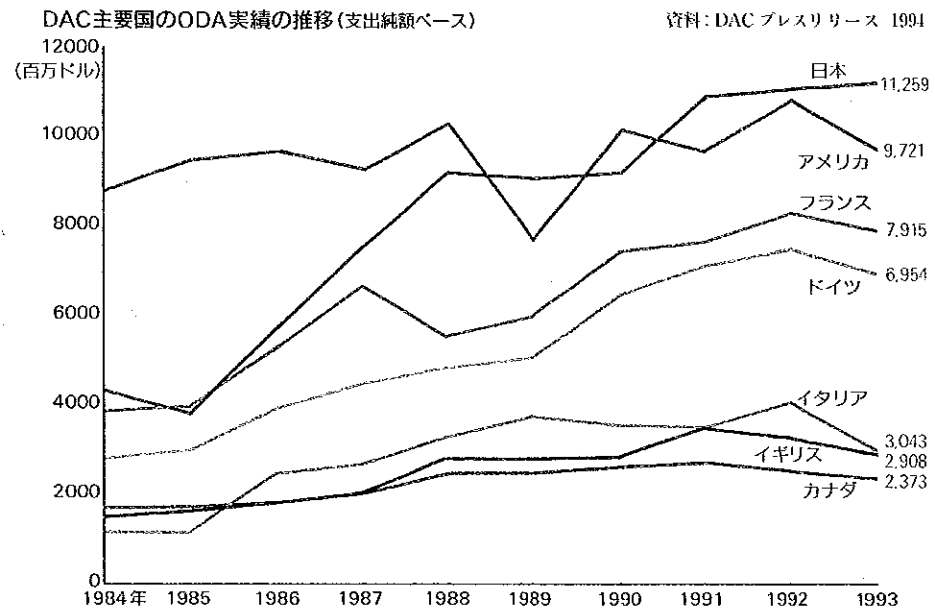
こうして、工業化と経済成長をめざす開発援助だけでは、貧困の問題を解決できないことが明らかになり、貧しい人々の生活の向上にもっと直接役立つような援助の方法が、もうひとつの柱として打ち立てられました。それが次のベシック・ヒューマン・ニーズの援助です。



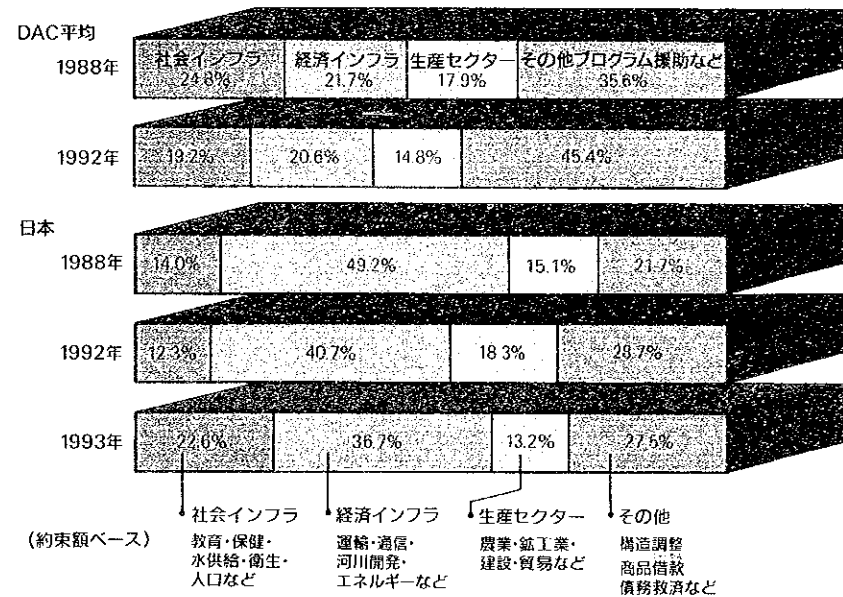
自動車の整備技術の指導をする専門家(タイ)

経済協力の種類

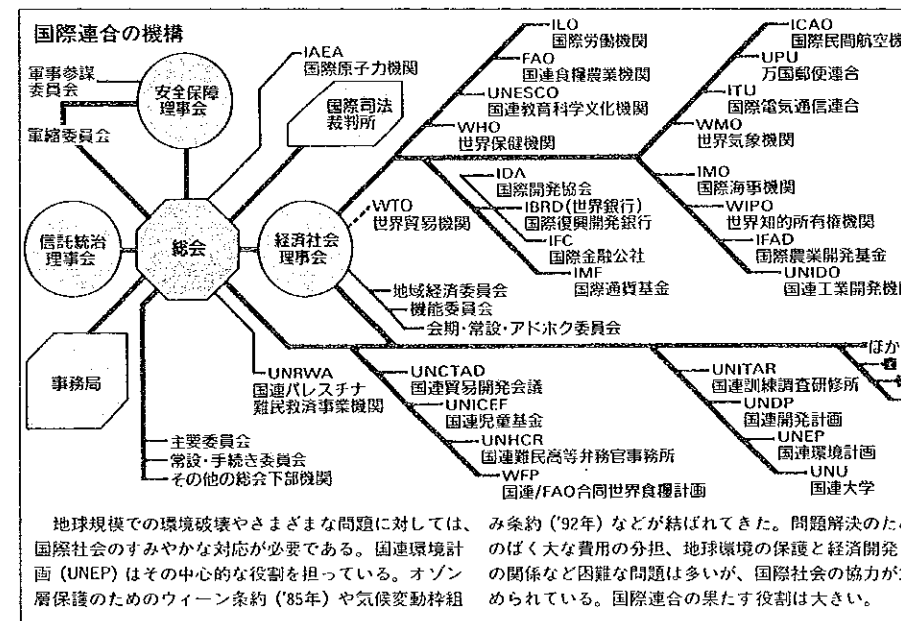




ODAの分野別配分の変化 資料: 通産省「経済協力の現状と問題点」1989 外務省「我が国の政府開発援助」1994



サラエボへ向かう国連トラック



人間開発指標 = HDI

その社会が本当に豊かであるかどうかは、GNPだけでは測れない。そこで国連開発計画が、各国の総合的な開発の度合を測ろうと、1990年から導入したのが、人間開発指標 (HDI=Human Development Index) である。それは国民の平均寿命、教育達成度、1人あたり所得の3つを指標にとっている。それによると、先

進国はどれもHDIは高い。スリランカ、コロンビアなどはHDI順位が所得順位をはるかに上回り、逆に中東の産油国は所得順位がHDI順位をはるかに上回っている。ただ、それによると世界でHDIが高いのはカナダ、スイス、日本ということになるが、日本人の多くは、自分たちが豊かな生活を送っているとは思っていないようだ。

ベーシック・ヒューマン・ニーズの援助

1970年代に入ると、工業化中心の開発援助への反省から、世界銀行やILO(国際労働機関)などの国際援助機関はベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN=Basic Human Needs)の優先という考え方を打ち出しました。ベーシック・ヒューマン・ニーズとは、衣食住など、人間が生きていく上で最低限必要とされる条件のことです。そのような条件が満たされていない最も貧しい人びとに対しては、食料や飲料水の確保、医療サービスの整備、初等教育の充実、雇用のチャンスの拡大などを助けるような援助を集中して行う必要があります。

こうした援助は、保健衛生部門などで着々と成果をあげ、その後の開発途上国全体での乳幼児死亡率の低下や平均寿命の伸びはめざましいものがあります。これには、私たちに身近なユニセフ(国連児童基金)やWHO(世界保健機関)が、予防接種の普及などを通して大きく貢献しました。初等教育の普及も着実に進み、そこではユネスコ(国連教育科学文化機関)が重要な役割を果たしました。

しかし、その一方で、戦後の世界は、アメリカを中心にした西側と、ソ連を中心にした東側に分かれ、それぞれが自分の味方を増やすために援助を利用しようとしました。そのため、実際の援助では、内容より金額が重視され、ベーシック・ヒューマン・ニーズへの援助がおろそかにされることもありました。その上、開発途上国でも、冷戦や政治的不安定のために軍事費が増大し、国民生活の充実より軍備が優先される傾向が続きました。

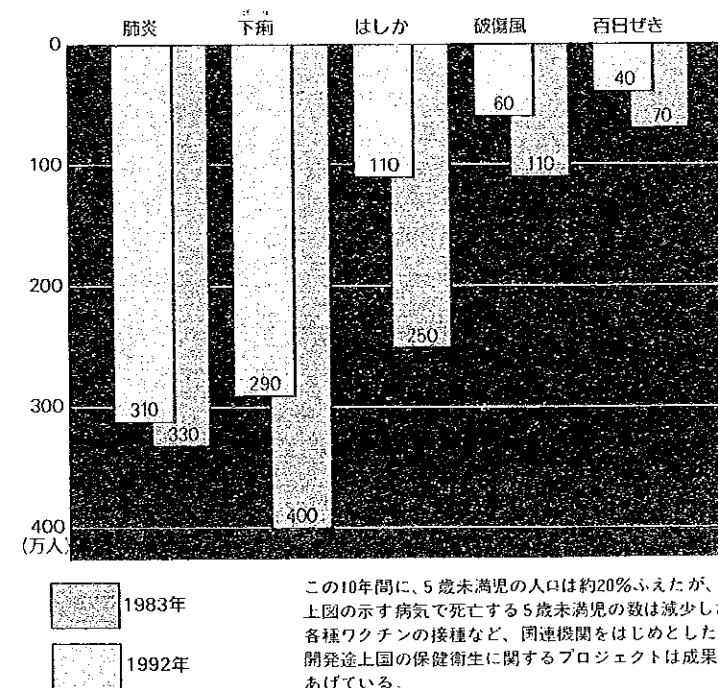
こうした事情のもと、援助は、多くの国において貧しい人たちの生活向上に十分役立ったとはいえ、その間にも世界の貧困人口は増え、貧富の差は拡大し、南北問題はさらに深刻化したのです。



母親の健康を守ることはすべての生活改善につながる

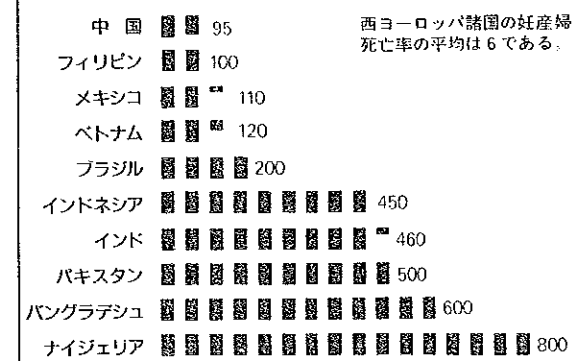
5歳未満児の主な病気による死亡数

資料: ユニセフ「世界子供白書」1994



妊産婦死亡率 (出生10万人あたり、1980~92年)

資料: ユニセフ「世界子供白書」1994



アフリカの人びとに安全な水を

アフリカには、衛生的な飲み水を得られない人びとが今も多くいる。そのような人びとのために井戸を掘るのは、ひとつのベーシック・ヒューマン・ニーズの援助である。日本も、国連のよびかけに応じて、1980年から1991年までに、アフリカの21か国で74件の地下水開発プロジェクトを実施した。

アフリカの村落で安全な水を得られる人の割合は1980年には33%だったが、多くの国々の協力の結果、1990年には42%まで上がった。しかし、こうして掘られた井戸が壊れたままになっているところも少なくない。今後は、井戸を増やすと同時に、その施設を使う地域の住民たちが、外部からの援助がなくても自分たちで維持管理していけるように、協力を進めていく必要がある。

そのためには毎日井戸を利用する女性たちの参加が、何よりも重要となってくる。水に対する保健衛生面の知識の普及や、子どもたちの健康や病気に対する教育なども、あわせて行われることが重要だ。

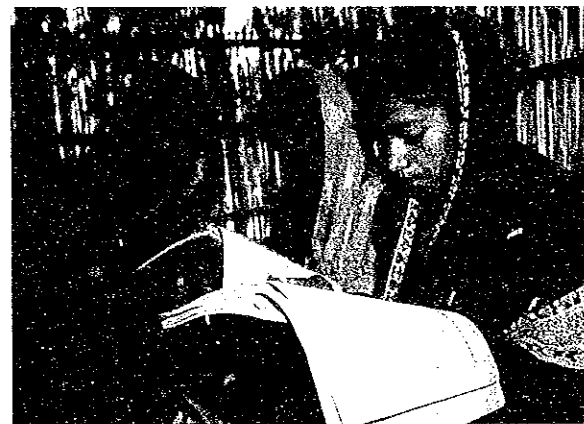
持続可能な開発をめざして

1980年代後半に、世界では、衣食住も十分でない絶対的貧困者の数がさらに増えていること、開発が進むなか、地球規模で環境が急速に悪化していることに対する関心が高まりました。さらには、世界のどこかで毎年のように起こる災害、飢饉、そしてその結果としての大量の難民流出の背景には、多くの場合環境破壊があることが強く意識されるようになりました。地球環境の破壊、貧困の拡大、人口増加の問題は、切りはなして考えることのできない、しかも世界全体の問題なのです。

そこで、経済発展のためには環境や生活が一時的に犠牲になってもやむをえないという開発のあり方への批判が強まり、環境と開発はともに手をたずさえて進むべきだという考えが国際的に広まりました。これは「持続可能な開発」とよばれ、地球の開発を進めていく上で最も大切な柱だと考えられています。そこには、単なる環境問題だけでなく、貧困に苦しむ人びとや社会的に弱い立場に置かれている人びともふくめ、世界中の人びとが人間らしい生活を将来にわたって続けていくためには、私たちはいま何をすべきかという根本的な問いがふくまれています。

さらに、政府や援助機関がいくらお金を使っても、貧しい人たちが自分で開発活動に参加できなければ、貧困はなくなるという考え方も強まりました。

またベシク・ヒューマン・ニーズや環境を重視する開発について、近年、女性の役割がとくに注目されるようになりました。女性たちは育児や水くみなど生活の場に毎日身を置いていながら開発協力から疎外されがちでした。しかし、社会的弱者としての女性たちの参加こそが貧困の緩和や開発協力の推進役となり、社会を変えようという視点が重視されるようになってきています。



識字率の向上はひとつの前進である

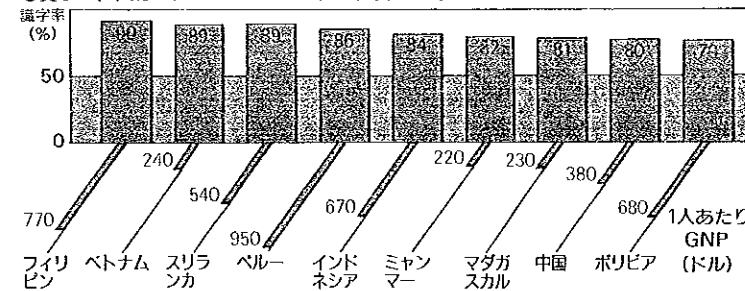


地域ぐるみで家族計画の指導を受ける

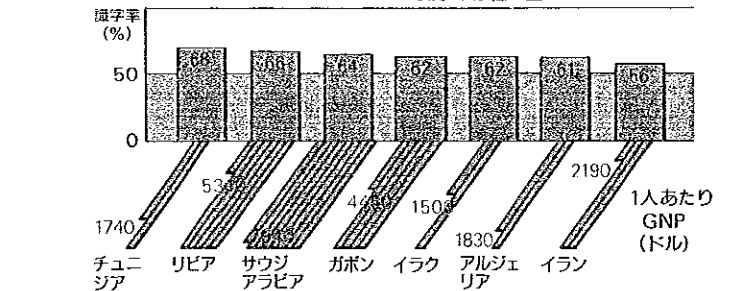
GNPとの比較にみる識字率の高い国、低い国

1992年

● 貧しい(1人あたりのGNPが1000ドル以下)が識字率の高い国



● 豊かな(1人あたりのGNPが1500ドル以上)だが識字率が低い国



ほぼすべての国が、今世紀末までに子どもの80%が初等教育を受けられるようにするという目標を立てている。いくつかの国が識字率を高めた。

資料: UNDP「人間開発報告書」1991 『世界銀行アトラス』1991

タイ環境研究研修センタープロジェクト

タイは現在、めざましい経済発展を続けているが、急激な工業化や都市化のために、大気や河川の汚染、騒音などの環境問題が非常に深刻になっている。

そこで、JICAは、タイ政府の要請を受けて、1990年から5年の計画で、タイ環境研究研修センターの設立と運営への協力を行っている。プロジェクトでは、水や大気のごくあいを測る機械を援助したり、環境問題の研究者や汚染防止の専門家を育てるための研修を実施している。

日本が、環境汚染の問題を克服する過程で得た技術や経験は、タイをはじめとする開発途上国が直面している環境問題に取り組むために役立つと考えられ、日本からの協力が強く求められている。

【解説】日本の援助の歴史と仕組み

日本は世界の経済大国として、またアジアの先進国として、国際協力に対する貢献を世界から強く期待されている。1994年度の日本のODA(政府開発援助)の総額は1兆6000億円あまりで、これは世界最大の額である。国民1人あたりに直すと1万円以上になる。

しかし、GNPIに対する援助額の割合は0.26%で、DAC加盟21か国中第18位とまだ低い。DACでは0.7%を努力目標と定めて各国に援助の増額をよびかけており、これにできるだけ近づけることが期待されている。

ODAの形態は、二国間贈与としての無償資金協力と技術協力、二国間政府貸付としての有償資金協力(円借款)、多国間協力としての国際機関に対する出資・拠出——の4つが

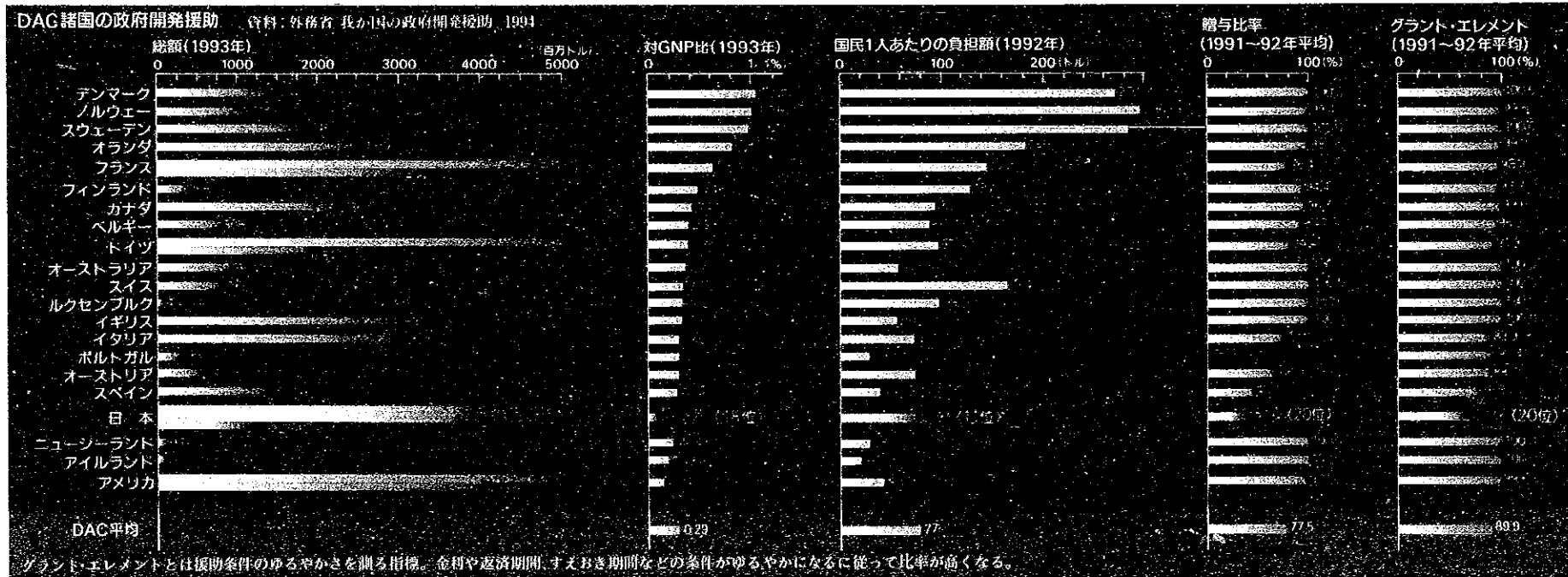
柱である。二国間贈与と貸付は、日本と相手国政府の話し合いで用途が決められ、ODA全体の4分の3ほどを占める。残りの4分の1ほどが多国間協力で、世界銀行、WHO、ユニセフ等の国際機関を通じて使われる。

実際の業務では、技術協力を国際協力事業団(JICA)が、無償資金協力は外務省が、借款を海外経済協力基金(OECF)が実施している。

いまでは援助する側になった日本だが、第2次世界大戦後は援助を受ける側として出発した。ユニセフによる脱脂粉乳などの食料援助を受けたことはいまでもよく語られる。しかし、東海道新幹線などの社会基盤の整備も世界銀行の資金貸付を受け、1990年にその返済が終わったことはあまり知られていない。

援助を受ける一方で、日本が戦争で損害をあたえた国々への賠償としての資金提供が1954年に始まり、これがその後の日本によるアジアの国々への資金協力につながった。

その後、援助をとりまく世界の情勢は大きく変化した。ODA供与国として金額ではアメリカをぬき世界のトップになり、援助に対する国民の関心も高くなった。1992年にはODA大綱を定め、援助の基本方針を示した。従来の「人道的考慮」と「国際社会の相互依存関係」の認識のほかに、地球環境問題をふくむ「環境保全」、「途上国の自助努力」を基本とし、「人権を重視」し、「世界の平和の維持」を目指したものとなっている。



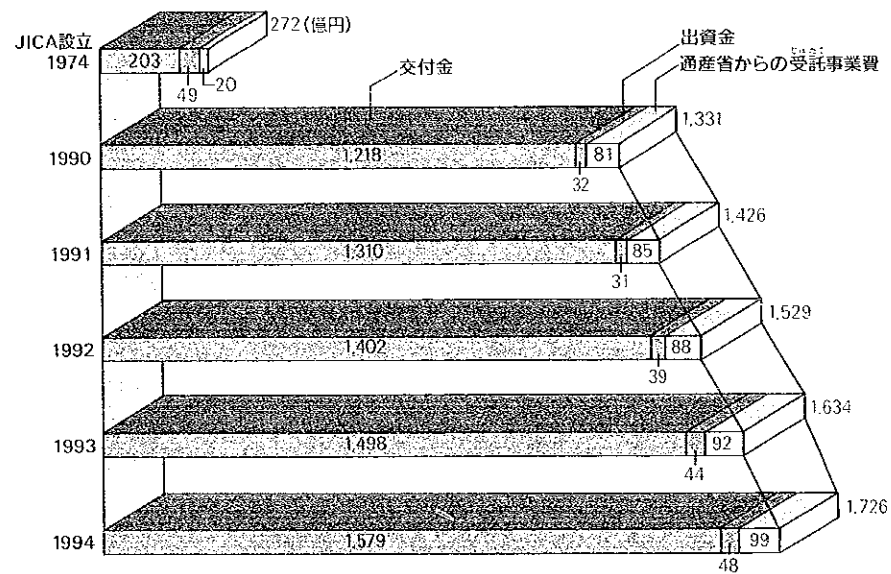


パキスタンでの建設機械技術訓練

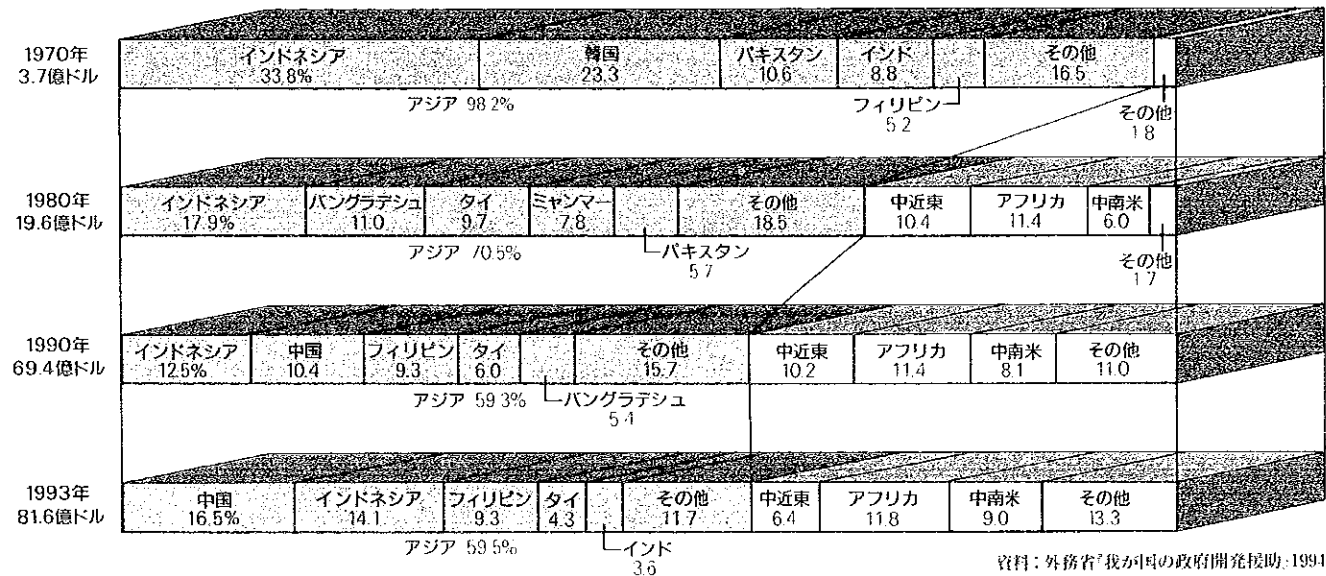


中国の農業総合試験場で働く専門家

国際協力事業団(JICA)予算の推移 資料:『国際協力事業団年報』1994



日本の二国間ODAの地域別・国別割合の推移



資料:『外務省我が国の政府開発援助』1994

日本のODA



これまで、日本の援助は、欧米諸国に比べて借款（資金の貸付）の割合が高いという批判があったが、最近では、無償援助や技術協力の割合を増やし、農村開発、教育、保健・医療など住民の日常生活の向上に直接つながる援助に力を入れている。そして、JICAは専門家を派遣して、開発計画の立案や実施に協力するなどしてその作業を担っている。

一方、自立をうながすという観点からすれば、ある程度力のある国への援助は、借款のほうが望ましいという考え方もある。

援助では、金額だけでなく、それがどれだけ現実に即しており、役に立つものかという視点が非常に大切である。人材の育成を重視する援助としては、青年海外協力隊によるボランティアの派遣に積極的に取り組み、派遣した隊員の総数は約1万5000人にのぼっている。

国内において新しい援助時代に向けて、国際協力の理解と参加を求め、きめ細かい援助をさらに充実していくためにNGO（民間団体）や地方公共団体などとの連携を強化していくことも重要である。

エピソード 国際協力の現場から



アルプスを越える3人の少年

JICAの農業専門家として途上国で農業技術指導に長くたずさわりの、また「風の学校」を主宰し、海外協力にたずさわる若者たちを指導していた中田正一さんは、中学生のとき、先生から次のような話を聞かされました。「あるときA君、B君、C君の3人の青年がアルプス越えの旅をしていた。しかし、あと一歩というところで吹雪にあい、B君が疲れと寒さで倒れてしまった。それを見たC君は『僕は先に行って援助をたのんでくる』と2人を残して行ってしまった。A君はしかたなくB君を支えて、厳しい寒さのなかをゆっくりと進んで行った。すると、あと少しで人里に出る手前でC君が雪のなかに倒れて凍死しているのを発見した。A君はそこで気がついた。自分はB君を支えるために彼によりそって進んできたので、たがいの体温のおかげで凍死をまぬがれたのだということに。B君を助けたつもりだったのに、実はA君はB君のおかげで助かったのだ。」

中田さんがなぜ援助にかかわるのかと聞かれたとき、いつも答えとしていたのがこの話でした。中田さんの言葉にも態度にも「援助してやる」というような傲慢なところがいっさい見られなかったのは、この「助けることは助けられること」という哲学が生涯心にあったからに違いありません。



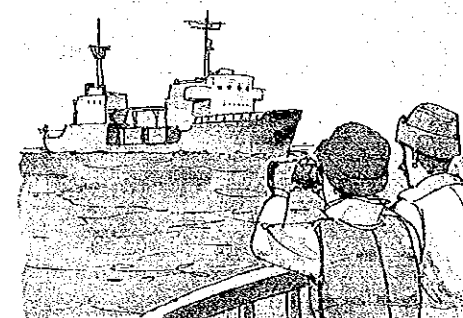
青年海外協力隊から

中森麻也子さんが青年海外協力隊のことを知ったのは、高校3年生の夏、地元の新聞記事を通してでした。中森さんは、そのとき、自分も隊員になって開発途上国の人びとのために役立とうと心に決めました。

そのためには開発途上国で役立つ技術を身につけなくてはならないと考え、大学で映像制作を学びました。そして、卒業後すぐに協力隊に応募して合格しました。まわりの人のなかには、一度社会に出ていろいろ経験してからにしては、とアドバイスする人もありましたが、中森さんは自分の目標に向かって一直線に走りたかったのです。数か月の派遣研修を受けた後、中森さんはフィリピンに赴任しました。仕事は政府事務所でのビデオ制作・企画担当でした。

初めは自信满满だった中森さんでしたが、開発途上国の厳しい現実のなかで、すぐに自信はうちくだされ、自分は何のために来たのかと悩みました。しかし、先輩やまわりの人たちに励まされて続けるうちに、徐々に自分の役割を果たしていけるようになりました。

中森さんは、高校生のときから協力隊員になることをめざしてがんばってきたけれど、実はそれはゴールではなく、人生にとっても国際協力活動にとってもスタートラインだった、といまでは思っています。



世界のNGO

1993年の10月、ロシアの太平洋艦隊が日本海に放射性廃棄物を投棄したことは日本人にとって衝撃的な事件でした。その際、最初に事実を確認して世界に報告したのがグリーンピースというオランダの環境保護団体だったことは、私たちにとって別の意味での驚きでした。

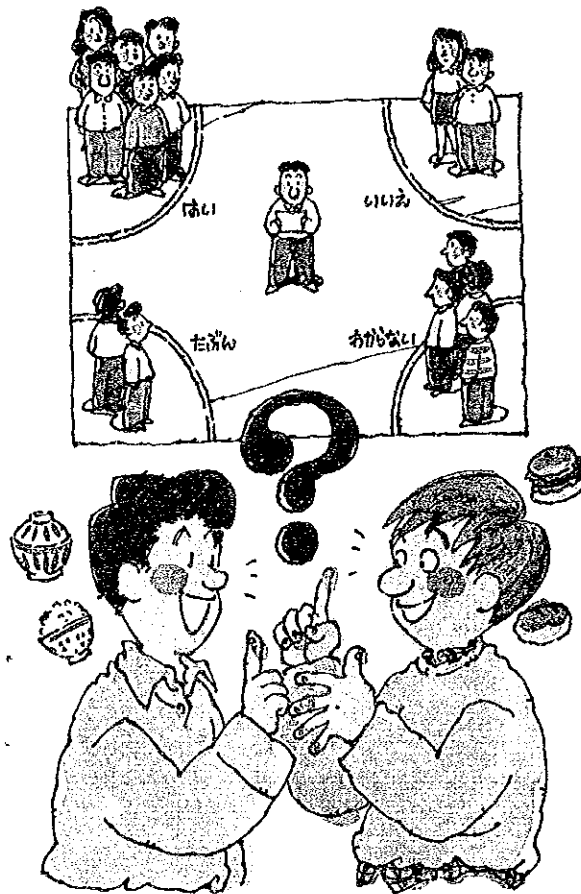
また、世界のさまざまな地域での人権抑圧の事実を最も早く察知して世界世論に警告するのは、イギリスに本部をおくアムネスティ・インターナショナルです。アフリカなどで飢餓が発生した際、最初に現場に飛び、緊急救援を始めるのもイギリスのオクスファムという団体などのボランティアたちであることが多いのです。

これらの団体はすべてNGOとよばれる非営利の民間団体で、活動の財源は一般の人たちの寄付によって、そして活動は多くのボランティアたちによって支えられています。多くの場合、その支援の広がりはいへん国際的で、さまざまな国の人びとがボランティアとして参加しています。

NGOといえは日本の私たちに手づくりの小さなボランティアグループというイメージがまだ強いのですが、欧米ではこのように政府機関や大マスコミもかなわないような機動力と情報力をもって世界的に活躍している団体も少なくありません。

●やってみよう

4つの コーナー



ねらい

世界にはさまざまな国があり、文化がある。多様な価値観が存在する。自分たちの身のまわりではどうだろう。同じ国や文化圏であっても、個人によって多様な価値観、考え方、好み、感情が存在するだろうし、反対に、国や文化が異なっているからといって、必ずしも違っていることばかりではないだろう。まずはクラスのなかでこの「多様性」を味わう活動をしてみよう。クラスメートの意外な一面、自分との共通点や相違点など新鮮な発見ができることを期待して…。学年のはじめに、自己紹介をかねて学活に取り入れるのもよいだろう。

準備

室内に全員が動き回れるスペースをつくり、その空間の4つの角に「はい」「いいえ」「たぶん」「わからない」と表示する。

進め方

1. 進行役を1人決める。
2. 進行役は用意した問いを読み上げる。他の人は、その問いについて賛成の場合は「はい」の表示のあるところ、反対の場合は「いいえ」、断言はできないがおそらくそうだろうと思うときは「たぶん」、わからないときは「わからない」の表示のあるところにそれぞれ移動する。正解はないので、あまり考えすぎずに動くことが大切。
3. 進行役は全員が移動したところを見はからって、次の問いを読み上げる。
4. 移動するごとに、自分のまわりの顔ぶれを見回してみよう。すべての問いで自分と同じところに動く人がいるだろうか。

5. 準備した問いを一通り終えたら、同じ問いを使ってやり方を少し変えて行う。今度は、各自の判断ですぐ移動するのではなく、近くの人（たち）とその問いについて意見を交換した上で自分の意見を決めて移動する。ただし、話し合った人と合意して同じところに行く必要はない。進行役は、各問いを読み上げた後、話し合いの時間を2～3分とり、全員が移動したのを確かめてから次の問いに進む。

6. 活動を終えたら、次の点を話し合ってみよう。

- ・この活動を通してどんなことに気づいたか、どんな気持ちがあったか。
- ・最初に一人ひとりで動いたときと、2回目にほかの人と話し合ってから動いたときでは、自分の場所が変わった問いがあったか。
- ・ほかの人たちの意見を聞いていてあなたはどう思ったか。

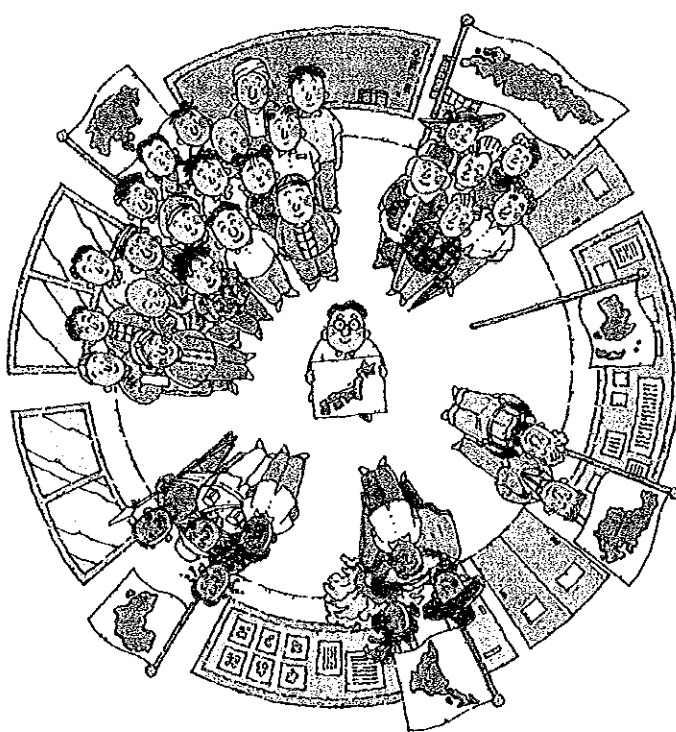
〈問いの例〉 10ぐらいの問いを用意しておく。

- ・学校週5日制はのぞましい。
- ・子どもは親のいうことに従うべきである。
- ・お金があればどんな人でも幸せになれる。
- ・自分の家族が飢えていれば、盗みをしてでも許される。
- ・笑顔は友だちをつくるのに役立つ。
- ・女性は男性より料理をつくるのがうまい。
- ・スパイスのきいたカレーが好きだ。
- ・ヨーロッパの国よりアジアの国へ行きたい。
- ・民族音楽よりクラシック音楽が好きだ。
- ・アフリカの国名を5つ以上言える。

【参考文献】「ERICニュースレター6号」ERIC・国際理解教育センター

●やってみよう

もしも私たちの
のクラスが
世界なら…



ねらい

世界の人口分布について数字で知るだけでなく、目に見える、実感をともなった形でとらえてみよう。また開発途上国のさまざまな問題をどのくらいの人びとがかかえているか、人口対比で見て理解しよう。

世界の人口は1994年に56億6550万人、そのうち開発途上国の人口は44億2790万人、先進国の人口は12億3760万人である。また、このままでいくと世界の総人口は21世紀の中ごろには100億人に達するともいわれている。

開発途上国のおかれている状況は非常に厳しく、たとえば、アフリカのサハラ以南の地域では生まれた子どもの1000人のうち160人が5歳までに死亡してしまう。また、南アジアは世界でも貧しい地域のひとつで、識字率が50%にも達していない国が多い。1人あたり国民所得はバングラデシュで220ドル、ネパールで180ドルととりわけ低い。

私たちは、上のような数字の並ぶ文章や統計を教科書をはじめとしてさまざまな情報のなかで目にする。しかし、私たちはこうした数字をどれほど明確に理解できているだろうか。あまりにケタ数が大きく想像がつきにくかったり、私たちの身のまわりの状況と比較しにくかったりするため、数字のもつ意味がわからないままやり過ごしてはいないだろうか。こうした数字や統計をもっとわかりやすくする方法はないのだろうか。

世界の人口が100人だとするとどうだろう。上の文の現状をそのまま換算しておきかえると、100人のうち先進国の人口は22人、開発途上国の人口は78人となることがわかる。少し理解しやすくなったかな。もっと目に見える、実感をともなった形にならないものか。自分たちのクラスを世界の縮図として考えてみるとどうだろう。

進め方

1. 世界の統計をもとに自分たちのクラスの人数に換算して下の表を完成させよう（簡略化のため世界の総人口を100人とする）。

	世界の統計値	自分のクラス
アジアに住む人	59	
アフリカに住む人	13	
中・南アメリカに住む人	8	
北アメリカに住む人	5	
オセアニアに住む人	1	
ヨーロッパと旧ソ連に住む人	14	
日本人	2	
中国人	21	
字が読めない人	50	
学校へ行ったことのない人	15	
保健サービスを受けられない人	20	
<small>(※自分の家の周囲500m以内に病院、保健所がない人を指す)</small>		
60歳まで生きられない人	10	
清潔な水を使えない人	30	

2. 上の表が完成したら、クラス全体で各項目の数に合わせて、順番にその人数の人に立ってもらおう。

3. 上の表からわかったこと、実際に自分のクラスにおきかえてみて感じたことなどを話し合う。

【参考文献】『フード・ファースト・カリキュラム：食べものを通して世界を見つめよう』ローリー・ルービン著 ERIC・国際理解教育センター
『世界人口白書1994』UNFPA・国連人口基金
『人間開発報告書1994』UNDP・国連開発計画

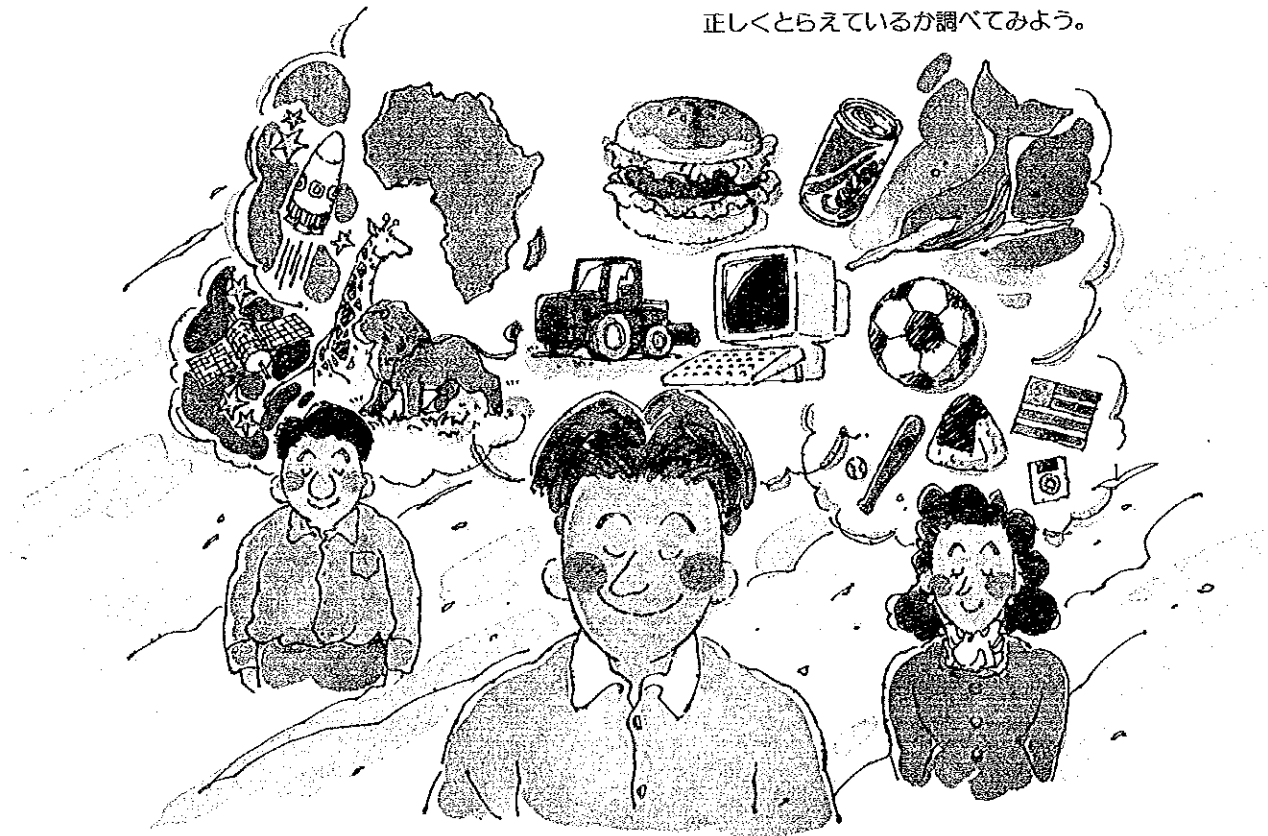
●やってみよう

イメージと現実

ねらい

現代は世界中のできごとをリアルタイムで知ることができる時代だといわれる。さまざまなメディアを通して地球のあちこちからニュースが伝えられる。ニュースばかりでなく、音楽、映画、文学、美術、ファッション、食べ物なども国境を越えて楽しむことができる。では、こうした情報や流通のおかげで、私たちは世界の現実をよく知っているといえるのだろうか。私たちは特定の人（ひと）、もの、こと、国・地域などに対してさまざまなイメージをもっている。こうしたイメージはどれほど現実を反映しているのだろうか。また、どのようにして個人の頭のなかにイメージがたくわえられていくのだろうか。

自分はどんなイメージをもっているか、それは現実を正しくとらえているか調べてみよう。



進め方

1. 次の言葉から連想されるイメージをできるだけたくさんあげてみよう。各自で書き出してもよいし、ペアで片方が話し役、もう一方が聞き役で記録し、途中で役を交代してもよい。正しい答えや間違っている答えはない。
 - ・米、ハンバーガー、コカコーラ、グリコ、アフリカ、セブンイレブン、有機栽培、オーストラリア、サッカー、パソコン、災害、貿易、農業、アジア、ナタデココ、バングラデシュ、貧困、差別、年金、開発途上国、韓国、外国人労働者、ペルー、コマーシャル、大学、農薬
2. 4~6人のグループをつくり、1であげられたイメージをたがいに見せ合って次のことを考える。
 - ・全員に共通するイメージ、連想のしかたにかたよりのある言葉があったか。それはどんな言葉か。その言葉のイメージはどんなところからきたものか。
 - ・連想しにくい言葉があったか。それはどんな言葉か。
 - ・全員のイメージにばらつきのある言葉があったか。それはどんな言葉か。どうしてばらつきが出たと考えられるか。
 - ・イメージは現実を表しているといえるだろうか。
3. クラス全体で、各グループの報告を聞き、話し合う。

【参考文献】『フード・ファースト・カリキュラム：食べものを通して世界を見つめよう』ローリー・ルービン著 ERIC・国際理解教育センター

●やってみよう

写真をよむ

ねらい

事実やイメージを伝える重要な媒体のひとつに写真がある。1枚の写真は、それを見た人にさまざまなことを推測させ、場合によっては強烈な印象をのこす。また、写真は文字と併せて使われることが多い。新聞、雑誌、書籍の写真には説明文や見出しがつき、広告などでは宣伝文句がそえられて、写真の伝えるイメージに影響をあたえることになる。あなたは、1枚の写真をじっくりと見たことがあるだろうか。共感をもって見たことがあるだろうか。説明書きにたよらず、写真に写っているものだけをもとに、どれだけのことを読み取れるか、どれほど共感できるか確かめてみよう。

準備するもの

写真（新聞・雑誌の切り抜き写真、写真集などで人物の写っているもの。ただし説明文は見えないようにしておく）と白紙を各グループに1枚ずつ

進め方

1. 3～5人のグループをつくる。各グループに写真と白紙を1枚ずつ配る。
2. 各グループで、写真をじっくり観察して、そこに写っているもの、あるいは明らかにわかる事実だけをすべて紙に書き出す。
3. 2で書いた紙を近くのグループと交換し、それぞれ書かれた内容から相手のグループの写真を想像する。（約3分）
4. 3の相手と写真を交換する。写真と文とを比較して、推測や誤った読み取り方がされていないかを確認する。
5. 写真と紙をもとのグループにもどす。
6. 各グループで、写真に写っている人に聞いてみたい質問を話し合いながら書き出す。
7. クラス全体で各グループの報告を聞き、この活動から気づいたこと、感じたことなどを話し合う。

【参考文献】「グローバル・セミナー事例集'91」ERIC・国際理解教育センター

●次のページの写真をを使って「写真をよむ」をやってみよう。



(41ページ写真) 街の橋台にそびえる、シエ・ダゴン・バコ民たち (V.イ・クラフツェ)

(42ページ写真) 雨期になり増水した川を小舟で移動する農夫 (仏教寺院)を訪れる人びと (ミャンマー)





3章 私たちにできること



学校でできること

・ アルミ缶の回収でネパールに学校を——— 東京都世田谷区立希望丘中学校の場合

「アルミ缶の回収でネパールに学校を建てよう！」それはいまから5年前、保健委員A君の発案で始まりました。

A君は、夏休みのボランティア活動の一環として障害児施設での体験学習に参加したとき、世田谷ボランティア協会の人から「ネパールのタルパ村では学校がないため子どもたちは学校に行けない」という話を聞きました。

そこで、何かできないかと考えた末、「ぼくたちが学校を建てるお金を集めよう」と、アルミ缶回収を生徒会に提案。「だれものってくれなかったらどうしよう」という不安もあったけど、意外に話はすぐまとまり、目標額を50万円に設定しました。

はじめのうちは、全校生徒の協力を得るために、いい出しっぺの生徒たちが「ネパールに学校を」「空き缶回収にご協力を」と書いたのぼりを作って、登校する生徒に協力をよびかけたりしました。「エッ、本当に50万円が学校が建つの?」「空き缶1キロでたったの100円だよ。いつになったら学校が建つんだよ」など、みんなからとまどいの声も聞かれました。

でも、始めてみると、徐々に家から空き缶を持って登校する生徒が増えはじめ、学校周辺の道路わきや公園の空き缶拾いも始まりました。集められた山のような空き缶は生徒の足でつぶされ、廃品業者に。

こうして活動は軌道に乗り出し、そのうち、回収作業を行うボランティア会という組織が、学校内に新たに発足しました。ボランティア会は、①できる者ができるだけのことをする、②月曜日と水曜日の放課後を定期作業

日とする、③全員がリーダーである、ということだけを申し合わせた、全校生徒だれでもが入れるゆるやかな会です。

この話を聞いて、タルパ村からネパールの人がお礼の挨拶にみえ、ネパールとの交流が始まったことも、運動に拍車をかけました。また、卒業生をはじめ、近くの住民が学校までアルミ缶を持ってきてくれたり、団地や商店のなかに回収に協力してくれるところができたのも、うれしいことでした。こうして、よびかけから2年後には目標の50万円がたまり、1992年5月、タルパ村に石づくり2階建ての校舎が完成。ネパールに学校をという、生徒たちの夢がみごとに実を結んだのです。

この活動を通じて、生徒たちはさまざまなことを学びました。目標を決めてそれが達成できたときの感激、ゴミを捨てるときのマナーの悪さ、アルミ缶や牛乳パックなど再利用できるものはたくさんあること、50万円というお金の価値、ネパールという国を身近に感じるようになったことなどなど。

学校のあとは教科書を贈ろうということで、1993年の末には、ネパール語で印刷された教科書を贈ることができました。

このように、ネパールの小さな村の人たちと東京の中学校の交流が深まっていったのは、両者の間におたがいを理解して、友だちになりたいという気持ちがあったからです。同時に、その気持ちを大切に活動をフォローする周囲の温かい目があったことも見逃がせません。

ただ“お金だけ出せば学校が建つ”というわけではないのです。

現在、ボランティア会の会員は、全校生徒の3分の1の約100人。地域の人びとをまきこんだ希望丘中学のアルミ缶集めは、いまでも続けられており、今後、後輩たちにも伝えられていくことでしょう。

・ 学校でできること

1 募金活動をして、海外協力をしている
市民グループ・団体を支援する。
どの団体に送るか、調べてみるのも一考。

募金の方法は、それぞれ知恵のしぼりどころ。たとえば、

- ・ 廃品回収。
- ・ 毎月1回「粗食の日」を決めて、デザートやお菓子をやめて、その分を募金。
- ・ 学校で栽培した野菜や花の種などを売る。
- ・ 牛乳パックで手すきはがきを作って売るなど。

2 書き損じ官製ハガキ(a)
使用済みテレホンカード(b)
などを学校で集めて送る。

PHD協会 (a)
〒650 兵庫県神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892

アジア学院 (a)
〒329-27 栃木県那須郡西那須野町大字槻沢442-1
TEL 0287-36-3111

日本ユネスコ協会連盟 (a)
〒150 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12F
TEL 03-5424-1121

アフリカ友の会 (b)
〒196 東京都昭島市中神町1263-22
TEL 0425-46-0668

サークル・バハギア (b)
〒651 兵庫県神戸市中央区龍池通1-1-21 ザベリオ宣教会
TEL 078-222-4652

ATCA・東京 (b)
〒154 東京都世田谷区三軒茶屋2-51-32 三軒茶屋カトリック教会
TEL 03-5477-6355

サービスセンター・ヘルプライン (b)
〒150 東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心会
TEL 03-3486-7567

3 文化祭で、アジアなどの文化を紹介する。
具体的には、

- ・映画やスライドを借りてきて、皆でみる（スライドキット『地球の仲間たち』など；TEL 0462-55-1867）。
- ・青年海外協力隊のOBや、海外協力をしているボランティアグループの人を呼んで、話を聞く。
- ・近くに住んでいる外国人に来てもらって、自分の国の暮らしや文化を紹介してもらう。
- ・外国人に手伝ってもらって、模擬店でエスニック料理をつくる。
- ・途上国の手工芸品を販売して、利益の一部を還元する。
- ・ワールドゲーム、ネイチャーゲームなどのワークショップをやる。
- ・アジアなどの民話、絵本などをもとにした演劇をする。
- ・ワールドミュージックの音楽会を開く、など。

*1 エスニック：「民族の」という意味。一般的に東南アジア、中南米、中近東、アフリカなどの諸民族の料理のこと。

*2 ワークショップ：参加者が体験をもとにしながら、ある問題の解決にむかっていく研究会や講習会のこと。

4 ホームルームなどで、身のまわりのことを考えてみる。

- ・私たちが、食べているものや着ているもの、遊び道具、その原料などが、どこの国からきているのか調べる。

■青年海外協力隊をかけた支える

「青年海外協力隊」って、聞いたことあるでしょう。この団体は、「収穫した農作物のよい加工方法はないだろうか」「こわれた自動車を修理するシステムをつくりたい」「正しい保健・衛生知識の普及を図りたい」などの、開発途上国からの要望に応じて、日本から専門技術をもった人を派遣して、現地の人びとと一っしょに生活しながら、国づくりに協力する活動をしています。

政府が行っている事業で、1965年に発足以来、いままでに派遣された隊員は約1万5000人、派遣国は61か国にのぼります。20～30歳までの、やる気のある健康な人なら、だれでも隊員に応募することができます。でも、農業、医療、コンピュータ、スポーツ、手工芸など、何かひとつ専門的な技術や知識をもっていることが必要です。

自分が直接隊員にならなくても、国内で隊員の活動を支援する方法もあります。「小さなハートプロジェクト」もそのひとつ。

これは、現地で活動している隊員が、本来の活動以外で現地の人々の生活向上のためのアイデアをもちながらも、資金不足で実現できないでいるときに、国内でそのアイデアに賛同した人が募金をして、援助しようというものです。このやり

- ・スーパーマーケットへ行って、お店の人に話をして、その商品がどこから輸入されているのか教えてもらう。
- ・輸入元の国の人びとが、どんな生活をしているのか、どのような状態でそれを作っているのか調べる。
- ・その人々が貧しい暮らしをしている場合、それはなぜなのか、どうすれば生活が楽になるのか、皆で話し合う。
- ・すぐに行えることがあれば、友だちや家の人に相談して、協力してもらう。

▷山口県協力隊を育てる会が、中・高校生を対象に開催した「ちきゅう共感塾93」。映画やゲームを楽しんだり、カレーを食べたり、協力隊の人の体験談を聞いたり、もりだくさん。



方ですで実現しているプロジェクトには、ネパールでの「識字教室」、タイでの「農村の子どもたちに遊戯場を」、ブータンでの「鉄棒、洗却炉をつくらう運動」などがあります。

どの国に派遣されているどの隊員が、どんなハートプロジェクトを考えているかは、「協力隊を育てる会」に聞けばわかります。中・高校生で、すでに、この運動に参加して、派遣隊員を応援している人だちもいるんですよ。

そのほか、各地にある「協力隊を育てる会」でも、帰国した隊員の報告会や、国際理解のための催しを実施しています。興味のある人は、友だちと誘いあつてのぞいてみましょう。

■協力隊を育てる会

〒160 東京都新宿区霞丘町15 日本青年館内
TEL 03-3402-2153

5 ファクシミリやパソコン通信を使って、海外の学校と交流をする。

財国際協力推進協会 アピックネット事務局
〒169 東京都新宿区大久保2-10-18
山崎ビル3F グローバルコモンズ棟内
TEL 03-3204-8104

盛岡フューチャーズパートナーズ
〒020 岩手県盛岡市本町通3-20-25-49
TEL 0196-54-5410

家族の理解・協力を得てできること

● 得ることが大きいスタディツアー ―――― 千葉県松戸市立松戸第一中学校 高野先生たちの場合 ●

最近、海外旅行に行ったことのある生徒も増えていきます。でも、ツアーで決められた名所旧跡をまわるだけだったり、外国人向けのリゾートホテルから一歩も出なかったというのでは、その国の暮らしを理解したことにはなりません。

アジアやアフリカは、“衛生状態が悪い”“治安が悪い”などの理由で、頭っから危ない地域だと思ひこんでいるおとなもたくさんいるけど、それは偏見というもの。ことに、スタディツアーのように、現地の人との深い交流があって、その国のことに精通したグループの引率がある場合は、個人でアメリカなどへ出かけるよりも、よほど安全かもしれません。

「知識でいくらその国のことを知っていても、相手の生活の実際を知らないと本当のことはわからないのではないか」という考えから、松戸第一中学校の高野先生たちは、参加希望者を募って、5年前から、毎夏休みに、タイの少数民族の子どもたちの寮を訪れています。ちなみに1993年の参加者は、中学生1人、高校生をふくめた卒業生5人、親1人、教員2人の計9人。

タイでは、家が貧しい、親に教育に対する理解がない、不便な山間部に点在して暮らしているなどの理由から、学校に通うことができない少数民族の子どもたちがたくさんいます。そんな子どもたちが共同生活をしながら学校に通うための寮が、ボランティアの人たちによっていくつか運営されています。

高野先生たちが訪れる寮は、タイ北部のチェンライ県

にあるラブ族の寮。傾きかけた竹でできた家に、幼稚園から小学生ぐらいの30人の子どもたちが寝泊まりしています。

「日本から連れて行った子どもたちは、最初は、タイの子らが小さな部屋で何十人も暮らしているのを見てびっくりしますが、そのうち、彼らが掃除、洗たくなどそれぞれ分担して、自分のことは自分でやって、明るくたくましく暮らしているのを見て、少なからず感じるころがあるようです」と高野先生。

寮では、2食しか食べていないという話を聞いて、食事の援助をしようという話がツアー参加者のなかでままりました。いままでツアーに参加した生徒たちからの毎月1000円の募金に、先生たちの分も加えて、食事や衣料など寮の日常運営費を送金しています。今年あたりから少し金額をアップしようかという話もでているとか。

百聞は一見にしかず。スタディツアーの体験には強烈なものがあるようで、バンコクのスラムを訪れたときは、緊張のあまり、スラムから出てきた後にヘタヘタ座りこんでしまう子や、親に売られた子どもたちを収容している寮を訪ねたときは、そんな環境のなかでも明るく生きている子どもたちに会って、どうしてあんなに明るんだろうと、ショックを受けた子もいるとか。

スタディツアーの場合、重要なのは関心を持続させること。そのときだけのショックに終わらせず、帰った後もどこに問題があるのか考えたり、できれば、高野先生たちのように継続的につきあっていくことが大切です。

スタディツアーを実施している団体

RASA=アジアの農村と連帯する会(タイ)

〒162 東京都新宿区河田町7-14 イエズス社会司牧センター気付
TEL 03-3358-6233

アジア協会アジア友の会(スリランカ、ネパール、インドネシア)

〒550 大阪市西区江戸堀1-14-1 平和相互ビル7F
TEL 06-444-0587

アジア学院

〒329-27 栃木県那須郡西那須野町大字槻沢442-1
TEL 0287-36-3111

シャプラニール=市民による海外協力の会(バングラデシュ)

〒169 東京都新宿区西早稲田2-3-1 早稲田奉仕園内
TEL 03-3202-7863

曹洞宗国際ボランティア会(カンボジア、ラオス、タイ)

〒170 東京都豊島区東横1-28-5 ヒカリビル202
TEL 03-3945-0981

ピースポート

〒169 東京都新宿区高田馬場1-6-15 荒井ビル3F
TEL 03-3232-8561

草の根貿易の会(フィリピン)

〒581 大阪府八尾市桂町2-17-5
TEL 0729-96-8271

国際ボランティアの会(タイ)

〒331 埼玉県大宮市飯田426
TEL 048-622-8612

アジア保健研修財団(AHI)

〒470-01 愛知県愛知郡日進町米野木字南山987-30
TEL 05617-3-1950

地球市民の会

〒840 佐賀県佐賀市高木町4-7
TEL 0952-24-3334

アジアユースセンター

〒130 東京都墨田区緑町4-4-14
TEL 03-3634-6381

● 家族ぐるみでできること ●

アジアなどの国の人をホームステイで受け入れたり、食事会などに呼んだりして、家族ぐるみで交流する。

- ・ホームステイ受け入れは親の賛成が不可欠。うちにも外国人にホームステイに来てほしいという人は、両親

- に相談してみる。ホームステイでは普通の生活をともにすることが大切なので、かざらずにつきあう。
- ・知り合いの外国人を家に呼んで、その国の料理などを作ってもらい、ホームパーティーを開く。

神奈川県国際交流協会
〒231 横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル9F
TEL 045-671-7070

アジアクラブ
〒105 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル2302
TEL 03-3435-6071

りんごの木の家
〒157 東京都世田谷区粕谷2-11-25-104
TEL 030-526-5986(携帯電話)

日本国際生活体験協会
〒102 東京都千代田区麹町4-5 橋ビル6F
TEL 03-3261-3451

東京YWCA 留学生の母親運動
〒101 東京都千代田区神田駿河台1-8
TEL 03-3293-5421

江戸川ホームステイクラブ
〒134 東京都江戸川区清新町1-4-16-1212
TEL 03-3878-5144

いっくら国際文化交流会
〒320 栃木県宇都宮市駒生町3351-50 長門方
TEL 0286-25-0050

2 あなたの食卓にもう1人の友だちを

- ・食卓にもう1人友だちを招待したつもりになって、その分の食費を貯金箱に入れていく。あるいは満足に食事ができない子どもたちのことを想像し、いつもより粗末な食事をし、少なくともすんだ食費を貯金する。こうしてたまった貯金を募金にまわす。

世界の子どもと手をつなぐ会(JOFIC)
〒275 千葉県習志野市香澄1-1-8-206 坂田喜子方
TEL 0474-51-9337

日本ユニセフ協会「ファミリーボックス」
〒160 東京都新宿区大塚町31-10
TEL 03-3355-3222

3 アジアの子どもたちの精神的な里親になる。

- ・少しばかりおこづかいを節約して、アジア、アフリカなどの学校に行けない子どもたちを援助する。

勸日本フォスター・プラン協会
〒154 東京都世田谷区太子堂4-3-1 城南ビル5F
TEL 03-5481-3511

CCWA＝(社)基督教児童福祉会・国際精神里親運動部
〒167 東京都杉並区善福寺2-17-5
TEL 03-3399-8123

チボリ国際里親の会
〒755 山口県宇部市則貞2-8-24
TEL 0836-21-8396

エスナック教育里親グループ
〒157 東京都世田谷区喜多見9-7-10
TEL 03-5497-2261

ネグロス教育里親運動・宝塚会
〒665 兵庫県宝塚市小林3-9-6 インターナショナルハウス
TEL 0797-71-5658

アジアの福祉を考える会
〒981 宮城県仙台市青葉区荒巻字坊主門37
TEL 022-392-0928

国際ボランティアの会
〒331 埼玉県大宮市飯田426
TEL 048-622-8612

日本スリランカ文化協会
〒537 大阪市東成区大今里南1-7-9
TEL 06-971-8768

パレスチナの子供の里親運動
〒169 東京都新宿区百人町1-7-3 第3富士電エビル211
TEL 03-3205-1783

マニラ・八木教育里親運動の会
〒629-01 京都府船井郡八木町南広瀬45
TEL 07714-2-3065

日本民際交流センター
〒107 東京都港区南青山1-10-14-501
TEL 03-3479-4152

高野山真言宗南方仏教圏里親会
〒648-02 和歌山県伊都郡高野町高野山132
TEL 0736-56-2011

- *1 里親：法的に養子縁組したり、引き取って育てるのではなく、子どもたちが自立するまで金銭的な援助をして、その成長を見守る。国際版「足ながおじさん」。

4 ウォークラリー¹⁾などに参加する

- ・家族でウォークラリーなどに参加する。
- ・イベント企画などをやるときに、自分たちが主催する。

ウォークラリー
日本レクリエーション協会
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-17-11
TEL 03-3423-1241

ラヴウォーク
――ユニセフ主催の歩け歩け大会の参加費をユニセフに募金し、集まったお金は途上国の子どもたちの予防接種事業に使われる。また、自分たちがある催しを企画している場合（たとえば運動会や文化祭）、そのプログラムのひとつとして、「ラヴウォーク」を開催することもできる。

日本ユニセフ協会
〒160 東京都新宿区大塚町31-10 第一大塚町ビル
TEL 03-3355-3221

東京グリーンウォーク
――東京に本部を置く民間海外協力団体が合同で、海外協力への理解を深めながら募金も行うイベント。10回目の1995年度は「シャプラニール＝市民による海外協力の会」ほか6団体の共催。都内のコース（10kmと5km）を歩きながらチェックポイントでクイズを楽しみ、ゴールではコンサート、エスニック料理の屋台、途上国の手工芸品や物産の展示販売などもりだくさんのメニューが展開される。

東京グリーンウォーク'95 実行委員会事務局
〒169 東京都新宿区西早稲田2-3-1 早稲田奉仕園内
シャプラニール＝市民による海外協力の会 気付
TEL 03-3202-7863

- *2 ウォークラリー：歩け歩け大会、ハイキング、運動会などのスポーツ大会と募金運動をセットにしたもので、ラリー参加者や賛助者から集めたお金を募金にまわすもの。

5 自分の生活を見直して、
むだのない生活習慣を身につけることで、
地球・自然環境を守ることに一役買う。

- ・食べ物を残さないようにする。
- ・テレビは見たい番組だけを見るようにする。
- ・歯をみがいている間は水を止める。
- ・朝シャンにさよならする、など。

地域でできること

・ インドシナ難民に手をさしのべる ——— 神奈川県立多摩高等学校日本語ボランティアサークルの場合

日本が、政変の混乱に揺れ動くベトナム、カンボジア、ラオスのインドシナ三国からの難民を正式に受け入れるようになって、15年になります。命からがら祖国を脱出、言葉や風俗、習慣の違う日本であらたな生活のスタートを切った人々の力になりたい——と、定住難民が比較的多く住んでいる神奈川県では、難民に日本語を教える活動をしている高校生のグループがいくつかあります。

神奈川県立多摩高校の日本語ボランティアサークルもそのひとつ。このサークルは1990年に設立され、インドシナ難民の子どもたちに、団地の集会所で週に1回、学校の勉強の補習と日本語を教えています。教えるというよりも、「宿題をみてあげながら、いっしょに遊んでいる」という感じらしいのですが、子どもたちと接することで考えさせられることも多いようです。

ボランティア活動が始まったころは、日本の習慣を教えたり、日本人とトラブルがあった場合の相談にのったりしていたのですが、日本での生活が長くなるにつれて、別の問題が生じてきました。

親の世代はともかく、子どもたちは日本の生活にすっかりとけこんで、日本人の子どもたちとほとんど変わりません。でも、彼らはベトナム人であり、カンボジア人であり、ラオス人です。日本で生活していても、各民族の独自性を大切に、誇りをもって生きていってほしい。そのためには子どもたちに祖国の言葉や文化をしっかりと伝える必要があります。

「とっかかりやすい“おはなし”から始めたらどうだ

ろう。親の世代もキャンプ生活が長くて、祖国の民話を知らない人も多いので、きっと役立つのではないかとサークルのなかで話がまとまり、まずはベトナムの民話をもとに、ベトナム語と日本語両方を使った絵本づくりが始まりました。日本語に堪能なベトナム人の協力を得てベトナムの民話を集め、10あまりを翻訳してもらい、そのなかから、「腹いっぱいになると寝る豚」という1編を選んで、絵本にすることにしました。

一方で、ボランティア部員とOBたちが、民話の背景となるベトナムの気候風土、民族衣装などを調べました。絵は、ベトナムの伝統的な民族画を参考にして切り絵にすることにし、現在作業が進行中。完成も間近です。

「絵に色をぬっていたら、屋根が朱色で壁が緑。日本とはやっぱり違うんですね」と絵本づくりに参加したあるOB。

多摩高校のグループは、「神奈川県インドシナ難民定住援助協会」に協力する形で活動しているため、卒業後はこちらに場を移してボランティアを続けるOBや、母校の活動に顔を出す人もいて、地域に根づいた、息のながい活動が展開されています。

神奈川県立多摩高等学校日本語ボランティアサークル
〒214 神奈川県川崎市多摩区宿河原5-14-1
TEL 044-911-7107

神奈川県インドシナ難民定住援助協会
〒242 神奈川県大和市中央林間3-7-18 七沢ビル
TEL 0462-75-2739

・ 地域でできること

1 講演会や映画会、フォーラムなど、地域のイベントに参加してみる。

- ・新聞や公民館だよりなどで紹介されている、外国人との交流を深める催しに参加してみる。各地域の国際交流協会では、世界の料理試食会、語学講座、スポーツ交流、日本文化・海外文化紹介のパフォーマンスなど、さまざまなイベントを実施している。もよりの交流協会に電話して聞いてみよう（P.50～51を参照）。
- ・アジアやアフリカで製作された映画を見に行く。

国際交流基金アセアン文化センター
〒107 東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー1階
TEL 03-5562-3895

（株）川崎市民ミュージアム
〒211 神奈川県川崎市中原区等々力3049-1
TEL 044-754-4526

アジアフォーカス・福岡映画祭実行委員会
〒810 福岡市中央区天神1-8-1
TEL 092-711-4665

山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局
〒990 山形市旅籠町2-3-25 山形市役所総務部国際交流課
TEL 0236-41-1212

アジア映画（ビデオレントル）
〒101 東京都千代田区神田神保町2-4 東神ビル2F
TEL 03-3234-2022

2 アジア、アフリカなどの、英語以外の言葉にも関心を持ち、勉強する。

- ・英語以外の言葉（韓国語、タイ語、中国語など）を勉強する会などに参加してみる。

早稲田奉仕園（アジア語学講座）
〒169 東京都新宿区西早稲田2-3-1
TEL 03-3205-5411

アジアセンター21（アジア語学スクール）
〒533 大阪府大阪市東淀川区東中島5-18-20 TOAビル
TEL 06-321-1839

3 中・高校生を対象にした、国際交流や人権などがテーマのエッセイコンテスト、作文コンクール、ポスターコンテストなどに応募して、自分の考えを発表する。

アムネスティ・インターナショナル日本支部
〒169 東京都新宿区西早稲田2-3-22 第三山武ビル
TEL 03-3203-1050

シャブラニール=市民による海外協力の会
〒169 東京都新宿区西早稲田2-3-1 早稲田奉仕園内
TEL 03-3202-7863

日本オセアニア交流協会(オセアニア写真コンクール)
〒661 尼崎市南塚口1-24-16 園田学園内
TEL 06-427-8006

JICA(国際協力事業団)
〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
TEL 03-3346-5311

4 アジア・アフリカ諸国の音楽、踊りなどを学ぶ。

こどもの城(ガムラン、南米サンバの音楽講座)
〒150 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5663

アケタの店・オカリナ教室
〒167 東京都杉並区西荻北3-21-13 吉野ビルB1
TEL 03-3395-9507

太鼓館・アフリカン・ワークショップ
〒111 東京都台東区西浅草2-1-1 宮本卯之助商店西浅草ビル
TEL 03-3842-5622

ユニバーサルダンスアカデミー(ラテンパーカッションとダンスの教室)
〒235 神奈川県横浜市磯子区磯子3-4-32 横浜スバル磯子第2ビルBF
TEL 045-754-2180

INJカルチャーセンター(バリ、タイ、インド舞踊講座)
〒105 東京都港区新橋6-4-8 M6ビル4F
TEL 03-3438-4711

西アフリカのリズムとダンスのセミナー
〒240-01 神奈川県横須賀市秋谷4573
TEL 0468-57-8722

5 自然とふれあいながらエコロジー(生態学)を学ぶ。

財団法人自然保護協会
〒102 東京都千代田区三番町5-24 山路三番町ビル3F
TEL 03-3265-0521

ネイチャーゲーム研究所
〒156 東京都世田谷区松原1-56-9-201
TEL 03-5376-2733

日本野鳥の会
〒150 東京都渋谷区渋谷1-1-4 青山フラワービル5F
TEL 03-3406-7141

こどもの国ボランティア
〒227 神奈川県横浜市緑区奈良町700 こどもの国内
TEL 045-961-2111

ドングリの会
〒506-01 岐阜県大野郡清見村牧ヶ洞 オーク・ヴィレッジ内
TEL 0577-68-2567

財キーブ協会、キーブ・フォレストアーススクール
〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里3545
TEL 0551-48-3795

エコロジーセンター
〒190 東京都立川市錦町2-1-22
TEL 0425-28-6659

財科学教育研究会・環境教育研究所
〒305 茨城県つくば市吉瀬1876 つくば文化郷206
TEL 0298-57-7131

聖マーガレット生涯教育研究所(SMILE)
〒543 大阪府大阪市天王寺区東上町8-30
TEL 06-772-7406

丸山環境教育事務所
〒060 北海道札幌市中央区南2条西7丁目 松井ビル8F
TEL 011-272-6284

国際理解教育センター(ERIC)
〒114 東京都北区東田端1-14-1 岩瀬ビル1F
TEL 03-3800-9414

エコ・コミュニケーションセンター(ECOM)
〒170 東京都豊島区巣鴨3-21-16 大坂屋ビル1F
TEL 03-3916-5950

■JICA高校生エッセイコンテストのお知らせ

国際協力事業団(JICA)では、毎年、高校生の皆さんから、開発途上国や地球環境のことについて日ごろ考えていることを書いたエッセイを募集しています。

応募要項は――。

・〈自由作文部門〉タイトルは自由。国内外で開発途上国の人びととのふれあいを通じて感じたこと、国際貢献のために何をしたらよいかなどについて書いていただきます。400字詰原稿用紙4枚以内。

・〈テーマ論文部門〉「環境問題について」(1994年)、「途上国のニュースについて」(1995年)等、開発途上国をはじめとする諸問題をテーマとして書いていただきます。400字詰原稿用紙4枚以内。

・募集期間 毎年1月中旬～5月中旬

・入賞発表 毎年7月下旬

94年度は約1万点の応募がありました。毎年実施されているので、この機会に自分の考えをまとめて応募してみてもうでしょう。うまくいけば、ごほうびで海外研修旅行に行けるかもしれません。

問い合わせ先 ■国際協力事業団(JICA) 総務部広報課

〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル

TEL 03-3346-5029

本格的に勉強したい人たちのために ————— ①関連機関の紹介

各種関連機関 (*印は資料等の公開・貸し出しを行っているところ)

国連児童基金(UNICEF)駐日代表事務所
〒150 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学本部ビル8F
TEL 03-5467-4431

日本ユネスコ協会連盟
〒150 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12F
TEL 03-5424-1121

国際連合難民高等弁務官(UHCR)駐日事務所
〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館19F
TEL 03-3475-1615

国際労働機関(ILO)東京支局
〒150 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学本部ビル8F
TEL 03-5467-2701

日本ユニセフ協会*
〒160 東京都新宿区大塚町31-10 第一大塚町ビル
TEL 03-3355-3221

ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)*
〒162 東京都新宿区袋町6 日本出版会館内
TEL 03-3269-4435

国際連合広報センター(UNIC)*
〒150 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル8F
TEL 03-5467-4451

アジアセンター21*
〒533 大阪市東淀川区東中島5-18-20 TOAビル
TEL 06-321-1839

国際交流基金アセアン文化センター*
〒107 東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワービル1F
TEL 03-5562-3895

国際協力プラザ*
〒106 東京都港区南麻布5-2-32 第32興和ビル1F
TEL 03-5423-0561

NGO活動推進センター*
〒101 東京都千代田区神田錦町2-9-1 斎藤ビル5F
TEL 03-3294-5370

国際協力事業団(JICA)図書館*
〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5 国際協力センター内
TEL 03-3269-2301

青年海外協力隊図書室
〒150 東京都渋谷区広尾4-2-24
TEL 03-3400-7261

開発教育協議会*
〒169 東京都新宿区西早稲田2-3-18-61
TEL 03-3207-8085

世界銀行東京事務所
〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビルディング916
TEL 03-3214-5001

国際連合開発計画(UNDP)東京連絡事務所
〒150 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル8F
TEL 03-5467-4751

地域の国際化協会 (1995年1月現在)

■都府県の国際化協会

財青森県国際交流協会
〒030 青森市安方1-1-32 水産ビル
TEL 0177-35-2221

財岩手県国際交流協会
〒020 盛岡市上田1-2-32
TEL 0196-54-8900

財宮城県国際交流協会
〒981 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL 022-275-3796

財秋田県国際交流協会
〒010 秋田市山王2-1-60 アイデックスビル8F
TEL 0188-64-1181

財山形県国際交流協会
〒990 山形市松波3-7-1 山形県総合研修センター内
TEL 0236-24-0043

財福島県国際交流協会
〒960 福島市中町8-2 福島県自治会館5F
TEL 0245-24-1315

財茨城県国際交流協会
〒310 水戸市三の丸1-3-3 水戸三の丸パーキングビル1F
TEL 0292-31-6066

財栃木県国際交流協会
〒320 宇都宮市昭和1-2-16 栃木県自治会館1F
TEL 0286-21-0777

財群馬県国際交流協会
〒371 前橋市本町1-4-4 安田火災群馬ビル6F
TEL 0272-43-7271

財埼玉県国際交流協会
〒331 大宮市桜木町1-7-5 ソニックシティビル4F
TEL 048-647-4175

財千葉県国際交流協会
〒280 千葉市中央区市場町1-1 千葉県文化国際課内
TEL 043-223-2254

財神奈川県国際交流協会
〒231 横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル9F
TEL 045-671-7070

財新潟県国際交流協会
〒950 新潟市新光町16-4 荏原新潟ビル3F
TEL 025-285-6020

財とやま国際センター
〒930 富山市接町1-1-61 マリエとやま6F
TEL 0764-45-4591

財石川県国際交流協会
〒920 金沢市下本多町5-25
TEL 0762-62-5931

財福井県国際交流協会
〒910 福井市大手3-11-17 福井県民会館6F
TEL 0776-24-6777

財山梨県国際交流協会
〒400 甲府市飯田2-2-3
TEL 0552-28-5419

財長野県国際交流推進協会
〒380 長野市薬科692-2 長野県庁東庁舎1F
TEL 0262-35-7186

財岐阜県国際交流センター
〒500 岐阜市飯田5-14-53 岐阜県民ふれあい会館6F
TEL 058-277-1013

財静岡県国際交流協会

〒420 静岡市追手町9-6 静岡県庁東館2F
TEL 054-221-3355

財愛知県国際交流協会

〒450 名古屋市中村区那古野1-47-1
TEL 052-565-1971

財三重県国際交流財団

〒514 津市桜橋3-446-34 三重県津庁舎5F
TEL 0592-23-5006

財滋賀県国際友好親善協会

〒520 大津市京町4-1-1 滋賀県国際交流課内
TEL 0775-26-0931

財大阪府国際交流財団

〒540 大阪市中央区城見2-1-61 ツイン21MIDタワー14F
TEL 06-945-6071

財兵庫県国際交流協会

〒651 神戸市中央区三宮町1-10-1 神戸交通センタービル4F
TEL 078-393-2500

財なら・シルクロード博記念国際交流財団

〒630 奈良市東向中町28 奈良近鉄駅ビル6F
TEL 0742-27-1822

財和歌山県国際交流協会

〒640 和歌山市小松原通1-1 和歌山県国際交流課内
TEL 0734-31-4344

財鳥取県国際交流財団

〒680 鳥取市本町3-102 鳥取商工会館内
TEL 0857-29-5931

財島根県国際交流センター

〒690 松江市西川津町3699 くにびきメッセ
TEL 0852-31-5056

財岡山県国際交流協会

〒700 岡山市厚生町3-1-15
TEL 086-222-0457

財ひろしま国際センター

〒730 広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F
TEL 082-541-3777

財山口県国際交流協会

〒753 山口市神田町1-80 防長青年館内
TEL 0839-25-7353

財徳島県国際交流協会

〒770 徳島市寺島本町西1-61 クレメントビル6F
TEL 0886-56-3303

財香川県国際交流協会

〒760 高松市丸の内2-25 香川県丸の内分庁舎2F
TEL 0878-22-8420

財愛媛県国際交流協会

〒790 松山市堀之内8番地
TEL 0899-43-6688

財高知県国際交流協会

〒780 高知市鷹匠町2-2-34
TEL 0888-75-0022

財福岡県国際交流センター

〒812 福岡市博多区博多駅南1-3-1 日本生命博多南ビル8F
TEL 092-451-4411

財佐賀県国際交流協会

〒840 佐賀市城内1-1-59 佐賀県国際交流室内
TEL 0952-25-7921

財長崎県国際交流協会

〒850 長崎市江戸町5-9
TEL 0958-23-3931

熊本国際交流活性化連絡協議会

〒862 熊本市水前寺6-18-1 熊本県国際課内
TEL 096-383-1502

財大分県国際交流センター

〒870 大分市中島西3-1-7
TEL 0975-38-5161

財宮崎県国際交流協会

〒880 宮崎市橋通東2-10-1 宮崎県国際交流課内
TEL 0985-26-7004

財鹿児島県国際交流協会

〒892 鹿児島市東千石町1-38 鹿児島商工会議所11F国際交流プラザ内
TEL 0992-25-3279

財沖縄県国際交流財団

〒900 那覇市西3-11-9
TEL 098-867-6171

財東京国際交流財団

〒100 東京都千代田区丸の内3-8-1 東京都丸の内庁舎14F
TEL 03-3211-7442

■政令指定都市の国際化協会

財札幌国際プラザ

〒060 札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル
TEL 011-211-3670

財仙台国際交流協会

〒980 仙台市青葉区青葉山 仙台国際センター内
TEL 022-265-2211

財横浜市海外交流協会

〒231 横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル3F
TEL 045-671-7128

財川崎市国際交流協会

〒210 川崎市川崎区東田町2-11 住友生命川崎大通ビル3F
TEL 044-245-9881

財名古屋国際センター

〒450 名古屋市中村区那古野1-47-1
TEL 052-581-5678

財京都市国際交流協会

〒606 京都市左京区粟田島居町2-1
TEL 075-752-3010

財大阪国際交流センター

〒543 大阪市天王寺区上本町8-2-6
TEL 06-772-5931

財神戸国際交流協会

〒650 神戸市中央区港島中町6-9-1 神戸国際会議場内
TEL 078-303-0030

財広島市国際交流協会

〒730 広島市中区中島町1-5 広島国際会議場3F
TEL 082-247-8007

財北九州国際交流協会

〒805 北九州市八幡東区平野1-1-1 国際村交流センター3F
TEL 093-662-0055

財福岡国際交流協会

〒810 福岡市中央区天神1-10-1
TEL 092-733-5630

本格的に勉強したい人たちのために——— ②本の紹介

入門書

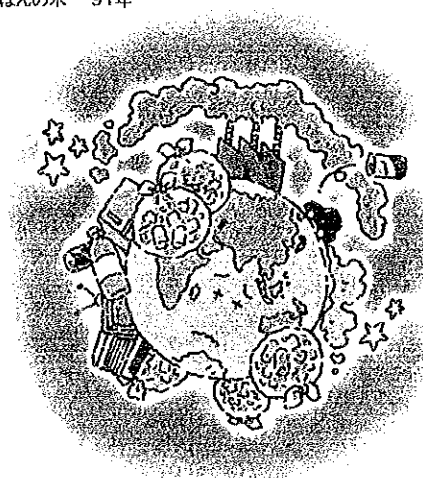
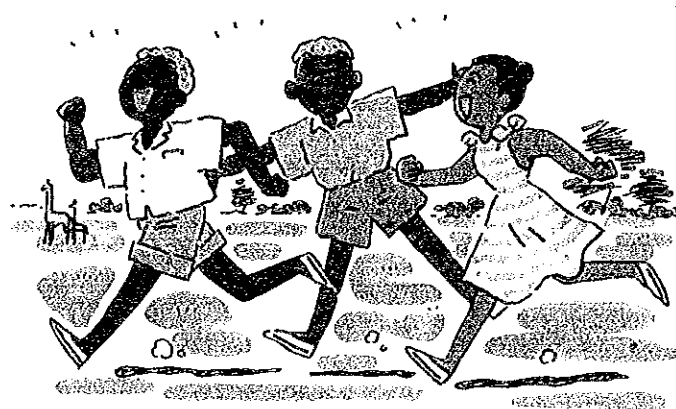
- 『アジアでボランティア』
松本信夫著 岩波ジュニア新書 '93年
- 『たみちゃんと南の人びと』 1～3
21世紀をともに生きる地球の仲間編 明石書店 '87～'94年
- 『いっしょにやろうよ国際ボランティア NGOガイドブック』
NGO情報局編 三省堂 '93年
- 『初めてのボランティア』
ほんの木編集・発行 '93年
- 『地球人として生きる—市民による海外協力』
岩崎駿介編著 岩波ジュニア新書 '89年
- 『アジア発、ボランティア』
峯辰也著 岩波書店 '94年
- 『国際協力の新しい風—パワフルじいさん奮戦記』
中田正一著 岩波新書 '90年
- 『人間の大地』
犬養道子著 中公文庫 '83年
- 『バナナと日本人』
鶴見良行著 岩波新書 '82年
- 『メキシコからの手紙—インディエナのなかで考えたこと』
黒沼ユリ子著 岩波新書 '80年

人権

- 『世界人権ハンドブック』
チャールズ・フーマーナ編著 竹澤千恵子訳 明石書店 '94年
- 『あたりまえに生きるための世界人権宣言』
アムネスティ・インターナショナル日本支部 谷川俊太郎著 金の星社 '90年
- 『こどものけんりー “子どもの権利条約” ことも語訳』
名取弘文著 佑学社 '91年
- 『高校で考えた外国人の人権—ぼくらが訳した国連
「移住労働者とその家族の権利条約」』
神奈川県立多摩高等学校日本語ボランティアサークル編 明石書店 '92年
- 『いま、地球の子供たちは—子供たちをめぐる南北問題』
NHK取材班編 角川書店 '91年
- 『風みたいな、ぼくの生命 ブラジルのストリート・チルドレン』
シルベルト・ディメンスタイン著 神崎牧子訳 現代企画室 '92年
- 『アパルトヘイトの子供たち—ぼくたちは怒っている』
吉田ルイ子著 ポプラ社 '90年
- 『アフリカのこころ—奴隷・植民地・アパルトヘイト』
土屋哲著 岩波ジュニア新書 '89年
- 『レイナとナネット フィリピン・チボリ族の子供たちの1日』
北沢杏子著 アーニ出版 '89年
- 『サラフィン!』
ムボンゲニニゲマ原作 汐文社 '92年
- 『ありがとうアフリカ』
チロンボ・ンゴイJr.著 ほんの木 '91年

自然保護・環境

- 『みんなで考える地球環境シリーズ』 1～4
金の星社 '94年
- 『子どもはじめる自然 [冒険] 図鑑』 1～5
岩波書店 '93年
- 『日本列島の健康診断』 1～6
草土文化 '93年
- 『環境とつきあう50話』
森住明弘著 岩波ジュニア新書 '93年
- 『わたしたちの地球を守ろう』 全8巻
偕成社 '91年
- 『地球の健康診断』 1～5
草土文化 '90年
- 『子ども地球白書—'92～'93年』
レスター・R・ブラウン著 松村郡守翻訳 リブリオ出版 '93年
- 『やってみよう雨水利用』
グループ・レインドロップス編著 北斗出版 '94年
- 『田んぼびだせ探偵団—おこめと水をさぐる』
金森俊郎著 ゆい書房 '94年
- 『リサイクル工作ずかん』
竹井史郎著 小峰書店 '93年
- 『活動マニュアル 地球を救おう』
ベティ・マイルズ著 金原瑞人訳 ほるぷ出版 '92年
- 『日本の子どもたちが地球を救う50の方法』
グループなごん著 フロンズ新社 '91年
- 『子どものための エコロジー・ワークブック』
リンダ・シュワルツ著 亀井・井澤訳 フロンズ新社 '91年
- 『リサイクル社会が始まった』
吉村七郎著 ほるぷ出版 '91年
- 『ごみから地球を考える』
八太昭道著 岩波ジュニア新書 '91年
- 『リサイクリング・ブッカー—地球と私たちを元気にする本』
ガラスびんリサイクリング推進連合 '90年
- 『地球をこわさない生き方の本』
植田勲編著 岩波ジュニア新書 '90年



『茶の間で語りあう地球環境問題』
安斉育郎著 かがわブックレット かがわ出版 '92年

『地球環境クイズ 484のQ & A』
B・アドラー著 戸田・平野訳 新曜社 '92年

『地球環境報告』
石弘之著 岩波新書 '88年

『沈黙の春』
レイチェル・カーソン著 青樹葉一訳 新潮文庫 '64年

『木と学ぼう PLT』
アメリカ森林協議会編 国際理解教育センター '94年

国際理解・国際協力

『世界の子どもたち』全35巻
備成社 '86~'90年

『ナイルの流れのように』
ハムザ・エルディーン著 中村とうよう訳 筑摩書房 '90年

『日本人ごっこ』
吉岡忍著 文春文庫 '89年

『ゴーゴー・アジア』
蔵前仁一著 凱風社 '88年

『ピースボートの夏—ぼくの東南アジア航海記』
奥田継夫著 ほるぷ出版 '88年

『びっくりニッポン日記』
チャールズ・カササ著 ポプラ社 '85年

『アフリカを知るための10章』
那須国男著 第三書館 '94年

『パラゴン—島から届いたバナナのえほん』
パラゴン・ワークショップ、小島希里、堀田正彦著 新評論 '93年

『ぼくが見たメサグランデ難民キャンプ—
中米ホンジュラスの難民キャンプの記録』
大淵喜隆著 備成社 '93年

『「国際貢献」と日本—私たちに何ができるか』
浅井基文著 岩波ジュニア新書 '92年

『君はパレスチナを知っているか—パレスチナの100年』
奈良本英祐著 ほるぷ出版 '91年

『ヨルダン難民救援への旅』
小山内美江子著 岩波ジュニア新書 '91年

『アフガニスタンの星を見上げて』
フルグラ・コフィ著 小学館 '89年

『援助原論』
中田豊一著 学陽書房 '94年

『マリコ、カンボジア400日—ボランティアだからできること』
岡村真理子著 リオン社 '94年

『バンコクの熱い季節』
泰辰也著 岩波書店 '93年

『カンボジア最前線』
熊岡路矢著 岩波新書 '93年

『アフガニスタンの診療所から』
中村哲著 筑摩書房 '93年

『NGO最前線—市民の国際協力20年』
シャブラニール=市民による海外協力の会編 柏書房 '93年

『市民と援助—いま何ができるか』
松井やより著 岩波新書 '90年

『カンボジア苦界転生』
大石芳野著 講談社 '93年

『お隣りの外国人』
吉永みち子著 平凡社 '93年

『在日外国人 法の壁、心の溝』
田中宏著 岩波新書 '91年

『国境を越える労働者』
桑原靖夫著 岩波新書 '91年

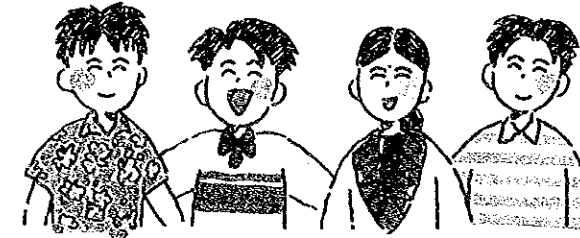
『難民問題とは何か』
本間浩著 岩波新書 '90年

『豊かなアジア貧しい日本』
中村尚司著 学陽書房 '89年

『エビと日本人』
村井吉敬著 岩波新書 '88年

『なぜ世界の半分が飢えるのか』
スーザン・ジョージ著 朝日新聞社 '84年

『テーマワーク』
開発教育センター編 国際理解教育センター '94年



『南北問題と開発教育』
田中治彦著 亜紀書房 '94年

『我が国の政府開発援助 ODA 白書』
外務省経済協力局編 国際協力推進協会 '94年

『国際協力事業団年報』
国際協力事業団 国際協力出版会 '94年

『世界開発報告1994』
世界銀行 '94年

『人間開発報告書1994』
国連開発計画(UNDP) 国際協力出版会 '95年

『開発教育教材カタログ'95』
開発教育協議会 '95年

組織・団体紹介

『NGOダイレクトリー'94』
NGO活動推進センター '94年

『もうひとつの日本地図—いのちのネットワーク』
野草社 '92年

『外国人と友達になろうカタログ'94』
イロカス出版 '94年

『地球人の情報アクセスブック』
大島・川又著 三修社 '93年

『開発教育ダイレクトリー'94』
開発教育協議会 '94年

中・高校生、青少年の活動にネットワークできる団体

10代の若者が活動にネットワークしやすい団体を紹介しましょう。

たがいに助け合い、地球市民として生きていく活動に積極的に参加したい人は、

一度電話で相談したり、資料を送ってもらったりすると、新たな展望が開けてくるかもしれません。

でも、どの団体も忙しいので、聞きたいことやほしい情報など、目的がはっきりしてから連絡してください。



開発途上国の子どもたちのために募金を ----- 日本ユニセフ協会

飲料水の確保や予防接種の実施、学校や教材づくり、女子の人権保護など、開発途上国の子どもたちの生活支援の活動をしているのが、国連児童基金(ユニセフ)。ユニセフでは、毎年これらの活動に役立つ「ユニセフ学校募金」を募っている。また、各地の小・中・高等学

校を回ってユニセフの活動を知らせる「ユニセフ・キャラバン」、「ハンド・イン・ハンド」、海外旅行のときに使いきれなかった外国コインを役立てる「外国コイン募金」など、いろいろな活動をしているので、詳しく知りたい人は、協会に連絡すると資料を送ってくれる。

日本ユニセフ協会
〒160 東京都新宿区大京町31-10 第一大京町ビル
TEL 03-3355-3221 FAX 03-3355-3810

パソコン通信で海外の学校と姉妹校に ----- アピックネット

日米の高校生が、銃規制やエイズなどの問題について、パソコン通信で話し合いを進め、その結果を共同宣言にまとめて、クリントン、細川(元)両首脳に送ったニュースを知っている人も多いだろう。教室にいながらにして、こんな活動ができるのがアピックネット。こ

こにアクセスするだけで、世界145の国や地域と通信することができる。ロシアの学校と日本語による通信、イギリスのろうあ学校との通信などさまざまな交流が始まっている。通信希望を事務局に伝えておくと相手校を探してくれる。通信費も格段に安い。

財国際協力推進協会 アピックネット事務局
〒160 東京都新宿区大久保2-10-18
山崎ビル3Fグローバルcommons内
TEL 03-3204-8104 FAX 03-3203-2414

ボランティアを始めてみたい ----- 日本青年奉仕協会(JYVA)

これからボランティアを始めてみたいという人にお勧めなのが、JYVAが毎年夏に開催する「活動文化祭」。これは、ワークショップや草の根ボランティア団体の訪問を通じてボランティアの実際をからだで感じようという、中・高校生を対象とした交流研修会。開催地は毎

年変わる。今年は研修内容を地元の高校生たちが企画。当日の運営にも大学生を中心にしたボランティアがあたり、同世代のボランティアによる、ボランティアのためのボランティアとなる。JYVAのこのほかの体験学習としては「1年間ボランティア計画」などがある。

日本青年奉仕協会(JYVA)
〒151 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立青少年センター
TEL 03-3460-0211 FAX 03-3460-0386

夏休みや春休みに短期間だけボランティアをしてみたいという人は、各地の社会福祉協議会ボランティアセンターまで、問い合わせてください。



国際協力を学び、考える ——— 国際協力プラザ

国際協力についてよくわからない人、さらに知識を深めていきたい人…。国際協力プラザはそんな人のために開かれたオープンスペース。国際協力に関する書籍や、日本ではなじみのない国や地域の風俗・習慣のわかるビデオなどが見られる。掲示板にはイベントやセ

ミナー、人材募集等、だれでも参加できる情報もあり、また、開発教育教材の制作・貸し出し、修学旅行や社会科のグループスタディ等も行っている。さらに、質問や相談、機関の紹介も行っている。電話やFAXでの問い合わせも可能。

財国際協力推進協会 国際協力プラザ
〒106 東京都港区南麻布5-2-32
第32興和ビル1F
TEL 03-5423-0561 FAX 03-5423-0564

利用時間 月～金 10:00～18:00
土 10:00～15:00
利用料 無料(コピー代実費)



パソコン通信でJICAの情報を得る ——— IFIC-NET

国際協力に関心のある人ならだれでも参加しちゃう！ JICAが提供するパソコン通信IFIC-NET(アイフィックネット)は世界中の人と会話を楽しめる電子メールはもちろん、おなじみの青年海外協力隊員募集情報やJICAニューズレター等JICA発信の最新情報

が見られる掲示板、そして途上国の生活情報を国別に整理した任国情報(95年3月現在95か国を整備)やJICA図書館所蔵目録などの各種データベースが利用できる。IFIC-NETは無料で利用できる。

IFIC-NET事務局
〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5
国際協力事業団国際協力総合研修所技術情報課気付
TEL 03-3269-2357 FAX 03-3269-2054



国際理解教育のこと、もっと知りたい ——— 国際理解教育センター(ERIC)

ERICは、いま、世界で起こっているさまざまな変化を、学校教育や社会教育のなかで、わかりやすく、しかも楽しく伝える方法を広めるためのセンターである。この本でも紹介しているワールド・スタディーズを実際に体験してみるワークショップの開催、海外から講師

を呼んでのグローバル・セミナー、国際理解教育に関する資料の紹介・翻訳・出版などの活動をしている。国際理解教育に関心をもっている人や、これから授業に取り入れたいと思っている先生の相談窓口としてベスト。講師の派遣にも応じている。

国際理解教育センター(ERIC)
〒114 東京都北区東田端1-14-1 岩瀬ビル1F
TEL 03-3800-9414 FAX 03-3800-9416



開発教育のこと、もっと知りたい ——— 開発教育協議会

日本における開発教育の推進のために、数多くの団体・個人が協力して設立したのが開発教育協議会。その情報センターでは、全国各地の団体による開発教育関連事業、学校や地域社会での実践事例、国内外の教材などに関する情報を提供している。まただれでもが参

加できる事業として、月1回の開発教育入門講座、毎年8月の全国研究集会、全国各地での開発教育地域セミナー、教材開発ワークショップなどを開催している。いろいろな相談に応じてくれるので、開発教育に関心のある人は気軽に問い合わせよう。

開発教育協議会
〒169 東京都新宿区西早稲田2-3-18-61
TEL 03-3207-8085 FAX 03-3207-8486

おわりに

JICAはこれまでさまざまな広報活動のための資料を作成してきましたが、開発教育を題材にした出版物を制作するのはこれが初めてです。

開発教育について、本書では、「南北問題や貧困などの人類社会に共通な課題について、その様相と原因を理解し、人類社会の相互依存性について認識を深め、よりよい開発の実現のために積極的に参加しようという態度を養うことをねらいとする教育」ととらえています。そしてこの分野は非常に広く、地球環境問題、難民問題から私たちの地域の生活までさまざまな問題とつながっています。したがってテーマ、構成、展開、原稿内容のいずれについても幾度も推敲を重ね、また多くの人びとのご意見を取り入れました。しかし、これが完璧というわけではありません。むしろ開発教育、そして未来に向けての教育について、JICAが取り組む小さな第一歩とでもいうべきものです。

JICAは国際協力の実施機関ですが、この本ではJICAの事業を紹介することを主眼とはしていません。多感な年代である中学生・高校生を対象に、国際協力とその基礎的問題となる地球環境、世界の人びとの生活・文化、貧困・人口問題、北と南、開発などについて考えてもらうことを中心にすえています。したがってできるだけニュートラル（中立的）な開発教育のテキストとして利用されることをめざしました。

今回はこれらの問題の基礎的な概要をつかむことをひとつの目的としました。そのために、まず視覚に訴えるという点で、図・写真を多用した「問題把握」に、ていねいな「解説」を加えました。さらに「やってみよう」という一種のシミュレーション・ゲームによって、教室を、知識を得ると同時に環境・世界を考える場所へと変貌させます。欧米ではよく行われているこのような教育手法によって、問題を「体験」することが、この本のもうひとつの特徴です。私たちは、この本を使って学ぶ人たちが「自分で考える」ことを始めて、地球市民として、真の意味での「国際人」として育ってくれることを願っています。

なお、この本はJICA設立20周年記念事業のひとつとして制作いたしました。そして、企画検討委員会の皆さんには本書の文章の内容検討などの作業をお願いいたしました。ご協力いただいた多くの方々に深く感謝いたします。

・指導される方へ

この本の著作権等はJICAに帰属しますが、授業等に使用される場合にかぎり、自由に複写しお使いください。

■企画検討委員会■（五十音順・敬称略）

白井香里
開発教育を考える会代表、多摩市立聖ヶ丘中学校教諭

金谷敏郎
園田学園女子大学教授

川口善行
シャプラーニール＝市民による海外協力の会事務局長

斎藤 実
都立松が谷高等学校教諭、
全国高等学校国際教育研究協議会関東甲信越地区事務局長

高橋成雄
協協力隊を育てる会理事・事務局長

塚田信裕
財団法人国際協力推進協会（APIC）広報部長・国際協力プラザ代表

松下俱子
国立信州高遠少年自然の家所長

山西優二
開発教育協議会事務局長、早稲田大学講師

いま私たちにできること

1995年3月31日発行

発行●国際協力事業団 国際協力総合研修所
〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5 TEL 03-3269-2357(技術情報課)

編集●株国際協力出版会

編集協力●株学習研究社

執筆協力●中田豊一 福澤郁文 篠沢純太 杉山尚子 河野一平 嶋岡尚子
今井千郎 内海成治 田中由美子

写真提供●財国際協力推進協会 財日本ユニセフ協会 社協力隊を育てる会
国連難民高等弁務官事務所 株PANA 緑のサヘル シャプラニ
ール=市民による海外協力の会 熱帯森林保護団体 稲葉一郎
社日本青年奉仕協会 開発教育協議会 国際理解教育センター
株カメラ東京サービス 株世界文化フォト

制作ディレクター●福澤郁文

デザイン●株design FF 永野武宏 渡辺恭子

表紙デザイン●株ユニゾン

イラストレーション●加藤順子 立岡正聡 佐久間広巳

印刷所●サンメッセ株式会社



JICA
Japan
International
Cooperation
Agency
国際協力事業団

